



平成31／令和元年度

Shizuoka City Museum of Art ANNUAL REPORT 2019

静岡市美術館年報 No.10

目次

1. 基本理念・沿革	
1-1 基本理念	3
1-2 沿革	3
1-3 平成31/令和元(2019)年度事業一覧	4
2. 展覧会事業	
2-1 小倉遊亀と院展の画家たち展 滋賀県立近代美術館所蔵作品による	6
2-2 オーバリン大学アレン・メモリアル美術館所蔵 メアリー・エインズワース浮世絵コレクション-初期浮世絵から北斎・広重まで	13
2-3 印象派への旅 海運王の夢 バレル・コレクション	23
2-4 Daiichi-TV開局40周年記念 奇蹟の芸術都市バルセロナ展	29
2-5 不思議の国のアリス展	37
3. 交流事業(教育普及事業)	
3-1 交流事業	47
1)Shizubi シネマアワー/2)しずびオープンアトリエ/3)しずびチビッコプログラム/4)暦とあそぶワークショップ/5)プレゼントワー クショップ/6)夜店市	
3-2 連携事業	53
1)ミュージアム教室・展示解説/2)めぐりアート静岡2019/3)生涯学習センター・静岡市美術館連携事業「しずび出前講座」/4)静岡・ 音楽館×科学館×美術館共同事業(三館共同事業)/5)2020しずおか文化プロジェクト/6)その他施設との連携	
4. 受託事業等	
4-1 受託事業等	59
1)「旧五十嵐邸・竹久夢二」展/2)静岡市清水文化会館マリナート常設展示「平野富山-清水が生んだ彩色木彫の名匠」	
5. 調査研究・研修受入等	
5-1 調査研究	61
5-2 博物館実習	62
5-3 視察等受入	62
6. 収蔵品・図書等	
6-1 収蔵品・画像貸出	63
6-2 図書等	63
7. 広報活動	
7-1 広報制作物	63
7-2 ウェブサイト	64
7-3 施設広報記録	65
8. 管理運営	
8-1 利用者数	66
8-2 過去展覧会一覧	70
8-3 静岡市美術館運営協議会	73
8-4 組織図・職員名簿	74
8-5 条例・施行規則	75
8-6 施設・建築概要	77

1. 基本理念・沿革

1-1 基本理念

静岡市美術館は、JR静岡駅北口の複合ビル「葵タワー」3階に、平成22年5月に開館、同年10月にグランドオープンしました。「人・地域が躍動する芸術文化の創造・発信」を基本理念に、展示室では、美術を主軸にデザインや工芸など幅広いジャンルの展覧会を開催します。

また、エントランスホールや多目的室、ワークショップ室などの「交流ゾーン」では、様々なアートシーンの紹介や講演会、ワークショップ、コンサート、美術映画の上映など普及事業を実施します。駅から徒歩3分という立地を活かし、誰もが気軽に立ち寄れる“ちょっと面白い街の中の広場”のような美術館を目指しています。

美術館ロゴマーク



美術館のロゴマークは、静岡、そして日本を象徴する富士山をモチーフにしています。重ねられた2つの円には、美術館を中心とした人の輪の広がり、地域と世界を結ぶイメージが表されています。また、視点と奥行きの変化による“視ることの楽しさ”にも気付かせてくれます。

デザイン：柿木原政広(アートディレクター /10inc)

1-2 沿革

平成18(2006)年

3月 「静岡市文化振興ビジョン」策定

平成19(2007)年

3月 「(仮称)静岡市立美術館 基本計画」策定
7月4日 「葵タワー」着工

平成20(2008)年

3月 「(仮称)静岡市立美術館運営実施計画」策定

平成21(2009)年

7月8日 美術館内装建築工事着工[内装設計：(株)丹青研究所、内装建築工事：(株)木内建設]
7月16日 静岡市美術館条例制定
11月12日 静岡市美術館条例施行規則制定

平成22(2010)年

3月24日 静岡市が(財)静岡市文化振興財団を指定管理者に指定
4月1日 「葵タワー」オープン
5月1日 静岡市美術館開館・完成記念式典開催
9月30日まで展覧会関連事業および交流事業を実施
10月1日 静岡市美術館グランドオープン記念式典開催
10月2日 開館記念展<I> 「ポーラ美術館コレクション展 印象派とエコール・ド・パリ」開催(-11月28日)

平成23(2011)年

5月9日 美術館のロゴマークなどヴィジュアル・アイデンティティーが世界3大広告賞のひとつ「The One Show 2011」の銀賞を受賞

平成24(2012)年

1月4日 美術館エントランスホールに漆芸作品「東海道五十三次ひとめ図」設置、除幕式開催

平成25(2013)年

9月14日 来館100万人達成記念式典を実施

平成26(2014)年

5月2日 静岡県教育委員会より博物館相当施設に指定

平成27(2015)年

3月20日 静岡市が(公財)静岡市文化振興財団を第Ⅱ期指定管理者に指定
5月1日 静岡市美術館開館5周年

平成29(2017)年

8月18日 展覧会観覧者100万人達成

令和元(2019)年

10月10日 来館300万人達成記念式典を実施

※過去展覧会一覧は、70-72頁を参照。

1-3 平成31/令和元(2019)年度事業一覧

		展覧会	交流事業	
平成31年	4月	小倉遊亀と院展の画家たち展 滋賀県立近代美術館所蔵作品による 4月6日-5月26日<開館44日間>	27日 暦とあそぶワークショップ vol.18「こどもの日の準備をしよう！」	
令和元年 (2019年)	5月		オーバリン大学アレン・メモリアル美術館所蔵 メアリー・エイズワース浮世絵コレクション -初期浮世絵から北斎・広重まで 6月8日-7月28日<開館44日間>	3日 Shizubiシネマアワー vol.24『天心』 11日 プレゼントワークショップ vol.27「母の日だ！親子でプレゼントをつくろう」 25日 しずびチビッコプログラム①
	6月	15日 プレゼントワークショップ vol.28「父の日だ！親子でプレゼントをつくろう」 23日 しずびチビッコプログラム②		
	7月			
	8月	9日 しずびオープンアトリエ「絵画を立体化！紙ジオラマ『立版古』をつくろう」(-18日) 10日 夜店市(-12日) 24日 しずびチビッコプログラム③		
	9月	印象派への旅 海運王の夢 バレル・コレクション 8月7日-10月20日<開館65日間>		
	10月	20日 めぐるりアート静岡 岩野勝人 ワークショップ①「くもならべ」 22日 めぐるりアート静岡 小左誠一郎(-11月10日)		
	11月	3日 めぐるりアート静岡 岩野勝人 ワークショップ②「色とカタチと空間、そして光」(-4日) 30日 Shizubiシネマアワー vol.25 ①『創造と神秘のサグラダ・ファミリア』		
	12月	Daiichi-TV開局40周年記念 奇蹟の芸術都市バルセロナ展 11月15日-1月19日<開館55日間>		1日 Shizubiシネマアワー vol.25 ②『もしも建物が話せたら』 7日 プレゼントワークショップ vol.29「クリスマスの準備をしよう！」 子ども編 8日 同 大人編
令和2年 (2020年)	1月			
	2月	不思議の国のアリス展 2月1日-3月29日<開館50日間>	22日 しずびオープンアトリエ「アリスの飛び出すカードをつくろう！」(-23日)	
	3月			

2. 展覧会事業 目次

2-1 小倉遊亀と院展の画家たち展 滋賀県立近代美術館所蔵作品による	6
2-2 オーバリン大学アレン・メモリアル美術館所蔵 メアリー・エインズワース浮世絵コレクション－初期浮世絵から北斎・広重まで	13
2-3 印象派への旅 海運王の夢 バレル・コレクション	23
2-4 Daiichi-TV開局40周年記念 奇蹟の芸術都市バルセロナ展	29
2-5 不思議の国のアリス展	37

2. 展覧会事業

2-1 小倉遊亀と院展の画家たち展 滋賀県立近代美術館所蔵作品による

会期：4月6日(土)～5月26日(日)

概要：明治31年(1898)、岡倉天心によって東京・谷中に設立された日本美術院は、天心没後の大正3年(1914)に再興された。美術院の展覧会(院展)は一貫して新たな日本画創造の場となり、横山大観、菱田春草、安田靉彦、今村紫紅、小林古徑、速水御舟ら個性豊かな画家たちが意欲作を次々と発表した。彼らの創意工夫の軌跡は、まさに近代日本画の歩みといえよう。
滋賀県大津市出身の小倉遊亀(1895-2000)は、25歳で安田靉彦に師事、以後院展の先輩たちに感化されつつ研鑽を積み、105歳で没するまでひたむきに描き続けた。伝統に学びながらも、時代に合った新しい感覚を備えた彼女の作品は、その明るさと力強さ、気品の高さをもって今日もなお人々を魅了してやまない。本展は、滋賀県立近代美術館の名品により、小倉遊亀の芸術の精華とそれを育んだ日本美術院の俊英たちの活躍を辿った。

巡回先：島根県立美術館、富山県水墨美術館

主催：静岡市、静岡市美術館 指定管理者(公財)静岡市文化振興財団、NHK静岡放送局、NHKプラネット中部

特別協力：滋賀県立近代美術館

協力：日本美術院

制作協力：NHKプロモーション

後援：静岡市教育委員会、静岡県教育委員会

観覧料：一般 1,200円(1,000円)

大高生・70才以上 800円(600円)

※()内は前売および20名以上の団体料金

※中学生以下無料

※障害者手帳等をご持参の方および介助者原則1名は無料

※2回目以降、本展有料観覧券半券提示で当日券200円引きとなるリピーター割引を実施

観覧者数：12,009人(有料8,028人、無料3,981人、有料率66.85%)

出品点数：108点

制作物：

1)チラシ

<仕様>紙：b7トラネクスト 99kg

サイズ・数量：A4 55,000部

2)ポスター

<仕様>紙：グラディアCoC 120.5kg

サイズ・数量：B1 60部、B2 2,050部、B3 2,800部(うち400部はJR帯つき)



チラシ表面



チラシ裏面



B1・B2ポスター



B3ポスター

カタログ：

<仕様>227×281mm、253頁



カタログ表紙

カラー図版213点

参考図版(カラー1点、モノクロ31点)

國賀由美子「滋賀県立近代美術館 日本画コレクション形成と、
展覧会の歩み—小倉遊亀と日本美術院を中心に—」

田野葉月「コラム1 赤曜会」

田野葉月「コラム2 院展画家と地方逗留」

山口真有香「コラム3 日本画作品の下絵について」

山口真有香「コラム4 院展の画家たちと古典芸能」

大原由佳子「近代日本画における古画学習—滋賀県立近代美術館
収蔵品を例に—」

山本香瑞子「小倉遊亀の言葉と制作」

作品解説／作家解説／出品作家生没年表／関連年表／主要参考文献
目録／出品目録

編集：静岡市美術館、島根県立美術館、富山県水墨美術館、滋賀
県立近代美術館、NHKプロモーション

翻訳：まい子・ベア

校正：木村しのぶ(株式会社福本事務所)

発行：NHKプロモーション

発行年：2019年

普及ツール：

1)鑑賞ガイド

日本画に関心を持ってもらうため、作品の注目ポイントや日本美術院の画家たちの紹介、日本画の簡単な基礎知識などを記した鑑賞ガイドを作成、静岡市内の小学生高学年と中学生に全校配布した。

制作物：

◆鑑賞ガイド

<仕様>紙：上質紙 90kg

サイズ・加工・数量：

210×445.5mm (仕上210×148.5mm)巻き三つ折り35,000部



鑑賞ガイド 表面



鑑賞ガイド 裏面

2)プレミアムフライデーでの粗品プレゼントの実施

会期中のプレミアムフライデーにあわせ、15時以降の入場者に粗品を進呈した。

実施日：4月26日(金)

利用者数：60件

3)10連休特典

10連休の誘客および話題作りのため、各日先着50名の観覧者に、展覧会オリジナル絵はがきを贈呈。開館記念日の5月1日には美術館オリジナル缶バッジも合わせてプレゼントした。

実施日：4月27日(土)～5月6日(月・振休)

各種連携：

1)近隣店舗との連携

葵タワー内および近隣店舗で、展覧会入場者へ優待サービスを行った。

制作物：

◆チラシ

<仕様>紙：マットコート 70kg
サイズ・数量：A4 4,000部



協賛チラシ表面



協賛チラシ裏面

主要広報記録：

1)テレビ・ラジオ

- ・「展覧会紹介」FM-Hi!『chalchalサタデー 静岡ドライブインフォメーション』、4月13日放送。
- ・「展覧会紹介」TOKAIケーブルネットワーク『トコちゃんワイド』、4月19日放送。
- ・「展覧会紹介」NHK Eテレ『日曜美術館アートシーン』、4月21日放送。
- ・「NEWS UP:小倉遊亀と院展の画家たち展」NHK静岡放送局『たっぷり静岡』、4月23日放送。
- ・「展覧会紹介」NHK静岡放送局『ひる・しず』、5月9日放送。

2)新聞

- ・「小倉遊亀と院展の画家たち モダンな作品生んだ近代美術の巨匠」『岳南朝日新聞』、3月30日。
- ・「小倉遊亀中心に日本画名作紹介」『静岡新聞』、4月10日。

3)雑誌他

- ・「遊亀の作風に影響を与えた日本画壇の俊英たちが集結」『時空旅人』、3月号増刊。
- ・「展覧会紹介」『和楽』、4・5月号。
- ・「展覧会紹介」『ひととき』、4月号。
- ・「展覧会紹介」『にぎょう日本』、4月号。
- ・「展覧会紹介」『家庭画報』、5月号。
- ・「展覧会紹介」『月刊絵手紙』、4月号。
- ・「展覧会紹介」『潮』、4月号。
- ・「展覧会紹介」『Seoul Art Guide 서울아트 가이드(ソウルアートガイド)』、4月号。
- ・「展覧会紹介」『美術屋・百兵衛 2019年春号』、vol.49。
- ・「展覧会紹介」『和楽』、6・7月号。
- ・「展覧会紹介」『ホットペッパー』、5月号。
- ・「小倉遊亀と院展の画家たち展 26日まで 静岡市美術館」『富士ニュース』、第21872号。

4)ウェブサイト等(媒体名のみ記載)

「インターネットミュージアム」、「ウェブ版「美術手帖」」、「ダイヤモンドソサエティ」、「アートアジェンダ」、「アーティストナビ」、「OBIKAKE」、「びあポイント」、「しずぎんSTATION」、「和楽WEB」、「アットエス」、「ウェブマガジンきんぼう」



関連事業：

1)講演会①「小倉遊亀と滋賀県立近代美術館」

概要：元・滋賀県立近代美術館の学芸員で、大谷大学教授の國賀由美子氏を講師に招き、小倉遊亀の画業と滋賀県立近代美術館の所蔵品についてお話しいただいた。遊亀の画業と長年向き合ってきた講師ならではの豊富なエピソードを交え、遊亀の生涯と作風展開、遊亀に影響を与えた師について、遊亀の美術館に対する考え方についてなどがわかりやすく示された。

日時：4月14日(日)14:00-15:30

会場：多目的室 参加者数：82人

講師：國賀由美子氏(本展監修者、大谷大学教授)



2)講演会②「近代日本画の材料と表現」

概要：日本画家であると同時に、日本画材料の近代史の第一人者でもある講師を招き、技法・材料と表現という視点から近代の日本画についてお話しいただいた。西洋の顔料や、日本で新たに合成された新顔料の登場による日本画表現の変遷がわかりやすく示され、画家の意図や心情にまで踏み込んだ制作者ならではの語り口で好評を得た。

日時：5月18日(土)14:00-15:30

会場：多目的室 参加者数：84人

講師：荒井経氏(東京藝術大学大学院教授)



3)当館学芸員によるギャラリートーク

概要：展覧会に対する理解を深めるため、当館学芸員によるギャラリートークを会期中実施した。

日時：①4月20日(土) ②5月6日(月・振休)

いずれも14:00-

会場：展示室 参加者数：計72人

参加料：展覧会観覧料



出品作品リスト

・欠番は当館では未出品。
 ・次の作品は滋賀県立近代美術館寄託：No.16、19、37、49、143(個人蔵)(○印)、
 No.70(京都大学人文科学研究所)(△印)、No.93(滋賀県立大津高等学校同窓会)(□
 印)、それ以外はすべて滋賀県立近代美術館の所蔵。
 ・作品保護のため、会期中展示替えを行った。【前期】4月6日(土)～29日(月・祝)【後期】5月1
 日(水・祝)～26日(日)

第1章 院展再興への道

番号	作家名	作品名	制作年	材質・技法	員数	展示期間
1	横山大観	月下牧童	明治34頃	絹本着色	一幅	前期
2	横山大観	夕映	明治35頃	絹本着色	一面	前期
3	横山大観	帰帆	明治38	絹本着色	一面	後期
5	横山大観	鳩之浦絵巻	大正7	紙本墨画	一卷	前期
6	横山大観	洛中洛外雨十題 八幡緑雨	大正8	絹本着色	一幅	後期
8	菱田春草	雪後の月	明治35	絹本着色	一幅	前期
9	菱田春草	雪の山	明治42頃	絹本着色	一幅	後期
10	菱田春草	落葉	明治42	絹本着色	二曲一隻	後期
11	下村観山	鸚鵡図	明治34	紙本金地著色	六曲一双	前期
12	下村観山	観音図	明治44頃	絹本着色	一幅	前期
14	木村武山	花木図	大正4頃	紙本金地著色	二曲一双	後期
15	西郷孤月	山水図	—	絹本墨画	一幅	後期
○ 16	西郷孤月	月夜山水図	明治期	絹本着色	一幅	前期
17	安田靫彦	静訣別之図	明治40頃	絹本着色	一幅	前期
○ 19	安田靫彦	宝の月	明治期	絹本着色	一幅	後期
20	今村紫紅	草蘆三顧	明治44	絹本着色	一幅	後期
21	今村紫紅	箱根山	明治45	紙本淡彩	一幅	前期
22	今村紫紅	江頭春	大正2	絹本着色	一幅	前期
23	今村紫紅	柿の秋	大正4頃	絹本着色	一幅	後期
24	富田溪仙	宇治川之巻 木幅	大正4	絹本着色	一卷	後期
25	富田溪仙	遊鹿図	大正8頃	絹本着色	一幅	後期
26	富田溪仙	西王母	大正9	紙本着色	一幅	後期
27	富田溪仙	列仙	大正9	紙本着色	二曲二双	前期
28	富田溪仙	柳蔭観月図	大正9	絹本着色	一幅	後期
32	北野恒富	鏡の前	大正4	絹本着色	一面	後期
33	北野恒富	暖か	大正4	絹本着色	一面	後期

第2章 院展の発展と小倉遊亀

番号	作家名	作品名	制作年	材質・技法	員数	展示期間
34	速水御舟	洛北修学院村	大正7	絹本着色	一面	前期
35	速水御舟	洛北修学院村 関連小下絵・写生	大正7	紙本鉛筆・水彩 ・クレヨン	六面(小下絵 一面、写生五面)	前期
36	速水御舟	比叡山 スケッチ	大正7～8	紙本鉛筆	一面	後期
○ 37	速水御舟	菊花図	大正10	紙本金地著色	四曲一双	後期
38	速水御舟	菊 写生帳	大正9	紙本鉛筆・水彩	一冊	通期
39	速水御舟	遊魚	大正11	絹本着色	一幅	前期
40	小茂田青樹	四季草花図 冬・夏	大正8	紙本着色	六曲一双	前期
41	小茂田青樹	出雲嵩山冬景図	大正11	絹本着色	一面	後期

番号	作家名	作品名	制作年	材質・技法	員数	展示期間
42	小茂田青樹	秋草に少女 画稿	大正14	紙本着色	一幅	後期
44	牛田雞村	滋賀の里	大正9	絹本着色	一幅	前期
45	山村耕花	節季候	大正中期	絹本着色	一幅	後期
46	中村岳陵	雪路	大正5頃	絹本着色	一幅	前期
47	中村岳陵	黄昏時	大正10頃	絹本着色	一幅	後期
○ 49	安田毅彦	香具山	大正6頃	絹本着色	一幅	前期
50	安田毅彦	西廂待月	大正15	絹本着色	一幅	後期
51	小林古徑	竹取物語 難破	大正6	紙本着色	一面	後期
54	小倉遊亀	首夏	昭和3	絹本着色	二曲一隻	前期
55	小倉遊亀	故郷の人達	昭和4	紙本着色	二曲一隻	後期
57	小倉遊亀	受洗を謳う	昭和11	紙本着色	二曲一隻	前期
58	小倉遊亀	観世音菩薩	昭和16	絹本着色	一面	後期
60	小倉遊亀	夏の客	昭和17	絹本着色	一面	前期
61	小倉遊亀	春日	昭和17	絹本着色	一面	通期
62	小倉遊亀	磨針峠	昭和22	紙本着色	二曲一双	後期
63	小倉遊亀	少将滋幹の母 挿画・口絵・カット他	昭和24～25	口絵 紙本着色 挿絵 紙本墨画	一面 八十八面	通期
65	小倉遊亀	窓辺	大正13	絹本着色	一面	後期
67	小倉遊亀	胡瓜	昭和3頃	絹本着色	一幅	前期
68	小倉遊亀	山茶花	昭和5頃	絹本着色	一面	前期
△ 70	小倉遊亀	花 其二	昭和9	絹本着色	一面	後期
73	小倉遊亀	花屑	昭和25	紙本着色	一面	前期
74	小倉遊亀関連資料	呉須赤絵鉢	—	陶器	一点	通期
75	小倉遊亀	娘	昭和26	紙本着色	一面	前期
77	小倉遊亀	家族達	昭和33	紙本着色	一面	後期
78	小倉遊亀	家族達	昭和34	紙本着色	一面	後期
79	小倉遊亀	憩う	昭和35	紙本着色	一面	前期
80	小倉遊亀	画人像	昭和37	紙本着色	一面	後期
81	小倉遊亀	少女	昭和38	紙本着色	一面	前期
82	小倉遊亀	兄妹	昭和39	紙本着色	一面	前期
84	小倉遊亀	佳器	昭和31	紙本着色	一面	通期
85	小倉遊亀	葡萄	昭和34	紙本着色	一面	後期
86	小倉遊亀	盛られた花	昭和38	紙本着色	一面	前期
88	小倉遊亀	観自在	昭和43	紙本着色	一面	前期
89	小倉遊亀	姉妹	昭和45	紙本着色	一面	後期
91	小倉遊亀	細雪 挿絵	昭和45頃	紙本着色	九面	通期
92	小倉遊亀	紅梅白壺	昭和46	紙本着色	一面	後期
□ 93	小倉遊亀	瓶花	昭和47	紙本着色	一面	後期
94	小倉遊亀	聴く	昭和49	紙本着色	一面	後期

番号	作家名	作品名	制作年	材質・技法	員数	展示期間
95	小倉遊亀	青巒	昭和51	紙本着色	一面	前期
96	小倉遊亀	雪	昭和52	紙本着色	一面	通期
97	小倉遊亀	或る御神像	昭和53	紙本着色	一面	後期
100	小倉遊亀	菩薩	昭和54	紙本着色	一面	通期
101	小倉遊亀	厨のもの(一)	昭和55	紙本着色	一面	前期
102	小倉遊亀	厨のもの(二)	昭和55	紙本着色	一面	前期
103	小倉遊亀	厨のもの(三)	昭和55	紙本着色	一面	前期
105	小倉遊亀	うす霜	昭和59	紙本着色	一面	前期
106	小倉遊亀	花三題	昭和60	紙本着色	三面	前期
107	小倉遊亀	花と果物	昭和61	紙本着色	三面	後期
109	小倉遊亀	古陶磁と青柿・白桃・マンゴーなど	昭和63	紙本着色	三面	後期
110	小倉遊亀	紅白紫黄	平成元	紙本着色	一面	通期
111	小倉遊亀	半夏生	平成2	紙本着色	一面	前期
113	小倉遊亀	盛花	平成12	紙本着色	一面	後期

第3章 花開く院展芸術

番号	作家名	作品名	制作年	材質・技法	員数	展示期間
114	富田溪仙	祇園夜桜図	昭和初期	絹本着色	一幅	前期
119	富田溪仙	前赤壁図	昭和4頃	絹本着色	一幅	後期
122	富田溪仙	桜に山鳥図	昭和5頃	絹本着色	一幅	前期
127	富田溪仙	淀之水車図	昭和9頃	絹本着色	一幅	後期
129	富田溪仙	雲上鶴図	昭和10頃	絹本着色	二曲一双	後期
131	横山大観	木菟	昭和4頃	紙本墨画	一幅	前期
132	堅山南風	鎗夏帖 朝顔	昭和4	紙本着色	一面	前期
133	前田青邨	猫	昭和24	紙本着色	一幅	前期
134	前田青邨	浴女群像	昭和31	紙本着色	一面	後期
135	吉田善彦	桜	昭和40	紙本着色	一面	前期
138	奥村土牛	シルバー タビー	昭和41	紙本金地着色	一面	通期
139	速水御舟	鳴柿実	昭和4	絹本着色	一幅	後期
140	小林古径	浮舟	昭和10年代	紙本墨画	一幅	前期
141	中村岳陵	徳川光圀	昭和19	絹本着色	一面	後期
142	安田靫彦	晴花	昭和3	絹本着色	一幅	後期
○143	安田靫彦	観世音菩薩像	昭和20年代頃	絹本着色	一幅	前期
144	安田靫彦	紅梅	昭和36	紙本着色	一面	前期
145	安田靫彦	紅白椿	昭和39	紙本着色	一面	後期
146	安田靫彦	飛鳥の春の額田王	昭和39	紙本着色	一面	前期
147	安田靫彦	卑弥呼	昭和43	紙本着色	一面	後期
148	安田靫彦	飛鳥大仏と止利仏師	昭和46	紙本着色	一面	前期
149	安田靫彦	鞍馬寺参籠の牛若	昭和49	紙本着色	一面	後期

2-2 オーバリン大学アレン・メモリアル美術館所蔵
メアリー・エインズワース浮世絵コレクション
- 初期浮世絵から北斎・広重まで

会期：6月8日(土) - 7月28日(日)

概要：アメリカ・オハイオ州オーバリン大学のアレン・メモリアル美術館には、メアリー・エインズワース(1867-1950)が約25年にわたり集めた1500点以上の浮世絵版画が所蔵されている。明治39年(1906)の来日を機に収集が始まったこのコレクションは、貴重な初期浮世絵も多く、今のところ世界で1点しか知られていない作品も含まれている。当時から目利きの米国女性として知られ、コレクションの過半数を占める歌川広重、世界的にも人気の高い葛飾北斎のほか、菱川師宣や鈴木春信、鳥居清長、喜多川歌麿、東洲斎写楽といった六大浮世絵師が揃い、浮世絵の歴史を辿ることもできる。

本展は、これまでアメリカでもほとんど紹介されたことはなかった珠玉の200点を選びすぐって日本で紹介する初めての里帰り展であった。

巡回先：千葉市美術館、大阪市立美術館

主催：静岡市、静岡市美術館 指定管理者(公財)静岡市文化振興財団、テレビ静岡、中日新聞東海本社

共催：オーバリン大学 アレン・メモリアル美術館

後援：静岡市教育委員会、静岡県教育委員会

助成：公益財団法人 花王 芸術・科学財団

協力：日本航空

企画協力：マンガステイン

観覧料：一般 1,200円(1,000円)
大高生・70才以上 800円(600円)
※()内は前売および20名以上の団体料金
※中学生以下無料
※障害者手帳等をご持参の方および介助者原則1名は無料

観覧者数：22,589人(有料16,316人、無料6,273人、有料率72.23%)

出品点数：207点(参考出品7点を含む)

制作物：

1)チラシ

<仕様>紙：b7バルキー 90.5kg

サイズ・数量：A4 55,000部

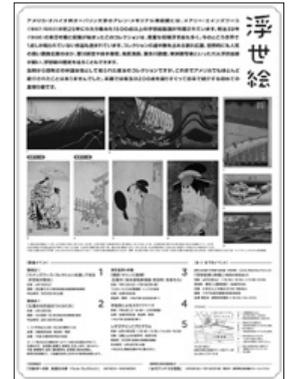
2)ポスター

<仕様>紙：テイクGA-FS 135kg

サイズ・数量：B1 50部、B2 2,050部、B3 2,800部(うち400部はJR帯つき)



チラシ表面



チラシ裏面



B1・B2ポスター



B3ポスター

カタログ:

<仕様>226×308mm、279頁

カラー図版200点

参考図版(カラー28点、モノクロ10点)



カタログ表紙

ケビン・グリーンウッド「エッセイ1 永遠の遺産－メアリー・エインズワース・コレクション」

田辺昌子「エッセイ2 メアリー・エインズワース・コレクションが語る浮世絵版画の歴史」

ヘレン・ミツ・ナガタ「エッセイ3 浮世絵を読む－解釈を考える」

秋田達也「コラム1 エインズワースの集めた北斎」

大石沙織「コラム2 「大はしあたけの夕立」の彫・摺の違いにみる広重の風景表現」

松岡まり江「コラム3 「古今東西浮世絵数寄者総番付」にみる黎明期の日本・欧米の浮世絵収集」

主要絵師解説／本展開連年表／主要参考文献／出品目録

制作・発行：マンゴスティン

発行年：2019年

普及ツール:

1)音声ガイド

2)鑑賞ガイド

メアリー・エインズワースやコレクションの特徴、作品の見どころをわかりやすく解説した鑑賞ガイドを作成し、市内の小学5年生から中学生の児童・生徒に配布、館内でも配架した。

制作物:

◆鑑賞ガイド

<仕様>紙: b7バルキー 81.5kg

サイズ・加工・数量:

210×592mm(仕上210×148mm)、ジャバラ三つ折り

40,000部



鑑賞ガイド表面



鑑賞ガイド中面

3)解説パネルの作成

浮世絵をはじめてみる来館者にもわかりやすいよう教育普及的観点から、絵暦の図解や用語解説、年表なども静岡独自で作成し、掲出した。

4)プレミアムフライデーでの粗品プレゼントの実施

会期中のプレミアムフライデーにあわせ、15時以降の入場者に粗品を進呈した。

実施日: ①6月28日(金) ②7月26日(金)

利用者数: ①73件 ②208件

各種連携:

1)近隣店舗との連携

葵タワー内および近隣店舗で、展覧会入場者へ優待サービスを行った。

制作物:

◆チラシ

<仕様>紙: マットコート 70kg

サイズ・数量: A4 4,000部



協賛チラシ表面



協賛チラシ裏面

2)静岡市東海道広重美術館との相互割引の実施

当館で広重美術館の半券を提示すると、広重グッズ(クリアファイル、絵葉書)をプレゼント、広重美術館で当館の半券を提示すると団体割引を適用する相互割引を会期中実施した。

利用者数: 69人



7月5日 来場者1万人達成

主要広報記録：

1)テレビ・ラジオ

- ・「展覧会紹介」NHK Eテレ『日曜美術館アートシーン』、5月5日放送。
- ・「世界に1点の作品も 浮世絵展あす開幕」テレビ静岡『Live News it』、6月7日放送。
- ・「展覧会紹介」FM-Hi!『chalchalサタデー 静岡ドライブインフォメーション』、6月15日放送。
- ・「展覧会紹介」FM-Hi!『ひるラジ静岡情報館 airport769』、6月20日放送。
- ・「アメリカ人女性が収集 浮世絵コレクション 来場者1万人」テレビ静岡『ただいま!テレビ』、7月5日放送。

2)新聞

- ・瀬田貴嗣「浮世絵の名作一堂に 富嶽三十六景、東海道五十三次など200点 8日から静岡市美術館」『中日新聞』静岡版、6月6日。
- ・大石沙織「美しい摺り 歴史たどる あす静岡市美術館で開幕」『中日新聞』静岡版、6月7日。
- ・瀬田貴嗣「浮世絵 時代ごとに進化 開幕前に式典と内覧会」『中日新聞』静岡版、6月8日。
- ・瀬田貴嗣「“里帰り浮世絵”見てみたい 静岡市美術館で企画展始まる」『中日新聞』静岡版、6月9日。
- ・大石沙織「市松模様」評判に 石川豊信「提灯と傘を持つ佐野川市松」『中日新聞』静岡版、6月18日。
- ・大石沙織「奇知に富んだ作品 鈴木春信「縁先美人(見立無間の鐘)」」『中日新聞』静岡版、6月19日。
- ・大石沙織「女性の心情も表現 喜多川歌麿「婦人相学十帖 面白キ相」」『中日新聞』静岡版、6月20日。
- ・大石沙織「雨雲も届かぬ高嶺 葛飾北斎「富嶽三十六景 山下白雨」」『中日新聞』静岡版、6月21日。
- ・大石沙織「摺り比較 版画の妙 歌川広重「名所江戸百景 両国花火」」『中日新聞』静岡版、6月22日。
- ・瀬田貴嗣「摺りの美しさ 圧巻 28日まで 静岡市美術館」『中日新聞』静岡版、7月5日。
- ・「編集日誌」『中日新聞』静岡版、7月5日。
- ・瀬田貴嗣「浮世絵展 入場1万人 静岡市美術館 吉田町の2人に記念品」『中日新聞』静岡版、7月6日。
- ・山本碧「個性的な亡霊 笑い誘う 歌川国芳「大物浦平家の亡霊」」『中日新聞』静岡版、7月10日。
- ・森本直子「陶器をおもわせる上品さ 葛飾北斎「小禽に虻」」『中日新聞』静岡版、7月11日。
- ・大庭千恵子「人気役者 美しい立ち姿 歌川豊国「役者舞台之姿 絵きのくにや」三代目沢村宗十郎」『中日新聞』静岡版、7月12日。
- ・「メアリー・エインズワース 浮世絵コレクション 7月28日(日)まで静岡市美術館」『中日新聞』静岡版、7月13日。
- ・三浦一久「「見立唐人行列」歌麿大判錦絵「里帰り」展示 静岡市美術館、28日まで」『下野新聞』、7月26日。

3)雑誌他

- ・「2019年、これだけは見ておきたい美術展[番外編4] 浮世絵うきうき」『芸術新潮』、12月号。
- ・「メアリー・エインズワース 浮世絵コレクション 米国女性コレクターの希少作・名作・優品浮世絵ずらり」『美術展びあ2019(ぴあMOOK)』。
- ・「貴重な浮世絵コレクションがアメリカからはじめての里帰り!」『美術の窓』、1月号。
- ・「展覧会紹介」『にぎょう日本』、4月号。
- ・「メアリー・エインズワース 浮世絵コレクション 米国女性コレクターの希少作・名作・優品浮世絵ずらり」『美術展&美術館び

あ2019(ぴあMOOK)』。

- ・「展覧会紹介」『和楽』、6・7月号。
- ・「展覧会紹介」『一個人』、6月号。
- ・「展覧会紹介」『ザ・マイカー』、7月号。
- ・「展覧会紹介」『ひととき』、6月号。
- ・「展覧会紹介」『婦人公論』、6月号。
- ・「日本初!世界で1点の貴重な浮世絵も メアリー・エインズワース 浮世絵コレクション」『歴史人』、7月号。
- ・「展覧会紹介」『月刊 目の眼』、7月号。
- ・「展覧会紹介」『和楽』、8・9月号。
- ・「展覧会紹介」『MyAge』、2019 夏号。
- ・「美術散歩 アメリカ人コレクターの浮世絵コレクション展」『富士ニュース』、第21896号。

4)ウェブサイト等(媒体名のみ記載)

「しずぎんSTATION」、「ウェブマガジン きんぽう」、「ホルベインアーチストナビ」、「美術手帖ウェブ版「ART NAVI」」、「アットエス」、「ぴあポイント」、「OBIKAKE」、「美術展ナビ「『ポケモン』で読み解く、話題の1点!」、「テレビ静岡YouTubeチャンネル」



関連事業：

1)講演会①「エイズワース・コレクションを通して知る浮世絵の歴史」

概要：浮世絵研究の第一人者であり数々の浮世絵展を開催した田辺氏を講師に招き、浮世絵の歴史についてお話しいただいた。はじめにエイズワースの収集が初期浮世絵から始まっていることに触れ、コレクターの中でも稀有であり、学究的なコレクションであると説明された。続いて、初期浮世絵の技法や、鈴木春信らによる錦絵の誕生、北斎・広重に至るまで、浮世絵版画がどのように発達、発展していったのかなどが解説された。エイズワースコレクションの作品を例示しながら浮世絵を通史で辿る充実した内容であり、わかりやすく親しみやすい語り口で好評を得た。

日時：6月15日(土)14:00-15:30

会場：多目的室 参加者数：93人

講師：田辺昌子氏(千葉市美術館副館長兼学芸課長)

主要広報記録：

◆新聞

・牧野新「本当に貴重な機会」静岡市美術館で講演』『中日新聞』静岡版、6月16日。



2)講演会②「広重の名所絵のつくられ方」

概要：浮世絵の特に広重研究の第一人者である大久保氏を講師に招き、広重の名所絵がどのように作られたのかをお話しいただいた。まず浮世絵における風景画の登場と展開について解説したあと、広重の名所絵について、透視図法や空気遠近法などの遠近法に加え、四季や天候、光といった情趣を持たせる表現に長けていたことや、空間認識力の高かったこと、名所を描く際に当時の人々の持つ共通認識を積極的に絵画に取り入れ視覚化したことなど、多様な視点から広重の風景画の手法を読みといた。さまざまな作品や資料を提示しながらわかりやすく解説し好評を得た。

日時：6月30日(日)14:00-15:30

会場：多目的室 参加者数：117人

講師：大久保純一氏(国立歴史民俗博物館教授)

主要広報記録：

◆新聞

・岸友里「遠近の技 広重卓越 静岡市美術館「浮世絵」講演」『中日新聞』静岡版、7月1日。



3)当館学芸員によるスライドトーク

概要：展覧会に対する理解を深めるため、当館学芸員によるスライドトークを会期中実施した。

日時：7月6日(土)14:00-

会場：多目的室 参加者数：85人

参加料：無料



4)浮世絵摺り体験「摺師(すりし)に挑戦！ 広重の《保永堂版東海道四日市》を摺ろう」

概要：錦絵(多色摺木版画/浮世絵)がどのようにして作られているのかを体験するワークショップである。出品作のうち、歌川広重「東海道五十三次之内 四日市」の部分図(はがきサイズ)を主版1版、色版3版の計4版摺り重ねた。浮世絵は版木の隅に小さく彫られた見当(ガイド)により、何版摺り重ねても色がずれずに摺り上がる。そうした浮世絵の技術を紹介するため、参加者にははじめにワークショップの趣旨や見当について簡単に解説し、浮世絵の摺り方をデモンストレーションした。続いて、実際に4版を摺り重ね、摺る際の力加減や絵の具の配分、色をずらさずに摺る難しさなどを体験した。子どもから大人まで幅広い年齢層が参加し、中には開始の1時間前から待つ参加者がいるなど、浮世絵に対する関心の高さが窺えた。

日時：7月13日(土)～15日(月・祝)13:00～16:30の間随時

会場：多目的室 参加者数：計310人

参加料：無料



5)2020しずおか文化プロジェクト/静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業

「浮世絵摺り体験」

※57頁を参照。

1 浮世絵の黎明 墨摺絵からの展開 The Dawn of Ukiyo-e: Developments after Ink Monochrome (Sumizuri-e) Prints

No.	絵師(生没)	作品名	版行年	技法等
1	(無款)菱川師宣(?-1694)	低唱の後	延宝(1673-81)後期	大判墨摺筆彩
2	(無款)菱川師宣(?-1694)	「上野花見の躰」仁王門	天和期(1681-84)頃	大判墨摺絵(彩色は後世)
3	(無款)菱川師宣(?-1694)	「上野花見の躰」花見の一行	天和期(1681-84)頃	大判墨摺絵
4	(無款)菱川師宣(?-1694)	蓮を採る天女と親子	天和期(1681-84)頃	大判墨摺絵
5	鳥居清信(?-?)	子どもを抱く美人	宝永期(1704-11)頃	大々判丹絵
6	鳥居清信(?-?)	雪中傘を差す遊女と侍女	正徳期(1711-16)頃	大々判墨摺筆彩
7	懐月堂度繁(?-?)	遊女図(波に片輪車模様)	正徳期(1711-16)頃	大々判墨摺絵
8	奥村政信(1686-1764)	羽根突きをする美人	宝永-正徳期(1704-16)	大々判墨摺絵
9	(無款)奥村政信(1686-1764)	「源氏 夕かほ」	宝永-正徳期(1704-16)	大判墨摺絵
10	奥村政信(1686-1764)	「七夕によるいもせ」	正徳期(1711-16)頃	大判墨摺絵
11	鳥居清信(?-?)	「げんぶく五郎」二代目市川団十郎 中村竹三郎	正徳5年(1715)	大判墨摺絵
12	鳥居清忠(?-?)	「二代目三楽勘太郎の箏弾く官女」	享保(1716-36)前期	細判漆絵
13	奥村利信(?-?)	「市川団十郎 ほめことば」	享保6-7年(1721-22)	細判漆絵
14	(無款)二代鳥居清信(1706-63)	「瀬川菊次郎 瀬川さくの丞」	享保(1716-36)後期	細判漆絵
15	二代鳥居清信(1706-63)	「団十郎 牛玉姫 いせ野」	享保12年(1727)	細判漆絵
16	二代鳥居清信(1706-63)	「大友真鳥 兼道」	享保12年(1727)絵暦	細判墨摺絵
17	近藤清春(?-?)	俵藤太の百足退治	享保16年(1731)絵暦	細判墨摺絵
18	西村重信(?-?)	釈迦涅槃図	享保(1716-36)後期	大短冊判漆絵
19	奥村政信(1686-1764)	鏡を見る美人	延享-寛延期(1744-51)	幅広柱絵判紅絵
20	西村重長(?-1756)	文を持つ佐野川市松	寛保2年(1742)頃	柱絵判紅絵
21	石川豊信(1711-85)	提灯と傘を持つ佐野川市松	延享-寛延期(1744-51)	柱絵判紅絵

2 色彩を求めて 紅摺絵から錦絵の時代へ On a Quest for Color: From Benizuri-e to the Era of Nishiki-e

No.	絵師(生没)	作品名	版行年	技法等
22	石川豊信(1711-85)	二代目坂東菊松の春駒	寛延2年(1749)頃	大判紅摺絵
23	石川豊信(1711-85)	佐野川市松と瀬川菊之丞の相合傘	宝暦(1751-64)初期	大判紅摺絵
24	奥村政信(1686-1764)	寒山拾得図	延享-寛延期(1744-51)	細判墨摺絵(石摺絵)
25	西村重長(?-1756)	旭日と梅に鶴	延享-宝暦(1744-64)前期	細判紅摺絵
26	奥村政信(1686-1764)	柳下で涼む遊女	宝暦期(1751-64)	細判紅摺絵
27	鳥居清広(?-?)	身支度をする母と子	宝暦(1751-64)前期	細判紅摺絵
28	鳥居清満(1735-85)	「竹田近江大極」からくり人形	宝暦期(1751-64)	大判紅摺絵
29	鳥居清満(1735-85)	母と子の遊び	宝暦期(1751-64)	大判(細判三丁掛)紅摺絵
30	鳥居清満(1735-85)	「足軽寺岡平右門 市村羽左衛門」	宝暦13年(1763)	細判紅摺絵
31	鳥居清満(1735-85)	「玉つくりの小町 尾上松助 はだの大膳武とら 大谷広次」	宝暦12年(1762)	細判紅摺絵
32	鈴木春信(1725?-70)	「もんがく上人 市川団十良 平の清もり 沢村宗十良」	宝暦12年(1762)	細判紅摺絵
33	北尾重政(1739-1820)	「ひさ松 坂東彦三良」	宝暦(1751-64)末期	細判紅摺絵
34	北尾重政(1739-1820)	「牛玉のまへ 市山七蔵」	明和(1764-72)後期	細判紅摺絵
35	鈴木春信(1725?-70)	天神図	宝暦(1751-64)末期	大判紅摺絵
36	鈴木春信(1725?-70)	「曾我五良時致 朝比奈三良義秀」	宝暦13年(1763)	大判紅摺絵
37	鳥居清満(1735-85)	「菅丞相」	明和(1764-72)初期	細判水絵
38	鈴木春信(1725?-70)	平忠盛と油坊主	明和(1764-72)初期	細判水絵
39	鈴木春信(1725?-70)	「柿本人麿」	明和(1764-72)初期	細判水絵

No.	絵師(生没)	作品名	版行年	技法等
40	鈴木春信(1725?-70)	「近江八景の内 石山秋月」	明和(1764-72)初期	細判錦絵
41	(無款)鈴木春信(1725?-70)	六玉川「調布の玉川」	明和4年(1767)頃	中判錦絵
42	鈴木春信(1725?-70)	縁先美人(見立無間の鐘)	明和4年(1767)頃	中判錦絵
43	鈴木春信(1725?-70)	紅葉を焚く仕丁	明和3-4年(1766-67)頃	中判錦絵
44	鈴木春信(1725?-70)	「いせ屋」	明和4年(1767)頃	中判錦絵
45	鈴木春信(1725?-70)	松風村雨	明和6-7年(1769-70)頃	中判錦絵
46	鈴木春信(1725?-70)	柄杓を持ち破れた文を見る遊客(見立無間の鐘)	明和6-7年(1769-70)頃	柱絵判錦絵
47	鈴木春信(1725?-70)	牡丹に錦鶏	明和(1764-72)後期 絵	柱絵判錦
48	鈴木春信(1725?-70)一筆斎文調(?-?)	やつし草摺曳	明和5-6年(1768-69)頃	中判錦絵
49	北尾重政(1739-1820)	見立鉢の木	明和(1764-72)末期頃	柱絵判錦絵
50	磯田湖龍齋(1735-?)	舞踊図	明和(1764-72)末- 安永(1772-81)初期	柱絵判錦絵
51	鳥居清長(1752-1815)	年始回礼の支度	安永(1772-81)初期	中判錦絵
52	鳥居清長(1752-1815)	松風村雨(汐汲み)	安永(1772-81)後期	中判錦絵
53	鳥居清長(1752-1815)	「市村羽左衛門」	安永3年(1774)頃	細判紅摺絵
54	鳥居清長(1752-1815)	「ひぐちの次良 大谷広次」	安永5年(1776)	細判紅摺絵
55	磯田湖龍齋(1735-?)	「風流五歳小供遊 義」	安永(1772-81)前期	中判錦絵

3 錦絵の興隆 黄金期の華 清長から歌麿へ The Rising Prosperity of "Brocade Prints" and the Flowering of a Golden Age: From Kiyonaga to Utamaro

No.	絵師(生没)	作品名	版行年	技法等
56	(無款)北尾重政(1739-1820)か	「青楼美人 寄名八景 江戸町一丁目扇子 屋内 たき川の帰帆」	安永(1772-81)後期	間判錦絵
57	北尾重政(北尾政演落款)	二人の芸者	安永(1772-81)中期	大判錦絵
58	鳥居清長(1752-1815)	「四季八景 初春晴嵐」	安永(1772-81)後期	中判錦絵
59	鳥居清長(1752-1815)	「四季八景 暮春晚鐘」	安永(1772-81)後期	中判錦絵
60	北尾政演(1761-1816)	「角田川八景 しほ入の夕照」	安永(1772-81)後期	中判錦絵
61	磯田湖龍齋(1735-?)	「靄屋内 新すがわら」	天明2年(1782)頃	柱絵判錦絵
62	鳥居清長(1752-1815)	「山王御祭礼 新大坂町 通油町 田所町 しやつきやう 華笠 踊りやたい」	安永9年(1780)	中判錦絵
63	鳥居清長(1752-1815)	「江戸八景 金龍山暮雪 愛宕秋の月」	安永(1772-81)後期	細判錦絵
64	勝川春章(1743-92)	五代目市川団十郎と山下金作	安永9年(1780)	間判錦絵
65	勝川春章(1743-92)	刀を持つ中村仲蔵と鏡を持つ中村里好	安永6年(1777)頃	間判錦絵
66	勝川春章(1743-92)	楽屋の二代目市川門之助と四代目岩井半四郎とその弟子	天明(1781-89)初期	大判錦絵
67	勝川春好(1743-1812)	三代目沢村宗十郎 中山小十郎 三代目市川八百蔵	天明6年(1786)	細判錦絵3枚続
68	勝川春章(1743-92)	谷風と小野川の立会を見る東西力士	天明2年(1782)	大判錦絵2枚続
69	勝川春章(1743-92)	「東方 関脇 阿州 虹ヶ嶽 右工門 前頭 小倉 筆ノ海金右衛門」	天明2-3年(1782-83)頃	大判錦絵
70	鳥居清長(1752-1815)	眉を装う芸者	天明(1781-89)初期	柱絵判錦絵
71	鳥居清長(1752-1815)	洗濯と張り物	天明(1781-89)後期	大判錦絵3枚続
72	鳥居清長(1752-1815)	(出語り図)二代目小佐川常世の梅川 四代目坂東又九郎の忠兵衛 中村勝五郎の孫右衛門	天明3年(1783)	大判錦絵
73	鳥居清長(1752-1815)	「碁太平記白石嘶 石堂やかたの段 切」	天明5年(1785)	中判錦絵
74	鳥居清長(1752-1815)	三代目沢村宗十郎の楠正行 嵐村次郎の弁の内侍	天明6年(1786)	大判錦絵
75	鳥居清長(1752-1815)	「戲童十二月」初午稲荷詣で	天明(1781-89)後期	中判錦絵
76	勝川春潮(?-?)	「深川八景 やぐら下のばんしやう」	天明(1781-89)後期	小判錦絵

No	絵師(生没)	作品名	版行年	技法等
77	勝川春潮(?-?)	三冊詣の芸者	寛政(1789-1801)前期	柱絵判錦絵
78	鳥文斎栄之(1756-1829)	「都八重之錦」三美人	天明(1781-89)末期	中判錦絵
79	鳥文斎栄之(1756-1829)	御殿山の花見	天明(1781-89)末期	大判錦絵2枚続(3枚続のうち)
80	鳥文斎栄之(1756-1829)	「風流やつし源氏 朝顔」	天明(1781-89)末期頃	大判錦絵3枚続
81	鳥文斎栄之(1756-1829)	遊興図	寛政(1789-1801)前期	大判錦絵3枚続
82	鳥文斎栄之(1756-1829)	花下御所車	寛政(1789-1801)前期	大判錦絵3枚続
83	鳥文斎栄之(1756-1829)	難波屋おきた	寛政4-5年(1792-93)頃	柱絵判錦絵
84	喜多川歌麿(?-1806)	「婦人相学十躰 面白キ相」	寛政4-5年(1792-93)頃	大判錦絵
85	喜多川歌麿(?-1806)	笠森おせんと高嶋おひさ	寛政6年(1794)頃	大判錦絵
86	喜多川歌麿(?-1806)	「当時遊君生写 松葉屋 染之助」	寛政11-12年(1799-1800)頃	大判錦絵
87	喜多川歌麿(?-1806)	「美人気量競 五明楼 花扇」	寛政6-7年(1794-95)頃	大判錦絵
88	鳥文斎栄之(1756-1829)	「略六花撰 黒主」	寛政(1789-1801)中期	大判錦絵
89	鳥文斎栄之(1756-1829)	「略六花撰 喜撰法師」	寛政(1789-1801)中期	大判錦絵
90	鳥高斎栄昌(?-?)	「郭中美人競 松葉屋内染之助」	寛政(1789-1801)中期	大判錦絵
91	一楽亭栄水(?-?)	「美人五節句 松葉屋うち染之助 わかき わかは」	寛政(1789-1801)末期	大判錦絵
92	栄松斎長喜(?-?)	四季の美人 月見	寛政(1789-1801)中期	大判錦絵
93	栄松斎長喜(?-?)	「青楼俄全盛遊 寿都乃錦 かつこうり てつ ほうろくうり 左之介」	寛政7年(1795)	大判錦絵
94	東洲斎写楽(1763?-1820?)	二代目小佐川常世の平姉おさん	寛政6年(1794)	大判錦絵
95	歌川豊国(1769-1825)	「役者舞台之姿絵 きのくにや」三代目沢村宗十郎	寛政6年(1794)	大判錦絵
96	歌川豊国(1769-1825)	「役者舞台之姿絵 きのくにや」二代目沢村淀五郎	寛政7年(1795)	大判錦絵
97	歌川豊国(1769-1825)	「三国小女郎 瀬川菊之丞 小女郎兄 九十郎 嵐三八」	寛政10年(1798)	大判錦絵
98	歌川国政(1773-1810)	岩井条三郎の禿たより	寛政8年(1796)	大判錦絵
99	勝川春英(1762-1819)	三代目瀬川菊之丞の油屋おそめ	寛政8年(1796)	大判錦絵
100	歌川豊国(1769-1825)	搦衣美人	寛政(1789-1801)後期	大判錦絵3枚続
101	喜多川歌麿(?-1806)	柿もぎ	享和3年-文化1年(1803-04)頃	大判錦絵3枚続
102-106	喜多川歌麿(?-1806)	正月朔日 屠蘇、三月三日 上巳、五月五日 端午、七月七日 七夕、九月九日 重陽	享和(1801-04)頃	大判錦絵5枚続のうち
107	喜多川歌麿(?-1806)	「浮世セツ目合」丑未	寛政(1789-1801)末期頃	大判錦絵
108	喜多川歌麿(?-1806)	見立唐人行列	寛政9-10年(1797-98)頃	大判錦絵7枚続

4 風景画時代の到来 北斎と国芳 The Arrival of the Landscape Print: Hokusai and Kuniyoshi

No	絵師(生没)	作品名	版行年	技法等
109	葛飾北斎(1760-1849)	「けいせいあけまき 岩井半四郎」	寛政3年(1791)	細判錦絵
110	葛飾北斎(1760-1849)	「風流四季の月 なつ」	天明後期(1785-89)頃	中判錦絵
111	葛飾北斎(1760-1849)	「風流見立狂言 三本柱」	寛政2年(1790)頃	中判錦絵
112	葛飾北斎(1760-1849)	唐子遊び	寛政2年(1790)頃	大判錦絵2枚続の右
113	葛飾北斎(1760-1849)	「富嶽三十六景 凱風快晴」	天保2-4年(1831-33)頃	大判錦絵
114	葛飾北斎(1760-1849)	「富嶽三十六景 山下白雨」	天保2-4年(1831-33)頃	大判錦絵
115	葛飾北斎(1760-1849)	「富嶽三十六景 尾州不二見原」	天保2-4年(1831-33)頃	大判錦絵
116	葛飾北斎(1760-1849)	「富嶽三十六景 相州梅沢左」	天保2-4年(1831-33)頃	大判錦絵
117	葛飾北斎(1760-1849)	「富嶽三十六景 甲州三島越」	天保2-4年(1831-33)頃	大判錦絵
118	葛飾北斎(1760-1849)	「富嶽三十六景 下目黒」	天保2-4年(1831-33)頃	大判錦絵

No.	絵師(生没)	作品名	版行年	技法等
119	葛飾北斎(1760-1849)	「富嶽三十六景 上総ノ海路」	天保2-4年(1831-33)頃	大判錦絵
120	葛飾北斎(1760-1849)	「富嶽三十六景 江都駿河町 三井見世略図」	天保2-4年(1831-33)頃	大判錦絵
121	葛飾北斎(1760-1849)	「富嶽三十六景 甲州三坂水面」	天保2-4年(1831-33)頃	大判錦絵
122	葛飾北斎(1760-1849)	「富嶽三十六景 駿州大野新田」	天保2-4年(1831-33)頃	大判錦絵
123	葛飾北斎(1760-1849)	「富嶽三十六景 東海道金谷ノ不二」	天保2-4年(1831-33)頃	大判錦絵
124	葛飾北斎(1760-1849)	「諸国瀧廻り 相州大山ろうべんの瀧」	天保3-4年(1832-33)頃	大判錦絵
125	葛飾北斎(1760-1849)	「諸国名橋奇覧 足利行道山 くのかけはし」	天保4-5年(1833-34)頃	大判錦絵
126	葛飾北斎(1760-1849)	「諸国名橋奇覧 かめんど天神 たいこぼし」	天保4-5年(1833-34)頃	大判錦絵
127	葛飾北斎(1760-1849)	「諸国名橋奇覧 三河の八つ橋の古図」	天保4-5年(1833-34)頃	大判錦絵
128	葛飾北斎(1760-1849)	「諸国名橋奇覧 飛越の塚つりはし」	天保4-5年(1833-34)頃	大判錦絵
129	葛飾北斎(1760-1849)	「諸国名橋奇覧 摂州阿治川口天保山」	天保4-5年(1833-34)頃	大判錦絵
130	葛飾北斎(1760-1849)	「琉球八景 長虹秋霽」	天保3年(1832)頃	大判錦絵
131	葛飾北斎(1760-1849)	「琉球八景 条村竹籬」	天保3年(1832)頃	大判錦絵
132	葛飾北斎(1760-1849)	「詩哥写真鏡 春道のつらき」	天保4-5年(1833-34)頃	長大判錦絵
133	葛飾北斎(1760-1849)	「詩哥写真鏡 融大臣」	天保4-5年(1833-34)頃	長大判錦絵
134	葛飾北斎(1760-1849)	「詩哥写真鏡 在原業平」	天保4-5年(1833-34)頃	長大判錦絵
135	葛飾北斎(1760-1849)	「詩哥写真鏡 安倍の仲魔」	天保4-5年(1833-34)頃	長大判錦絵
136	葛飾北斎(1760-1849)	「詩哥写真鏡 清少納言」	天保4-5年(1833-34)頃	長大判錦絵
137	葛飾北斎(1760-1849)	「詩哥写真鏡 伯楽天」	天保4-5年(1833-34)頃	長大判錦絵
138	葛飾北斎(1760-1849)	「詩哥写真鏡 李伯」	天保4-5年(1833-34)頃	長大判錦絵
139	葛飾北斎(1760-1849)	「詩哥写真鏡 少年行」	天保4-5年(1833-34)頃	長大判錦絵
140	葛飾北斎(1760-1849)	「詩哥写真鏡 雪中人物」	天保4-5年(1833-34)頃	長大判錦絵
141	葛飾北斎(1760-1849)	小禽に虻	天保2年(1831)頃	中判錦絵
142	歌川国芳(1797-1861)	「東都首尾の松之図」	天保2-3年(1831-32)頃	大判錦絵
143	歌川国芳(1797-1861)	「東都橋場之図」	天保2-3年(1831-32)頃	大判錦絵
144	歌川国芳(1797-1861)	「忠臣蔵十一段日夜討之図」	天保2-3年(1831-32)頃	大判錦絵
145	歌川国芳(1797-1861)	「東都名所 両国柳ばし」	天保3-4年(1832-33)頃	大判錦絵
146	歌川国芳(1797-1861)	「東都名所 佃嶋」	天保3-4年(1832-33)頃	大判錦絵
147	歌川国芳(1797-1861)	「東都名所 するがだひ」	天保3-4年(1832-33)頃	大判錦絵
148	歌川国芳(1797-1861)	「東都富士見三十六景 新大はし橋下の眺望」	天保14年(1843)頃	大判錦絵
149	歌川国芳(1797-1861)	「二十四孝童子鑑 大舜」	天保14-弘化1年(1843-44)頃	大判錦絵
150	歌川国芳(1797-1861)	「二十四孝童子鑑 閔子騫」	天保14-弘化1年(1843-44)頃	大判錦絵
151	歌川国芳(1797-1861)	大物浦平家の亡霊	嘉永2-4年(1849-51)頃	大判錦絵3枚続
152	溪斎英泉(1791-1848)	「日光山名所之内 華巖之瀧 三瀧之其一景」	天保14年-弘化3年(1843-46)頃	大判錦絵

5 エインズワースの愛した広重 Ainsworth's Beloved Hiroshige

No.	絵師(生没)	作品名	版行年	技法等
153	歌川広重(1797-1858)	「東都名所 隅田川葉桜之景」	天保2年(1831)頃	大判錦絵
154	歌川広重(1797-1858)	「東都名所 佃嶋初郭公」	天保2年(1831)頃	大判錦絵
155-162	歌川広重(1797-1858)	「近江八景」 粟津晴嵐、唐崎夜雨、石山秋月、堅田落雁、 瀬田夕照、矢橋帰帆、三井晩鐘、比良暮雪	天保2-3年(1831-32)頃	四ツ切判錦絵
163-164	歌川広重(1797-1858)	「東海道五拾三次之内 日本橋 朝之景」	天保5年(1834)頃	大判錦絵

No	絵師(生没)	作品名	版行年	技法等
165	歌川広重(1797-1858)	「東海道五拾三次之内 日本橋 行烈振出」	天保5-6年(1834-35)頃	大判錦絵
166	歌川広重(1797-1858)	「東海道五拾三次之内 三島 朝霧」	天保5年(1834)頃	大判錦絵
167	歌川広重(1797-1858)	「東海道五拾三次之内 沼津 黄昏図」	天保5-6年(1834-35)頃	大判錦絵
168	歌川広重(1797-1858)	「東海道五拾三次之内 原 朝之富士」	天保5-6年(1834-35)頃	大判錦絵
169	歌川広重(1797-1858)	「東海道五拾三次之内 蒲原 夜之雪」	天保5-6年(1834-35)頃	大判錦絵
170	歌川広重(1797-1858)	「東海道五拾三次之内 鞠子 名物茶店」	天保5-6年(1834-35)頃	大判錦絵
171	歌川広重(1797-1858)	「東海道五拾三次之内 御油 旅人留女」	天保5-6年(1834-35)頃	大判錦絵
172	歌川広重(1797-1858)	「東海道五拾三次之内 池鯉鮒 首夏馬市」	天保5-6年(1834-35)頃	大判錦絵
173	歌川広重(1797-1858)	「東海道五拾三次之内 宮 熱田神事」	天保5-6年(1834-35)頃	大判錦絵
174	歌川広重(1797-1858)	「東海道五拾三次之内 四日市 三重川」	天保7年(1836)頃	大判錦絵
175	歌川広重(1797-1858)	「東海道五拾三次之内 庄野 白雨」	天保7年(1836)頃	大判錦絵
176	歌川広重(1797-1858)	「東海道五拾三次之内 亀山 雪晴」	天保7年(1836)頃	大判錦絵
177	歌川広重(1797-1858)	「近江八景之内 唐崎夜雨」	天保5年(1834)頃	大判錦絵
178	歌川広重(1797-1858)	「浪花名所図会 安立町難波屋のまつ」	天保5年(1834)頃	大判錦絵
179	歌川広重(1797-1858)	「京都名所之内 嶋原出口之柳」	天保5年(1834)頃	大判錦絵
180	深斎英泉(1791-1848)	「第壹 木曾街道続ノ巻 日本橋雪之曙」	天保6年(1835)頃	大判錦絵
181	歌川広重(1797-1858)	「三拾式 木曾海道六拾九次之内 洗馬」	天保8年(1837)頃	大判錦絵
182	歌川広重(1797-1858)	「三十七 木曾海道六十九次之内 宮ノ越」	天保8年(1837)頃	大判錦絵
183	深斎英泉(1791-1848)	「四十一 木曾路駅 野尻 伊奈川橋遠景」	天保6年(1835)頃	大判錦絵
184	歌川広重(1797-1858)	「月二拾八景之内 葉ごしの月」	天保3-4年(1832-33)頃	大短冊判錦絵
185	参考出品 複製品 歌川広重(1797-1858)	牡丹に孔雀	明治一大正初期頃(原本は、 天保3-6年[1832-35]頃)	大短冊判錦絵
186	歌川広重(1797-1858)	雪景山水	天保12-13年(1841-42)頃	大判錦絵2枚続
187	歌川広重(1797-1858)	「名所江戸百景 芝愛宕山」	安政4年(1857)8月	大判錦絵
188	歌川広重(1797-1858)	「名所江戸百景 蒲田の梅園」	安政4年(1857)2月	大判錦絵
189	歌川広重(1797-1858)	「名所江戸百景 亀戸梅屋舗」	安政4年(1857)11月	大判錦絵
190	歌川広重(1797-1858)	「名所江戸百景 真乳山山谷堀夜景」	安政4年(1857)8月	大判錦絵
191	歌川広重(1797-1858)	「名所江戸百景 吾妻橋金龍山遠望」	安政4年(1857)8月	大判錦絵
192	歌川広重(1797-1858)	「名所江戸百景 日本橋江戸ばし」	安政4年(1857)12月	大判錦絵
193- 194	歌川広重(1797-1858)	「名所江戸百景 大はしあたけの夕立」	安政4年(1857)9月	大判錦絵
195	歌川広重(1797-1858)	「名所江戸百景 水道橋駿河台」	安政4年(1857)閏5月	大判錦絵
196	歌川広重(1797-1858)	「名所江戸百景 月の岬」	安政4年(1857)8月	大判錦絵
197	歌川広重(1797-1858)	「名所江戸百景 猿わか町よるの景」	安政3年(1856)9月	大判錦絵
198- 199	歌川広重(1797-1858)	「名所江戸百景 両国花火」	安政5年(1858)8月	大判錦絵
200	歌川広重(1797-1858)	「名所江戸百景 浅草田圃西の町詣」	安政4年(1857)11月	大判錦絵

【参考出品】 ※全て千葉市美術館所蔵

売立目録

- ・ *Rare Japanese color prints, the collection of Mrs. John Osgood Blanchard*, American Art Galleries, NY, April 1st to 6th, 1916
- ・ *Japanese color prints, a noted French collection*, Walpole Galleries, NY, January 20th to 22nd, 1918
- ・ *Collection of the late Frederic May, rare and valuable Japanese color prints*, American Art Galleries, NY, May 2nd to 10th, 1918
- ・ *Rare and valuable Japanese color prints, the private collection of Mr. Arthur Davison Ficke*, American Art Galleries, NY, February 5th to 11th, 1920
- ・ *Rare and valuable Japanese color prints, including the collection of Julio E. Van Caneghem of Paris*, Walpole Galleries, NY, February 28th to March 3rd, 1921
- ・ *Illustrated catalogue of Japanese color prints, the famous collection of the late Alexis Rouart of Paris, France, together with a selection of the Vicomte de Sartiges, and a few prints from another Parisian collection*, American Art Galleries, NY, February 2nd to 7th, 1922

書籍

- ・ Judson. D. Metzgar, *Adventures in Japanese Prints*, Grabhorn Press, SanFrancisco, 1943

2-3 印象派への旅 海運王の夢 バレル・コレクション

会期：8月7日(水)～10月20日(日)

概要：英国、スコットランド最大の都市グラスゴー。船舶の売買で大成功し「海運王」と称されたウィリアム・バレル(1861-1958)は、古今東西の美術工芸品など9,000点におよぶコレクションを築いた。本展は、その豊富なコレクションのなかから19世紀フランス絵画、オランダのハーグ派、「グラスゴー・ボーイズ」や「スコティッシュ・カラリスト」といったスコットランドの画家たちの作品を紹介。写実主義から印象派への流れを辿りながら、英国人コレクターならではの視点にも迫った。

バレルが収集した作品は、1944年にグラスゴー市へ寄贈され、83年から美術館「バレル・コレクション」として一般公開されてきた。「大気汚染の影響が少ない郊外に作品を展示すること」「国外に持ち出さないこと」が美術館建設に関しての条件だったため、この世界屈指のコレクションは永らく現地では見られなかった。本展は、同館の改装に伴い奇跡的に実現した展覧会で、ドガの代表作《リハーサル》をはじめ、バレル・コレクション全73点が日本初公開となった。さらに、同市のケルヴィングローヴ美術博物館より、ゴッホによる肖像画や、バレルと同時期に同じく海運業で成功を収めたウィリアム・マキネスが収集したルノワール、セザンヌなど7点(うち3点日本初公開)を加え、総数80点を紹介した。なお、当初は66日間の開館予定であったが、台風による臨時休館のため65日間となった。

巡回先：福岡県立美術館、愛媛県美術館、Bunkamura ザ・ミュージアム、広島県立美術館

主催：静岡市、静岡市美術館 指定管理者(公財)静岡市文化振興財団、静岡朝日テレビ、日本経済新聞社、毎日新聞社

後援：静岡市教育委員会、静岡県教育委員会、ブリティッシュ・カウンシル

協力：日本航空

協賛：大日本印刷

静岡展特別協賛：セキスイハイム東海

観覧料：一般 1,300円(1,100円)
大高生・70才以上 900円(700円)
※()内は前売および20名以上の団体料金
※中学生以下無料
※障害者手帳等をご持参の方および介助者原則1名は無料

観覧者数：25,461人(有料18,476人、無料6,985人、有料率72.57%)

出品点数：80点

制作物：

1)チラシ

＜仕様＞紙：アヴィオン ホワイト 90kg
サイズ・加工・数量：A3二つ折り(仕上A4) 70,000部

2)ポスター

＜仕様＞紙：アヴィオン ホワイト 135kg (B1、B2)、アヴィオン
ホワイト 110kg (B3)
サイズ・数量：
B1 60部、B2 2,050部、B3 2,750部(うち400部はJR帯つき)



チラシ表面



チラシ裏面



チラシ中面



B1・B2ポスター



B3ポスター

カタログ：

＜仕様＞252×192mm、198頁

カラー図版80点

参考図版(カラー36点、モノクロ22点)



カタログ表紙

ヴィヴィアン・ハミルトン「海運王・大コレクター ウィリアム・バレル」

千足伸行「印象派を見直す」

高山百合「コラム 海港都市グラスゴーと美術」

出品目録

翻訳：デイヴィッド・バーネット、宮澤政男

校閲：田宮宣保

制作：印象社

発行：毎日新聞社

発行年：2018年

普及ツール：

1)本展オリジナルミニDMの作成・配布

ハガキサイズのミニDMを制作し、市内店舗等へ配架、DM持参者には当館オリジナルクリアファイルをプレゼントした。

制作物：

◆ミニDM

＜仕様＞紙：アヴィオン ホワイト 180kg

サイズ・数量：110×148mm 15,000部



ミニDM表面



ミニDM裏面

2)作家紹介つき作品リストの作成・配布

鑑賞理解を促すため、作家紹介つき作品リストを制作、配布した。

制作物：

◆作品リスト

＜仕様＞紙：上質紙 55kg

サイズ・加工・数量：A3二つ折り(仕上A4) 10,000部



作品リスト表面

各種連携：

1)近隣店舗との連携

葵タワー内および近隣店舗で、展覧会入場者への優待サービスの実施、本展に合わせた特別メニューの提供を行った。

制作物：

◆チラシ

＜仕様＞紙：マットコート 70kg

サイズ・数量：A4 4,000部



協賛チラシ表面



協賛チラシ裏面



9月5日 来場者1万人達成



10月10日 美術館来館者300万人達成



10月9日 英国アン女王来館

主要広報記録：

1)テレビ・ラジオ

- ・「展覧会紹介」NHK Eテレ『日曜美術館アートシーン』、6月17日放送。
- ・「展覧会紹介」静岡朝日テレビ『とびっきり!しずおか』、8月14日放送。
- ・「展覧会紹介」FM-Hil『ひるラジ静岡情報館 airport769』、8月22日放送。
- ・「展覧会紹介」FM-Hil『chalchalサタデー 静岡ドライブインフォメーション』、8月24日放送。
- ・「バレル・コレクション展 来場者1万人達成」静岡朝日テレビ『あさひテレビNEWS』、9月5日放送。
- ・「展覧会紹介」静岡朝日テレビ『静岡のチカラ』、9月8日放送。
- ・「静岡市美術館来館者300万人」静岡朝日テレビ『あさひテレビNEWS』、10月11日放送。

2)新聞

- ・「「バレル・コレクション展」静岡市美術館で7日から」『毎日新聞』静岡版、7月25日、8月3日。
- ・「「印象派への旅」作品展を開催」『日本経済新聞』静岡版、8月7日。
- ・「竹之内満「ドガの初期策など80点」バレル・コレクション展」開幕 静岡市美術館で10月20日まで」『毎日新聞』静岡版、8月8日。
- ・「伊藤鮎「温かな色彩へ向かうゴッホ」「印象派への旅」展作品紹介上」『毎日新聞』静岡版、8月14日。
- ・「伊藤鮎「暗がりて咲き誇るバラ」「印象派への旅」展作品紹介中」『毎日新聞』静岡版、8月15日。
- ・「伊藤鮎「日常大胆に切り取ったドガ」「印象派への旅」展作品紹介下」『毎日新聞』静岡版、8月17日。
- ・「門外不出の所蔵品、日本初公開」『日本経済新聞』、8月19日。
- ・「門外不出のコレクション、英国から奇跡の初来日」『日本経済新聞』(夕刊)、9月5日。
- ・「谷口大河「壮大な人生 垣間見る」」『中日新聞』静岡版(夕刊)、9月29日。
- ・「英国アン王女作品展を鑑賞」『日本経済新聞』静岡版、10月10日。
- ・「英国アン王女「印象派への旅」展鑑賞」『毎日新聞』、10月10日。
- ・「静岡市美術館を英アン王女訪問」『静岡新聞』、10月10日。
- ・「保坂千裕「英国のアン王女絵画鑑賞」」『中日新聞』静岡版、10月10日。
- ・「英アン王女静岡市美術館に来館」『産経新聞』静岡版、10月10日。

3)雑誌他

- ・「まさに奇跡! 秘蔵の名画を巡る”印象派への旅 海運王の夢 バレル・コレクション」『美術展びあ2019(びあMOOK)』。
- ・「英国でしか見ることのできなかつた大コレクション 印象派への旅 海運王の夢 バレル・コレクション」『美術の窓』、1月号。
- ・「英国の海運王が築いた夢のコレクション」『時空旅人』、3月号増刊。
- ・「展覧会紹介」『にぎょう日本』、4月号。
- ・「まさに奇跡! 秘蔵の名画を巡る”印象派への旅 海運王の夢 バレル・コレクション」『美術展&美術館びあ2019(びあMOOK)』。
- ・「イギリス海運王コレクションの“初航海” 印象派への旅 海運王の夢 バレル・コレクション」『芸術新潮』、5月号。
- ・「展覧会紹介」『和楽』、6・7月号。
- ・「展覧会紹介」『和楽』、8・9月号。
- ・「展覧会紹介」『ザ・マイカー』、9月号。
- ・「展覧会紹介」『和楽』、10・11月号。
- ・「門外不出の名画が揃う 海運王の一大コレクション 印象派へ

- の旅 海運王の夢 バレル・コレクション」『一個人』、10月号。
- ・「全出品80点中76点が日本初公開という快挙 印象派への旅 海運王の夢 バレル・コレクション」『美術展&美術館びあ2019-2020(びあMOOK)』。
- ・「門外不出のコレクションが初来日! 印象派への旅 海運王の夢 バレル・コレクション」『ホットペッパー』、9月号。
- ・「印象派への旅 日本初公開のコレクション展」『富士ニュース』、第21978号。
- ・「門外不出のコレクションが奇跡の初来日! バレル・コレクション73点、日本初公開」『womo』、10月号。
- ・「展覧会紹介」『すろ〜かる』、10月号。

4)ウェブサイト等(媒体名のみ記載)

「インターネットミュージアム」、「アートアジェンダ」、「美術手帖ウェブ版」[ART NAVI]、「OBIKAKE」、「日経イベントガイド」、「日経イベント&セミナー」、「アットエス」、「しずぎんSTATION」、「ダイヤモンドソサエティ」、「チラシミュージアム」、「womo」、「ぴあポイント」



関連事業：

1)講演会「交流する絵画：前期印象派から印象派へ」

概要：本展図録にご寄稿いただいた成城大学名誉教授・広島県立美術館館長の千足伸行氏による講演会。本展出品作を中心に、印象派へと至る19世紀の画家たちに共通する問題意識や革新性について説明頂いた。参考図版も交え、当時の社会状況や、人々の生活を知ることができた。

日時：9月7日(土)14:00-15:30

会場：多目的室 参加者数：122人

講師：千足伸行氏(成城大学名誉教授・広島県立美術館館長)



2)当館学芸員によるギャラリートーク

概要：展覧会に対する理解を深めるため、当館学芸員によるギャラリートークを会期中実施した。なお、2回目は多数の参加者が見込まれたため、スライドトークとして実施した。

日時：①8月25日(日) ②10月13日(日)

いずれも14:00-

会場：展示室 参加者数：計101人

参加料：展覧会観覧料



3)レクチャー & 試飲会「スコッチ・ウイスキーの魅力」

概要：バレル・コレクションがスコットランドにあることに因み、スコッチ・ウイスキーのレクチャーと試飲会を行った。講師には、スコットランドの蒸溜所を訪ね歩き、そのノウハウをもとに国産ウイスキー造りを行っている中村大航氏を招いた。前半では展覧会に関するスライドトークを行い、後半は講師の中村氏によるスコッチ・ウイスキーに関するレクチャーと4種類のテイस्टینگを行った。レクチャーはウイスキーの話に留まらず、スコットランドやグラスゴーの文化全体を紹介する内容で、展覧会への理解を深めるものとなった。さらにスコッチ・ウイスキーのフランスでの需要や、日本とグラスゴーとの関係についても触れることで、バレルが生きた時代を多層的にとらえることができた。

日時：9月21日(土)17:00-19:00

会場：多目的室 参加者数：40人

講師：中村大航氏(ガイアフロー静岡蒸溜所代表)

参加料：3,000円(チケット制・展覧会観覧券付き)

主要広報記録：

◆新聞

・「スコッチ・ウイスキーとアートのコラボ 9・21静岡市美術館でレクチャー&試飲会」『日刊スポーツ』、8月5日。

・「スコッチの魅力語る 葵区で講演会 原酒試飲も」『静岡新聞』、9月22日。



序

No.	作家名	作品名	制作年	技法・素材
1	フィンセント・ファン・ゴッホ	アレクサンダー・リードの肖像	1887年	油彩・板

第1章 身の回りの情景

1-1 室内の情景

No.	作家名	作品名	制作年	技法・素材
2	カミーユ・コロー	耳飾り	1850-55年頃	油彩・カンヴァス
3	アンリ・ファンタン=ラトゥール	入浴する女性	1879年頃	油彩・カンヴァス
4	オノレ・ドーミエ	三人の男と一人の女	1853年	油彩・板
5	ヨハネス・ボスボーム	食卓の家族		水彩、紙
6	フランソワ・ボンヴァン	スピネットを弾く女性	1862年	油彩・カンヴァス
7	テオデュール・リボー	楽器を奏でる人	1862年	油彩・カンヴァス
8	テオデュール・リボー	勉強熱心な使用者	1871年頃	油彩・カンヴァス
9	テオデュール・リボー	会計士	1878年頃	油彩・カンヴァス
10	ヤーコブ・マリス	若き芸術家	1878年頃	水彩、グワッシュ・紙
11	ヤーコブ・マリス	孔雀の羽根を持つ少女	1879年頃	油彩・カンヴァス
12	ヤーコブ・マリス	姉妹		水彩、グワッシュ・紙
13	フランソワ・ボンヴァン	愛犬「ミス」	1863年	油彩・板

1-2 静物

No.	作家名	作品名	制作年	技法・素材
14	アントワーヌ・ヴォロン	静物	1865年頃	油彩・カンヴァス
15	フランソワ・ボンヴァン	水差し、チーズ、玉ねぎ、魚、ナイフのある静物	1854年	油彩・カンヴァス
16	フランソワ・ボンヴァン	狩りの獲物のある静物	1874年	油彩・カンヴァス
17	フランソワ・ボンヴァン	コップ、洋ナシ、ナイフのある静物	1884年	油彩・カンヴァス
18	ルイ=ギュスターヴ・リカール	静物—洋ナシと皿		油彩・板
19	ギュスターヴ・クールベ	リンゴ、洋ナシ、オレンジ	1871-72年頃	油彩・板
20	アンリ・ファンタン=ラトゥール	桃	1875年	油彩・カンヴァス
21	アンリ・ファンタン=ラトゥール	桃	1884年	油彩・カンヴァス
22	ポール・セザンヌ	倒れた果物かご	1877年頃	油彩・カンヴァス
23	ピエール・オーギュスト・ルノワール	静物—コーヒーカップとミカン	1908年	油彩・カンヴァス
24	サミュエル・ジョン・ヘブロー	コーヒーとリキュール	1898年頃	油彩・板
25	ギュスターヴ・クールベ	アイリスとカーネーション	1863年頃	油彩・カンヴァス
26	エドゥアール・マネ	シャンパングラスのバラ	1882年	油彩・カンヴァス
27	アンリ・ファンタン=ラトゥール	春の花	1878年	油彩・カンヴァス
28	サミュエル・ジョン・ヘブロー	バラ	1900-05年頃	油彩・カンヴァス

第2章 戸外に目を向けて

2-1 街中で

No.	作家名	作品名	制作年	技法・素材
29	エドガー・ドガ	リハーサル	1874年頃	油彩・カンヴァス
30	オノレ・ドーミエ	よき仕事仲間	1860-62年頃	ペン、淡彩・紙
31	テオデュール・リボー	調理人たち	1862年	油彩・カンヴァス
32	ウジェーヌ・ブーダン	ブリュッセル、旧魚市場	1871年	油彩・板
33	アーサー・メルヴィル	グランヴィルの市場	1878年	水彩・紙
34	アーサー・メルヴィル	ホワイトホース・インの目印	1888年	水彩、グワッシュ・紙
35	ジョゼフ・クロホール	二輪馬車	1894-1900年頃	水彩、グワッシュ・麻布
36	アドルフ・エルヴィエ	風車	1851年	油彩・板

2-2 郊外へ

No.	作家名	作品名	制作年	技法・素材
37	アドルフ・エルヴィエ	鶏のいる村の道(バルビゾン?)		油彩・板
38	アドルフ・エルヴィエ	教会		グワッシュ・紙
39	アルフレッド・シスレー	村の通り、モレ＝シュル＝ロワニンにて	1894年頃	油彩・カンヴァス
40	アンリ・ル・シダネル	雪	1901年	油彩・カンヴァス
41	カミーユ・コロー	フォンテーヌブローの農家	1865-73年頃	油彩・カンヴァス
42	カミーユ・コロー	森	1860-74年頃	鉛筆、木炭・紙
43	オノレ・ドーミエ	ヘラクレス	1853年	ペン、淡彩・紙
44	ジャン＝フランソワ・ミレー	干し草を刈る人	1852年頃	黒チョーク・紙
45	ジャン＝フランソワ・ミレー	羊毛をすく人	1848年頃	コンテ・紙
46	アドルフ・モンティセリ	庭で遊ぶ子どもたち	1867年頃	油彩・板
47	アドルフ・モンティセリ	初めてのブドウの収穫	1868年頃	油彩・板
48	ピエール・オーギュスト・ルノワール	画家の庭	1903年頃	油彩・カンヴァス
49	マティス・マリス	蝶	1874年	油彩・カンヴァス
50	ヤコブ・マリス	ベットの山羊	1871年	油彩・カンヴァス
51	エドガー・ドガ	木につながれた馬	1873-80年頃	油彩・板
52	アレクシ・ペリニョン	白馬		油彩・カンヴァス
53	アントン・モーヴ	荷馬車による薪運び		水彩・紙
54	シャルル＝フランソワ・ドービニー	牛のいる風景	1863年頃	油彩・板
55	アントン・モーヴ	牧草地の乳牛		水彩、グワッシュ・紙
56	ジョゼフ・クロホール	フォックスハウンドー呼び鈴のある門	1886年	水彩、グワッシュ・紙
57	ジョゼフ・クロホール	杭につながれた馬、タンジールにて	1888年	水彩・紙
58	ジョゼフ・クロホール	山腹の山羊、タンジールにて		水彩、グワッシュ・紙
59	ジョルジュ・ミシェル	嵐雲	1843年頃	油彩・カンヴァス
60	ポール・セザンヌ	エトワール山稜とピロン・デュ・ロワ峰	1878-79年	油彩・カンヴァス

第3章 川から港、そして外洋へ

3-1 川辺の風景

No.	作家名	作品名	制作年	技法・素材
61	シャルル＝フランソワ・ドービニー	ガイヤール城	1870-74年頃	油彩・板
62	シャルル＝フランソワ・ドービニー	オワーズ川の岸辺	1872年	木炭、チョーク・紙
63	ウジェーヌ・ブーダン	トゥーク川の橋のたもと洗濯女	1883-87年頃	油彩・板
64	ウジェーヌ・ブーダン	トゥーク川土手の洗濯女	1888-95年頃	油彩・板
65	カミーユ・ピサロ	水浴する女	1895年頃	水彩、グワッシュによるハイライト・麻布
66	ウジェーヌ・ブーダン	ブリュッセルの船着場	1871年	油彩・板

3-2 外洋への旅

No.	作家名	作品名	制作年	技法・素材
67	ヤコブ・マリス	ドルドレヒトの思い出	1884年頃	油彩・カンヴァス
68	ヤコブ・マリス	アムステルダム		水彩、グワッシュ・紙
69	ヤコブ・マリス	オランダの町		水彩、グワッシュ・紙
70	ヨハネス・ボスボーム	オランダの漁村		水彩・紙
71	ヨハネス・ボスボーム	スハーフェニンゲン		水彩・紙
72	ウィリアム・マクタガート	満潮	1873年	水彩、グワッシュ・紙(板で裏打ち)
73	ウィリアム・マクタガート	海からの便り	1887年	水彩、グワッシュ・紙
74	ベルナルト・ブロンメルス	浅瀬を歩く	1901年	水彩・紙
75	ギュスターヴ・クールベ	マドモワゼル・オーブ・ドゥ・ラ・オールド	1865年	油彩・カンヴァス
76	ウジェーヌ・ブーダン	トゥルーヴィルの海岸の皇后ウジェニー	1863年	油彩・板
77	カミーユ・コロー	船舶(ル・アーヴルまたはオンフルール)	1830-40年頃	油彩・紙、板
78	ウジェーヌ・ブーダン	トゥルーヴィル、干潮時の埠頭	1885-90年頃	油彩・板
79	ウジェーヌ・ブーダン	ドーヴィル、波止場	1891年	油彩・板
80	アンリ・ル・シダネル	月明かりの入り江	1928年	油彩・カンヴァス

2-4 Daiichi-TV開局40周年記念

奇蹟の芸術都市バルセロナ展

会期：11月15日(金)～1月19日(日)

概要：スペイン・カタルーニャ自治州の州都バルセロナは、古来、地中海交易の要所として栄えた。18世紀後半以降は、新大陸との貿易や産業革命によって経済的に大きく発展し、町の近代化が進んでいく。19世紀後半には、中世の様式やフランスのアール・ヌーヴォーなどの同時代の他国の芸術運動が結びついた「ムダルニズマ」と呼ばれる新しい芸術様式が生まれ、アントニ・ガウディ(1852-1926)やリュイス・ドゥメナク・イ・ムンタネー(1849-1923)らによる独特のスタイルを持つ建物が次々と造られていった。また若き日のパブロ・ピカソ(1881-1973)やジュアン・ミロ(1893-1983)、サルバドール・ダリ(1904-1989)は、19世紀末から20世紀初頭にかけてバルセロナで過ごし、独自の表現を模索し続けた。本展は、今もおお多くの人々を引き付けてやまない都市バルセロナの魅力の源泉を、町の近代化を促進させた19世紀後半のイルダフォンス・サルダール(1815-1876)による新たな都市計画から、20世紀のスペイン内戦(1936-1939)までの約80年間に生み出された芸術作品の中に辿った。カタルーニャ美術館などの協力により、絵画や家具、宝飾品など多彩なジャンルによる作品約130点で、近代カタルーニャ芸術の精華を紹介した。

巡回先：長崎県美術館、姫路市立美術館、札幌芸術の森美術館、東京ステーションギャラリー

主催：静岡市、静岡市美術館 指定管理者(公財)静岡市文化振興財団、Daiichi-TV

特別協力：カタルーニャ美術館、カウ・ファラット美術館

後援：静岡市教育委員会、静岡県教育委員会、スペイン大使館、カタルーニャ州政府、カタルーニャ州政府貿易投資事務所、在バルセロナ日本国総領事館、インスティトゥ・セルバンテス東京、日本・カタルーニャ友好親善協会

協賛：マリエラ クラソンズジャパン、株式会社ライブアートブックス

特別協賛：セキスイハイム東海

助成：ラモン・リュイ財団、シジヤス文化財団

協力：日本航空

企画協力：神戸新聞社、キュレイターズ

観覧料：一般 1,200円(1,000円)

大高生・70才以上 800円(600円)

中学生以下無料

※()内は前売および20名以上の団体料金

※障害者手帳等をご持参の方および介助者原則1名は無料

観覧者数：21,895人(有料15,846人、無料6,049人、有料率72.37%)

出品点数：125点(参考出品を含む)

制作物：

1)チラシ

<仕様>紙：b7トラネクスト 99kg (A3二つ折り(仕上A4))、
ユーライト 73kg (A4)
サイズ・加工・数量：
A3二つ折り(仕上A4)55,000部、A4 106,000部

2)ポスター

<仕様>紙：グラディアCoC 120.5kg (B1、B2)、ユーライト 135kg
サイズ・数量：
B1 50部、B2 2,100部、B3 2,700部(うち400部はJR帯つき)



チラシ表面



チラシ裏面



チラシ中面



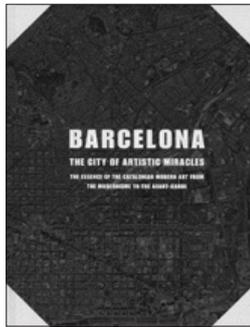
B1・B2ポスター



B3ポスター

カタログ：

<仕様>210×276mm、392頁



カタログ表紙

カラー図版176点

参考図版(カラー95点、モノクロ163点)

ペペ・セラ「バルセロナが生んだ「奇蹟」-カタルーニャ美術館コレクション」

ビニェット・パニェラ「カウ・ファラット美術館、ムダルニズマの聖地より」

イオランダ・バタリェ「バルセロナから日本へ」

フランセスク・フォンボナ「20世紀初頭にかけてのバルセロナにおける社会的および文化的状況の変革について」

木下亮「貞奴と「四匹の猫」の画家たち～日本の舞姫が訪れたバルセロナ～」

フランセスク・キレス・コレリヤ「四匹の猫：エキセントリックな芸術の砦」

稲葉友汰「コラム-インディアーノ-都市近代化の立役者」

高瀬晴之「コラム-近代ギター音楽とカタルーニャ」

谷口依子「コラム-イジドラ・ヌネイのまなざし」

稲葉友汰「コラム-スポーツとカタルーニャ・アイデンティティ」

不動美里「コラム-アルティガスとミロ」

野中明「コラム-1937年パリ万国博覧会 スペイン共和国パビリオン」

アドゥアル・バジェス「ピカソの絵画形成におけるバルセロナとカタルーニャ美術」

マリアンジェルス・フォンデビラ「芸術産業の砦としての美術館」

リカル・ブル「カタルーニャにおける日本美術-芸術のインスピレーションを得るための新しいモデル」

松田健児「カタルーニャへの前衛芸術導入の過程」

関連年表／主要参考文献／出品リスト／作家一覧

発行：神戸新聞社

発行年：2019年

普及ツール：

1)音声ガイド

2)撮影コーナーの設置

来場者のSNS等での情報発信を期待し、当館エントランスに撮影コーナーを設置した。



各種連携：

1)近隣店舗との連携

葵タワー内および近隣店舗で、展覧会入場者へ優待サービスを行った。

制作物：

◆チラシ

<仕様>紙：マットコート 70kg

サイズ・数量：A4 4,000部



協賛チラシ表面



協賛チラシ裏面



12月26日 来場者1万人達成

主要広報記録：

1)テレビ・ラジオ

- ・「展覧会紹介」NHK Eテレ『日曜美術館アートシーン』、5月12日放送。
- ・「展覧会紹介」FM-Hi!『chalchalサタデー 静岡ドライブインフォメーション』、11月9日放送。
- ・「奇蹟の芸術都市バルセロナ展開幕」静岡第一テレビ『県内ニュース』、11月15日放送。
- ・「きょうから開催!世界最高峰の芸術が静岡に」静岡第一テレビ『まるごと』、11月15日放送。
- ・「展覧会紹介」FM-Hi!『ひるラジ!静岡情報館 airport769』、11月21日放送。
- ・「展覧会紹介」TOKAIケーブルネットワーク『トコちゃんワイド』、11月29日放送。
- ・「アートの至宝が集結!バルセロナ展」静岡第一テレビ『まるごと「ペコリーノ」』、12月12日、13日放送。
- ・「バルセロナ展1万人突破」静岡第一テレビ『県内ニュース』、12月26日放送。

2)新聞

- ・大谷和佳子「バルセロナ芸術 静岡で 市美術館 絵画、彫刻など130点 半数以上が日本初公開」『毎日新聞』静岡版、11月16日。
- ・「奇蹟の芸術都市バルセロナ展」『毎日新聞』静岡版、11月29日。
- ・アライ=ヒロユキ「自立と自由を希求する表現」『しんぶん赤旗』、1月3日。

3)雑誌他

- ・「知られざるカタルーニャの魅力 奇蹟の芸術都市バルセロナ」『美術の窓』、1月号。
- ・「展覧会紹介」『和楽』、10・11月号。
- ・「展覧会紹介」『美術屋・百兵衛』、vol.51。
- ・「展覧会紹介」『ひととき』、11月号。
- ・加藤浩子「音楽と美術の出逢うところ ピカソが描いた世紀末バルセロナ〜「4匹の猫」に集った芸術家たち」『女性のひろば』、11月号。
- ・「展覧会紹介」『和楽』、12・1月号。
- ・「展覧会紹介」『完全ガイドシリーズ263]美術展完全ガイド2020』。
- ・「展覧会紹介」『潮』、12月号。
- ・「展覧会紹介」『Pumpkin』、12月号。
- ・「展覧会紹介」『日経おとなのOFF』、1月号。
- ・「展覧会紹介」『和楽』、1・2月号。
- ・「展覧会紹介」『InRed』、1月号。
- ・「半数以上が日本初公開!貴重なバルセロナ芸術の展覧会が開催」『CUT』、1月号。
- ・「展覧会紹介」『美術の窓』、1月号。
- ・「ガウディ、ピカソ、ミロ、ダリ…巨匠たちを育んだ魅惑の街」『ホットペッパー』、12月号。

4)ウェブサイト等(媒体名のみ記載)

「インターネットミュージアム」、「アートアジェンダ」、「OBIKAKE」、「しずぎんSTATION」、「びあアプリ」、「アットエス」、「びあポイント」、「美術手帖ウェブ版「ART NAVI」」、「シネフィル」



関連事業：

1)2020しずおか文化プロジェクト/静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業

「奇蹟の芸術都市バルセロナ展」ミュージアム・コンサート

概要：静岡音楽館AOIの協力による、展覧会と同時代の19世紀スペイン音楽を中心としたコンサート。カタルーニャ出身の世界的チェロ奏者P.カザルスや、近代カタルーニャを代表する作曲家E.グラナドス、I.アルベニスなどの楽曲が演奏された。

日時：11月17日(日)13:30開場 14:00開演

会場：多目的室 参加料：1,000円 参加者数：92人

出演：生駒宗煌(チェロ)、木村理沙(ピアノ)

曲目：J.S.バッハ：無伴奏チェロ組曲第1番 ト長調 BWV1007 より 前奏曲/カタルーニャ民謡(鳥の歌)(P.カザルス 編)/E.グラナドス：マドリガル イ短調、アンダルーサ(いのり)スペイン舞曲集 op.37-5/I.アルベニス：マヨルカ(舟歌)op.202/G.カサド：親愛なる言葉/L.v.ベートーヴェン：チェロ・ソナタ第3番 イ長調 op.69 ほか



2)講演会①「芸術都市バルセロナの変容：アイデンティティの探求と前衛美術」

概要：本展監修者の木下氏による講演会。本展の成り立ちや、展覧会タイトルに込められた意味が紹介されたあと、絵画や彫刻作品などを中心に、各章の見どころが述べられた。作品解説のみならず、同時代の歴史的な背景についても触れられ、日本ではあまり学ぶ機会の少ないスペイン近現代史についても俯瞰できる内容であった。

日時：11月23日(土・祝)14:00-15:30

会場：多目的室 参加者数：74人

講師：木下亮氏(本展監修者、昭和女子大学教授)



3)講演会②「ガウディとバルセロナの世紀末建築」

概要：日本におけるガウディ研究の第一人者である鳥居氏による講演会。はじめに、19世紀バルセロナで「ムダルニズマ」と呼ばれる新しい建築様式が生まれた背景が街の歴史とともに紹介された。その後、具体的な「ムダルニズマ建築」の例として、展覧会にも出品されている各作品の特徴や建築家の人となりについて述べられた。特にガウディについては、ガウディ自身の言葉や当時の雑誌に掲載された批評文を多数交えて説明され、より踏み込んだ考察がなされた。

日時：12月14日(土)14:00-15:30

会場：多目的室 参加者数：103人

講師：鳥居徳敏氏(神奈川大学名誉教授)



4)当館学芸員によるスライドトーク

概要：展覧会に対する理解を深めるため、当館学芸員によるスライドトークを会期中実施した。

日時：①12月21日(土) ②1月12日(日)
いずれも14:00-

会場：多目的室 参加者数：計98人

参加料：無料



5)2020しずおか文化プロジェクト/静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業

ガウディ建築を知ろう

※57頁を参照。

出品作品リスト

・欠番は当館では未出品。
 ・サイズは、縦×横cm、立体作品は高さ×横×奥行cm。

第1章 都市の拡張とバルセロナ万博

No.	作者名	作品名	制作年	材質・技法	サイズ(cm)	所蔵
1-1	アウセビ・アルナウ	《バルセロナ》	1897年	ブロンズ・砂岩(ムンジュイック産)	53×68×35	カタルーニャ美術館
1-4	ジャン・バルダゲー	『アトランティダ』	1878年刊	書籍	20.2×14×2.5	カタルーニャ図書館
1-5		『ラベンス』	1882年1月1日刊	雑誌(合本)	21.7×16.3×1.6	カタルーニャ図書館
1-6	モDEST・ウルジェイ	《共同墓地のある風景》	1890年代(?)	油彩/カンヴァス	95.8×186.4	長崎県美術館
1-7	ラモン・マルティ・イ・アルシーナ	《リエラ・ダ・サン・ジュアンの屋上から眺めるバルセロナ風景》	1889年	油彩/カンヴァス	44×56.5	カタルーニャ美術館
1-8	フランセスク・マスリエラ	《1882年の冬》	1882年	油彩/カンヴァス	79×62	カタルーニャ美術館
1-9	ジュアン・ブラネリヤ	《織工の娘》	1882年	油彩/カンヴァス	182×142	個人蔵
1-10	G.L.ルイス	《1888年バルセロナ万博のポスター》	1888年	クロマトグラフ・リトグラフ/紙	80.2×94.3	カタルーニャ図書館
1-12		《1888年バルセロナ万博の公式パンフレット》	1888年	パンフレット	40.8×30	マルク・マルティ・コレクション
1-13		《1888年バルセロナ万博のアルバム》	1888年	フォトアルバム	34×43	マルク・マルティ・コレクション
1-14	瀧澤清/松崎半造(版元)	『潜龍堂画譜 魚類之部』	1880年刊	書籍	23×15	長崎県美術館
1-15	田中菊雄編/松崎半造(版元)	『いろは引紋帳』	1881年1月刊	書籍	8×16	長崎県美術館

第2章 コスモポリスの光と影

No.	作者名	作品名	制作年	材質・技法	サイズ(cm)	所蔵
2-1	ジュゼップ・ブッチ・イ・カダファルク	《カザ・アマリエー、ファサード改装プラン》	1898年	インク/カンヴァス紙	81×59	バルセロナ現代文書館
2-2	ジュゼップ・ブッチ・イ・カダファルク/ブジョル・イ・パウシス工房	《カザ・アマリエーの花形装飾タイル》	1900年	施釉タイル	20×20×10	カタルーニャ美術館(アマリエー財団から永久寄託)
2-3	ジュゼップ・ブッチ・イ・カダファルクに帰属/ブジョル・イ・パウシス工房	《カザ・アマリエーの花形装飾タイル》	1900年	施釉タイル	20×20.5×10	カタルーニャ美術館
2-4	ジュゼップ・ブッチ・イ・カダファルクに帰属/ブジョル・イ・パウシス工房	《花形装飾タイル》	1900年	施釉タイル	15.3×15.5×9.4	カタルーニャ美術館
2-5	ジュゼップ・ブッチ・イ・カダファルクに帰属/ブジョル・イ・パウシス工房	《天井装飾タイル》	1900年	施釉タイル	10×20×2.5	カタルーニャ美術館
参考 出品I	リュイス・ドゥメナク・イ・ムンタネー	《カザ・リエオー・ムレラ、ファサード改装プラン》 (ファクシミリ)	1903年	インク/カンヴァス紙	91×62.5	バルセロナ現代文書館
2-6	ガスパー・オマー	《カザ・リエオー・ムレラの椅子》	1905年頃	オーク材・ビロード布張地・鍍金	113×45×46	カタルーニャ美術館
2-7	ガスパー・オマー	《カザ・リエオー・ムレラの掛掛椅子》	1905年頃	オーク材・ビロード布張地・鍍金	96×79×49	カタルーニャ美術館
2-8	ガスパー・オマー	《カザ・リエオー・ムレラのコーナーテーブル》	1905年頃	寄木象嵌・クルミ材	77.5×53×53	カタルーニャ美術館
2-9	ガスパー・オマー	《カザ・リエオー・ムレラのランプ》	1904年	鉄(叩き出し)・鍍金・ガラス	41.4×92.7×56.1	カタルーニャ美術館
2-10	ガスパー・オマー、ジュゼップ・ベイ(デザイン)/ジュアン・カレラス・ファレー(彫刻)/ジュアン・サガラ・イ・フィス(寄木象嵌)	《庭の婦人》	1905年頃	寄木象嵌(オーク/シカモア/トネリコ/ジャカランダ/レモンウッド/トキワガシ/ベニヤ)・パイン材	159.5×50	カタルーニャ美術館
2-11	アントニ・ガウディ	《カザ・パッリョー、ファサード改装プラン》	1904年10月26日の署名	インク・鉛筆/カンヴァス紙	47.5×78	バルセロナ現代文書館
2-12	アントニ・ガウディ(デザイン)/カザス・イ・バルデス工房	《カザ・パッリョーの組椅子》	1904-06年頃	トネリコ材	104.5×167×75.5	カタルーニャ美術館(サグラダ・ファミリア建築委員会から寄託)
2-13	アントニ・ガウディ(デザイン)/カザス・イ・バルデス工房	《カザ・パッリョーの扉》	1906年	金属・トネリコ材	228×94.5×11	カタルーニャ美術館
2-14	リュイス・ドゥメナク・イ・ムンタネー(デザイン)/アスクフェ社製作	《舗床タイル》	1900年頃	モザイクタイル	195×120×2(各15×15)	カタルーニャ美術館
2-15	ランペール・アスカレー	《流し目の女性》	1903年頃	賦彩テラコッタ	32×24×15	カタルーニャ美術館(個人から長期寄託)
2-16	ジュアン・ブスケツ・イ・ジャンネー	《ベッドサイド・テーブル》	1906年	金属・大理石・焼き絵のあるシカモア材・トネリコ材	119×43×41	カタルーニャ美術館
2-17	アントニ・セラ/ジュゼップ・ベイ(デザイン)	《バラと白い女性の花瓶》	1901-07年	磁器・金	14.2×6.4×6.4	カタルーニャ美術館
2-18	ジュアキム・ミール/リガル・グラネイ社	《幼少期のマリア》	1910-13年	ステンドグラス・鉄枠	189.2×102.5×6.5	カタルーニャ美術館
2-19	ジュゼップ・マリア・ジュジョル	《マニャック商店の把手》	1911年	鉄	59×44×11	カタルーニャ美術館
2-20	リュイス・マスリエラ	《サン・ジョルディのペンダント》	1901-02年頃	鍍金・ダイヤモンド・ルビー・乳白色エナメル(ブリカジュール、バスタイユ)	4.6×3.6×0.8	カタルーニャ美術館
2-21	リュイス・マスリエラ	《バルセロナ上空の飛行機》	1905年頃	金・ダイヤモンド・エナメル(ブリカジュール)	Φ3.2	個人蔵
2-22	リュイス・マスリエラ	《ムンサラットの聖母》	1916-20年頃	金・ダイヤモンド・エナメル(ブリカジュール、バスタイユ)	4.8×3.5	バゲス・マスリエラ・コレクション
2-23	リュイス・マスリエラ	《龍のペンダント》	1901-03年頃	金・ルビー・ダイヤモンド・エメラルド	12.7×4.6	バゲス・マスリエラ・コレクション
2-24	リュイス・マスリエラ	《女性の横顔のペンダント》	1908年頃	金・ダイヤモンド・真珠・エナメル(ブリカジュール、バスタイユ)	6.4×4.3×0.5	カタルーニャ美術館(バゲス・マスリエラ・コレクションから長期寄託)
2-25	リュイス・マスリエラ	《有翼のニンフ》	1906-08年頃	金・象牙・ダイヤモンド・真珠・エナメル(ブリカジュール)	6.9×3.6×0.5	カタルーニャ美術館(バゲス・マスリエラ・コレクションから長期寄託)
2-26	リュイス・マスリエラ	《蜻蛉のブローチ》	1903-06年頃	金・純銀・ダイヤモンド・エメラルド・ルビー・エナメル(ブリカジュール)	4.5×7	バゲス・マスリエラ・コレクション

No.	作者名	作品名	制作年	材質・技法	サイズ(cm)	所蔵
2-27	リュイス・マスリエラ	《花のペンダント》	1904年頃	金・純銀・ダイヤモンド・真珠・エナメル(ブリカジュール)	12.6×5.1×2	カタルーニャ美術館(バゲス・マスリエラ・コレクションから長期寄託)
2-28	リュイス・マスリエラ	《女性像のプレスレット》	1909-15年頃	金・ダイヤモンド・エナメル(ブリカジュール、バスタイク)	4×5.5×5	カタルーニャ美術館(バゲス・マスリエラ・コレクションから長期寄託)
2-29	リュイス・マスリエラ	《アールデコ様式のネックレス》	1909-16年頃	金・白金・象牙・ダイヤモンド・サファイア・エナメル(バスタイク)	3.9×12.5	バゲス・マスリエラ・コレクション
2-30	ルマー・リベラ	《夜会のあとで》	1894年頃	油彩/カンヴァス	59×79	カタルーニャ美術館
2-31	ルマー・リベラ	《休息》	1902年頃	油彩/カンヴァス	130×150	個人蔵
2-32	ラモン・カザス	《入浴前》	1894年	油彩/カンヴァス	72.5×60	ムンサラット美術館
2-34	アラグザンドラ・ダ・リケー	《アンティグア・カザ・フランク》	1899年	リトグラフ/紙	66×89	マルク・マルティ・コレクション
2-35	ラモン・カザス	《アニス・デル・モノ》	1898年	リトグラフ/紙	218×111	マルク・マルティ・コレクション
2-36	ラモン・カザス	《女性運転手》	1900年	木炭・パステル/紙	63.5×41.5	ムンサラット美術館
2-38	ラモン・カザス	《サンタ・マリア・ダル・マール教会を出発する聖体祭の行列》	1896-98年頃	油彩/カンヴァス	115.5×196	カタルーニャ美術館
2-39	リカル・カナルス	《監獄での面会》	1896年	木炭・鉛筆/紙	30.5×21.5	ムンサラット美術館
2-40	リカル・ウビス	《アナーキストの集会》	1903年	木炭・水彩・パステル/紙	35×54	ムンサラット美術館

第3章 バリへの憧憬とムダルニズマ

No.	作者名	作品名	制作年	材質・技法	サイズ(cm)	所蔵
3-1	サンティアゴ・ルシニョル	《自転車乗りラモン・カザス》	1889年	油彩/カンヴァス	165×96	サバディ銀行
3-2	サンティアゴ・ルシニョル	《ムーラン・ド・ラ・ギャレットでのミケル・ウトリヨ》	1890-91年	油彩/カンヴァス	222.5×151	カタルーニャ美術館
3-3	ラモン・カザス	《ムーラン・ド・ラ・ギャレットの室内》	1890-91年頃	油彩/カンヴァス	78.5×69	カタルーニャ美術館(スペイン文化省から永久寄託)
3-5	サンティアゴ・ルシニョル/ラモン・カザス	『風車小屋便り』	1894年刊	書籍	20.4×16.4×1.3	カタルーニャ図書館
3-6	サンティアゴ・ルシニョル	《ボヘミアン室内のエリック・サティ》	1891年	油彩/カンヴァス	81×65	カタルーニャ自治州
3-7	ミケル・ウトリヨ	《シュザンヌ・ヴァラドン》	1891年	鉛筆・コンテ・サンギース/紙	30.5×19.7	カウ・ファラット美術館
3-8	サンティアゴ・ルシニョル	《青い中庭》	1892年頃	油彩/カンヴァス	68×53	ムンサラット美術館
3-10	サンティアゴ・ルシニョル	《夢想》	1894年	油彩/カンヴァス	79×98	カウ・ファラット美術館
3-11	ミケル・ウトリヨ	《祈り》	1897年	リトグラフ/紙	63×44.2	カタルーニャ美術館
3-12	サンティアゴ・ルシニョル	《「喜びは過ぎ去りて」公演ポスター》	1898年	リトグラフ/紙	85×55	演劇美術館
3-13		『ラ・アスケリヤ・ダ・ラ・トゥラーチャ』第1014号	1898年刊	雑誌	28×20×3	カタルーニャ図書館
3-14	ジュアン・リモーナ	《読書》	1891年	油彩/カンヴァス	100.5×67	カタルーニャ美術館
3-15	ジュゼップ・リモーナ	《初聖体拝領》	1897年	多彩色ストウッコ	88×116×62	カタルーニャ美術館

第4章 「四匹の猫」

No.	作者名	作品名	制作年	材質・技法	サイズ(cm)	所蔵
4-1	ラモン・カザス	《影絵芝居のポスター》	1897年	リトグラフ/紙	62.3×87.5	マルク・マルティ・コレクション
4-2	ラモン・カザス	《「影絵芝居」のプログラム》	1890年頃	リトグラフ/紙	9.5×15.5	マルク・マルティ・コレクション
4-3	ラモン・カザス	《「四匹の猫」の人形劇》	1899年	リトグラフ/紙	53.5×38.5	演劇美術館
4-4	ラモン・カザス/パブロ・ピカソ	《人形劇のパンフレット》	1890年頃	リトグラフ/紙	24×8	マルク・マルティ・コレクション
4-5	ジュリ・ピ・イ・ウリベリヤ	《人形劇の人形》	1897-1900年	木材・布・ガラス	44×46×9	演劇美術館
4-6		《「四匹の猫」での展覧会パンフレット》	1897年	リトグラフ/紙	20.5×15.5	マルク・マルティ・コレクション
4-7		『ベル・イ・プロマ』	1899-1903年刊	雑誌(合本)	Vol.I: 37.8×28×2 Vol.II: 37.8×28×2.2 Vol.IV: 30.2×22×3.4	カタルーニャ図書館
4-8		『ルス』	1897-98年刊	雑誌(合本)	37×16.6×2.4	カタルーニャ図書館
4-9	ラモン・カザス	《貞奴の肖像》	1902年	木炭・セピア色鉛筆・パステル/レイド紙	59.5×39	カタルーニャ図書館
4-10	ラモン・カザス	《川上音二郎の肖像》	1902年	木炭・セピア色鉛筆・パステル/レイド紙	48.5×33.5	演劇美術館
4-12	ジュアキム・ミール	《魅惑の入江—マジョルカ》	1901年頃	油彩/カンヴァス	86.5×121	カタルーニャ美術館
4-13	イジドラ・ヌネイ	《ジブシー女の横顔》	1902年	油彩/カンヴァス	73.5×54.5	カタルーニャ美術館
4-14	イジドラ・ヌネイ	《若いジブシー女》	1903年	油彩/カンヴァス	81×65.5	カタルーニャ美術館
4-15	イジドラ・ヌネイ	《習作》	1906年	油彩/カンヴァス	100.5×80.5	カタルーニャ美術館
4-16	イジドラ・ヌネイ	《寄りかかるジブシー女》	1906年	木炭・水彩/紙	30×41	ムンサラット美術館
4-17	イジドラ・ヌネイ	《座るジブシー女》	1909年	木炭/厚紙	49×32	ムンサラット美術館
4-19	エルマン・アングラダ・カマラザ	《夜の女》	1913年頃	油彩/カンヴァス	198×105.5	カタルーニャ美術館(バルセロナ県から長期寄託)

No.	作者名	作品名	制作年	材質・技法	サイズ(cm)	所蔵
4-20	ジュアキム・スニュー	《ルビック通りの市場》	1904年	油彩／カンヴァス	70×55	ゴディア財団
4-21	リカル・カナルス	《カフェ・コンセール》	1903年頃	油彩／カンヴァス	51×66	カタルーニャ美術館
4-22	リカル・カナルス	《化粧》	1903年	油彩／カンヴァス	147×113.5	カタルーニャ美術館
4-24	バプロ・ピカソ	《サンティアゴ・ルシニョルの肖像》	1899-1900年	インク／紙	11.1×12	バルセロナ・ピカソ美術館
4-25	バプロ・ピカソ	《デカダン》	1899-1900年	インク／紙	20.5×12.7	バルセロナ・ピカソ美術館
参考 出品II	バプロ・ピカソ	『アルテ・ホーベン』(ファクシミリ)	1901年刊	雑誌	39(H)	個人蔵
4-27	バプロ・ピカソ	《エル・グレコ風の男》	1899年頃	油彩／カンヴァス	34.5×31.2	バルセロナ・ピカソ美術館
4-29	バプロ・ピカソ	《エル・グレコ風に描かれた5人の男》	1899年頃	コンテ・サンギーヌ／紙	30.6×22	バルセロナ・ピカソ美術館
4-32	バプロ・ピカソ	《座る若い男》	1899年	木炭・水彩／紙	49×26	東京ステーションギャラリー
4-34	カルラス・カザジェマス	《酒場のジェルメーヌ》	1900-01年	パステル・木炭／紙	26×21.5	サバディ美術館

第5章 ノウサンティズマー地中海へのまなざし

No.	作者名	作品名	制作年	材質・技法	サイズ(cm)	所蔵
5-2	アウジェニ・ドルス／ ファリウ・アリアス(挿図)	『術語集』	1907年刊	書籍	21.8×15.7×2.4	カタルーニャ図書館
5-3	アウジェニ・ドルスほか著／ ジュゼップ・アラカイ(表紙)／ ジュアキム・オルタ(版元)	『ノウサンティスタ年鑑』	1911年刊	雑誌	32(H)	個人蔵
5-4	ホアキン・トーレス＝ガルシア	《村の女たち》	1911年	油彩／カンヴァス	75.5×100.2	カタルーニャ美術館
5-7	ジュアキム・スニュー	《森の三人の女たち》	1913年	油彩／カンヴァス	126×150.5	カタルーニャ美術館
5-8	ジュゼップ・クララー	《若さ》	1932-35年	ブロンズ	125×45×30.3	カタルーニャ美術館(バルセロナ市役所から永久寄託)
5-9	バプロ・ガルガーリョ	《ピカソの頭部》	1913年	石灰岩	22.5×21×23	カタルーニャ美術館
5-11	ジュリ・ゴンサレス	《母と子》	1912-14年頃	油彩・木炭／板紙	75×53	ゴディア財団
5-12	シャビエ・ヌゲース	《ライアタナス画廊酒倉壁画》	1915年	テンペラ／カンヴァス	88×115	カタルーニャ美術館
5-13	シャビエ・ヌゲース／フランセスク・ケー	《レストラン「カン・クリヤレタス」のタイル壁画(サルダーナ)》	1923年	施釉タイル	65.5×91.8 (各13×13)	バルセロナ・デザイン美術館
5-14	シャビエ・ヌゲース／リカル・クレスポ	《グラス》	1923-28年	ガラス・エナメル	4.5×3.5×3.5	カタルーニャ美術館
5-15	シャビエ・ヌゲース／リカル・クレスポ	《グラス》	1929年	ガラス・エナメル	グラス：13(H) 平皿：1(H)	バルセロナ・デザイン美術館
5-16	シャビエ・ヌゲース／リカル・クレスポ	《グラス》	1924-30年	ガラス・エナメル	11(H)	バルセロナ・デザイン美術館
5-17	シャビエ・ヌゲース／リカル・クレスポ	《グラス》	1928-33年	ガラス・エナメル	8(H)	バルセロナ・デザイン美術館
5-18	ジュゼップ・ブッチ・イ・カダファルク	《1917年開催予定のバルセロナ国際博覧会俯瞰図》	1915年	インク・鉛筆／カンヴァス紙	72.3×139.5	バルセロナ現代文書館
5-19	フランセスク・ダシス・ガリ	《1929年バルセロナ国際博覧会》	1929年	リトグラフ／紙	165×114	カタルーニャ美術館(カタルーニャ自治州から永久寄託)
5-20		《1929年バルセロナ国際博覧会のポスター》	1929年頃	オフセット	53×70	マルク・マルティ・コレクション
5-22	フランセスク・ダシス・ガリ	《バウ・カザルスのオーケストラ》	1931年	リトグラフ／紙	53.3×36.8	カタルーニャ美術館

第6章 前衛美術の勃興、そして内戦へ

No.	作者名	作品名	制作年	材質・技法	サイズ(cm)	所蔵
6-1	メラ・ムッテルミルヒ	《画商ジュゼップ・ダルマウの肖像》	1911年	油彩／カンヴァス	85×100	カタルーニャ美術館
6-2	ジュアン・ミロ	《赤い扇》	1916年	油彩／厚紙	103×73	株式会社フジ・メディア・ホールディングス
6-3	ジュアン・ミロ	《シラウナの教会》	1917年	油彩／カンヴァス	46×55	静岡県立美術館
6-6	ジュゼップ・リョレンス・イ・アルティガス	《黄土色の花瓶》	1936年	陶器	25.7×21.5	バルセロナ・デザイン美術館
6-7	ジュゼップ・リョレンス・イ・アルティガス	《深碧の花瓶》	1931年	陶器	36.5×24	バルセロナ・デザイン美術館
参考 出品III	ジュアン・ミロ／ ジュゼップ・リョレンス・イ・アルティガス	《大壺》	1966年	陶磁	119(H)／Φ70	京都国立近代美術館
参考 出品IV	バプロ・ピカソ	《ギターのある静物》	1912年	油彩／カンヴァス	64.5×50	東京ステーションギャラリー
6-11	サルバドール・ダリ	《ヴィーナスと水兵(サルバト＝ノバサイトへのオマージュ)》	1925年	油彩／カンヴァス	215×147.5	公益財団法人池田20世紀美術館
6-12	サルバドール・ダリ	《マリア・カルボーナ》(準備素描)	1925年	鉛筆／紙	49×32	ムンサラット美術館
6-13	サルバドール・ダリ／サバステア・ ガスク／リュイス・ムンタニャー	『黄色宣言(カタルーニャ反芸術宣言)』	1928年	パンフレット	54.5×39	カタルーニャ図書館
6-14	ジュゼップ・リュイス・セルト	《集合住宅ファサードの透視図》	1929年	写真製版／紙	90.5×67.5	バルセロナ現代文書館
6-20	サルバドール・ウルティガ	《ADLAN展覧会ポスター：三人の彫刻家たち》	1935年	カラー・ジュフホモンタージュ	52.2×38.2	個人蔵
6-22		『ダシ・イ・ダリャ』no.179	1934年12月刊	雑誌(合本)	32.7×28.8×4.3	カタルーニャ図書館／個人蔵
6-25	ジュアン・ミロ	《スペインを救え》	1937年	ステンシル／紙	50.2×32.1	サントリー・ポスター・コレクション(大阪中之島美術館へ寄託)
6-26	バプロ・ピカソ	《フランコの夢と嘘I》	1937年 画面中央上： 1月8日	エッチング・シュガー・アーク アタイント／紙	31.8×42.3	広島県立美術館
6-31	ル・コルビュジエ	《無題(バルセロナ陥落)》	1960年	リトグラフ／紙	71×103	大成建設株式会社
6-32	ジュリ・ゴンサレス	《サボテン人間I》	1939年	ブロンズ・鉄紙	65×27.4×15.5	カタルーニャ美術館

2-5 不思議の国のアリス展

会期：2月1日(土)～3月29日(日)

概要：ルイス・キャロル(1832-1898)の著書『不思議の国のアリス』は、1865年に英国で初めて出版されてから今日までに170余りの言語に翻訳され、世界中で世代を超えて親しまれ続けている不朽の名作である。オックスフォード大学クライスト・チャーチの数学講師だったキャロルが、少女アリス・リデルと出会ったことから生まれたこの物語は、文学の世界にとどまらず、美術、映画、舞台、ファッションなど様々な分野の表現者たちの創作意欲を刺激してきた。

本展は、主人公アリスの奇想天外な冒険を描いた2つの物語『不思議の国のアリス』と『鏡の国のアリス』を中心に、誕生から150年以上が経過しても決して色褪せることのない不思議な魅力に迫ろうというものであった。稀少な初刊本や、その挿絵を手がけたジョン・テニエルの下絵素描といった貴重な資料を筆頭に、物語の原点からその後の多角的な展開の様相をご覧いただいた。アリスの世界観を独自の解釈で表現したサルヴァドール・ダリ、エリック・カール、山本容子、清川あさみなど、国内外で活躍する芸術家たちの共演も見どころであり、日本初公開を含む約190点の作品により、魅惑の世界へと誘った。

巡回先：兵庫県立美術館、松本市美術館、そごう美術館、福岡市美術館、新潟市新津美術館

主催：静岡市、静岡市美術館 指定管理者(公財)静岡市文化振興財団、静岡新聞社・静岡放送、東映

後援：静岡市教育委員会、静岡県教育委員会、日本ルイス・キャロル協会、プリティッシュ・カウンスル

協力：SCRAP、聖徳大学・聖徳大学短期大学部、ヤマトグローバルロジスティクスジャパン、マクミラン社、武蔵野興業

観覧料：一般 1,300円(1,100円)
大高生・70才以上 900円(700円)
※()内は前売および20名以上の団体料金
※中学生以下無料
※障害者手帳等をご持参の方および介助者原則1名は無料

観覧者数：23,527人(有料16,496人、無料7,031人、有料率70.12%)

出品点数：200点(参考出品を含む)

制作物：

1)チラシ

<仕様>紙：シナールDGマットコート 90kg
サイズ・加工・数量：A3二つ折り(仕上A4) 73,000部

2)ポスター

<仕様>紙：シナールDGマットコート 135kg
サイズ・数量：
B1 70部、B2 2,050部、B3 2,750部(うち400部はJR帯つき)



チラシ表面



チラシ裏面



チラシ中面



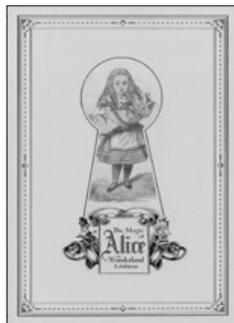
B1・B2ポスター



B3ポスター

カタログ：

<仕様>212×297mm、207頁



カタログ表紙

カラー図版258点

参考図版(カラー10点、モノクロ12点)

エドワード・ウェイクリング「ルイス・キャロル 略伝」
安井泉「『不思議の国のアリス』はことばと文化の饗宴」

楠本君恵「コラム ジョン・テニエルのアリス」

木場田由利子「コラム 数字42の秘密」

榎木野衣「コラム アリスの中の美術史」

関連年表／作家略歴／所蔵館紹介／作品リスト／参考図書

編集・発行：東映

発行年：2019年

普及ツール：

1)音声ガイド

一般向けの「魅惑のワンダーランド編」と、トークイベントに招いた伊沢拓司氏らQuizKnockからクイズが出題される「クイズ・バトル編」の2種を用意した。

2)コースター型DM

コースター型DMを制作、県内の図書館や生涯学習センター、書店、飲食店、雑貨店等に配布した。

制作物：

◆コースター型DM

<仕様>紙：SSコースター0.5mm

サイズ・加工・数量：φ90mm型抜き 15,000枚



コースター表面



コースター裏面

3)学校向けチラシの作成・配布

本展の周知のため、静岡市内の小・中学校全児童・生徒向けにチラシを作成し配布した。(裏面にはオープンアトリエの告知を掲載)

制作物：

◆チラシ

<仕様>紙：マットコート 70kg

サイズ・数量：A4 56,000部



学校向けチラシ表面



学校向けチラシ裏面

4)オリジナルピンバッジ付き特別前売券の販売

英国ロンドンに1号店を置くレストラン「ハードロックカフェ」とコラボしたオリジナルピンバッジ付き特別前売券を100セット限定で販売した。



5)謎解き体験型ゲーム・イベントの実施

全世界で550万人以上を動員する「リアル脱出ゲーム」とコラボレーション。専用キットを使って謎を解き明かし、不思議の国からの脱出を目指すゲーム・イベントを行った。

キット販売価格：1,500円

6)静岡会場オリジナルステッカープレゼントの実施

毎週水曜日16:00以降に入場した各日先着50名に、コンセプトショップ「水曜日のアリス」がプロデュースした静岡会場限定デザインのステッカープレゼントを行った。

利用者数：400件



7) 撮影コーナーの設置

来館者のSNS等での情報発信を期待し、美術館フロアエレベーター横に撮影コーナーを設置した。



各種連携：

1) 近隣店舗との連携

葵タワー内および近隣店舗で、展覧会入場者へ優待サービスの実施、本展に合わせた特別メニューの提供を行った。

制作物：

◆チラシ

<仕様>紙：マットコート 70kg
サイズ・数量：A4 4,000部

主要広報記録：

◆新聞

・鈴木明芽「『アリス展』に合わせ 特別メニュー提供へ 中島屋グランドホテル」『静岡新聞』、2月1日。



協賛チラシ表面



協賛チラシ裏面

主要広報記録：

1) テレビ・ラジオ

・「展覧会紹介」エフエムとよた株式会社『ラジオ・ラビート』、1月27日-2月2日放送。
・「展覧会紹介」FM-Hi!『chalchalサタデー 静岡ドライブインフォメーション』、2月1日放送。
・「不思議の国のアリス展がきょう開幕」SBSテレビ『静岡新聞ニュース』、2月1日放送。
・「展覧会紹介」SBSテレビ『soleいいね!』、2月3日放送。
・「展覧会紹介」SBSテレビ『ORANGE』、2月11日放送。
・「展覧会紹介」FM-Hi!『ひるラジ静岡情報館 airport769』、2月13日放送。
・「日本初公開の原画も」不思議の国のアリス展」SBSテレビ『soleいいね!』、2月14日放送。
・「『不思議の国のアリス展』来場者1万人を突破」SBSテレビ『JNNニュース』、2月20日放送。
・「『不思議の国のアリス展』来場者1万人を突破」SBSテレビ『ORANGE』、2月20日放送。
・「展覧会紹介」SBSテレビ『ORANGE』、2月27日放送。
・「展覧会紹介」SBSテレビ『soleいいね!』、2月28日放送。
・「関連イベント紹介」FM-Hi!『ひるラジ静岡情報館 airport769』、3月19日放送。

2) 新聞

・高橋哲也「大きな瞳に芯の強さ ①」『静岡新聞』(夕刊)、1月27日。
・高橋哲也「劇的出会い 漂う緊張感 ②」『静岡新聞』(夕刊)、1月28日。
・高橋哲也「独自の線 物語に新風 ③」『静岡新聞』(夕刊)、1月29日。
・鈴木明芽「1日開幕 展示準備」『静岡新聞』、1月30日。
・高橋哲也「『あおむし』との融合 ④」『静岡新聞』(夕刊)、1月30日。
・高橋哲也「色あせぬ 少女の世界 ⑤」『静岡新聞』(夕刊)、1月31日。
・伊沢拓司「アリス的世界観のやんちゃな少年時代 学びの種もた

くさん投げられていました」『静岡新聞 asten』、2月1日。

・「不思議の国のアリス展 開幕」『静岡新聞』、2月2日。
・鈴木明芽「クイズ、アートと好相性 東大発QuizKnock」伊沢拓司 志賀玲太」『静岡新聞』、2月20日。
・鈴木明芽「『アリス展』来場1万人」『静岡新聞』、2月21日。

3) 雑誌他

・「世界中で愛される大ベストセラーの作品世界 不思議の国のアリス展」『美術の窓』、1月号。
・「展覧会紹介」『和楽』、12・1月号。
・「展覧会紹介」『完全ガイドシリーズ263美術展完全ガイド2020』。
・「展覧会紹介」『AERA with Kids』、冬号。
・「展覧会紹介」『日経おとなのOFF』、1月号。
・「展覧会紹介」『ザ・マイカー』、2月号。
・「展覧会紹介」『和楽』、1・2月号。
・「展覧会紹介」『日経サイエンス』、2月号。
・「展覧会紹介」『ゆうゆう』、3月号。
・「展覧会紹介」『懸賞ナビ』、3月号。
・「不思議の国のアリス展 3月29日まで静岡市美術館」『富士ニュース』、22095号。
・「展覧会紹介」『HANAMARU PLUS』、1月号。
・「展覧会紹介」『和楽』、4・5月号。
・「150年以上読み継がれる名作の世界へ」『美術館&博物館散さんぽ』[東海版]週末おでかけミュージアム』。
・「多種多様なアリス作品を紹介 不思議の国のアリス展」『ホットベッパー』、3月号。

4) ウェブサイト等(媒体名のみ記載)

「インターネットミュージアム」、「OBIKAKE」、「絵本ナビスタイル」、「artscape」、「アートアジェンダ」、「静岡信用金庫LINE配信」、「HugMug」、「ウェブ版「美術手帖」」、「ぴあポイント」



2月20日 来場者1万人達成

関連事業：

1) QuizKnockスペシャルトークイベント
～アリス展×QuizKnockコラボの裏側～

概要：「東大最強の知識王」として人気の高い伊沢拓司氏が代表を務めるQuizKnock（クイズノック）から伊沢氏と志賀玲太氏を講師に招いた。本展とのコラボレーションが実現した裏話を紹介するとともに、来場者に参加を促しながら即興でアリスに関するクイズを出題し、豊富な知識を披露するという形式で進められ、多くの参加者から好評を得た。

日時：2月8日(土)①13:00-14:30 ②15:30-17:00

会場：多目的室 参加者数：計256人

講師：QuizKnock（伊沢拓司氏・志賀玲太氏）

参加料：3,000円(サイン入り本展オフィシャルブック、観覧券付き)

主要広報記録：

◆テレビ・ラジオ

・「「不思議の国のアリス展」東大王クイズ王がスペシャルイベント」SBSテレビ『SBSサタデーニュース』、2月8日放送。

◆新聞

・「即興でクイズ出題 アリス展の音声ガイド伊沢さんら制作秘話も」『静岡新聞』、2月9日。



2) 当館学芸員によるスライドトーク

概要：展覧会に対する理解を深めるため、当館学芸員によるスライドトークを会期中実施した。

日時：2月16日(日)14:00-

会場：多目的室 参加者数：38人

参加料：無料



第1章 始まりの話—アリス誕生

Section 1 : Begin at the Beginning

No.	作品名	作家名	年代	材質・技法	サイズ(縦×横cm)	所蔵
1	『不思議の国のアリス』初刊行版本	ルイス・キャロル	1866年	本	19.4×13.2	聖徳大学・聖徳大学短期大学部
2	『鏡の国のアリス』初版本	ルイス・キャロル	1872年	本	19.0×13.5	聖徳大学・聖徳大学短期大学部
3	ルイス・キャロル(チャールズ・ラトウィッジ・ドッドソン)の肖像画	E.ガートロード・トムソン	1899年頃	鉛筆画	18.7×13.0×1.27 (額を含む)	ローゼンバック博物館・図書館
4	チャールズ・ラトウィッジ・ドッドソンの肖像	チャールズ・ラトウィッジ・ドッドソン(ルイス・キャロル)	1874年3月14日	写真(複製)	17.145×10.795	ローゼンバック博物館・図書館
5	チャールズ・ラトウィッジ・ドッドソンの肖像	チャールズ・ラトウィッジ・ドッドソン(ルイス・キャロル)	1875年5月	写真(複製)	10.795×6.35	ローゼンバック博物館・図書館
6	オックスフォード大学クライスト・チャーチ学寮内のルイス・キャロルの部屋	ヒルズ&サウンダーズ	1898年頃	写真(複製)	17.78×24.13	ローゼンバック博物館・図書館
7	『スナーク狩り』	ルイス・キャロル	1876年	本	18.8×13.0	聖徳大学・聖徳大学短期大学部
8	『もつれっ話』	ルイス・キャロル	1885年	本	18.8×13.0	聖徳大学・聖徳大学短期大学部
9	『シルヴィーとブルーノ』	ルイス・キャロル	1889年	本	19.0×13.5	聖徳大学・聖徳大学短期大学部
10	『ユークリッドと彼の現代のライバルたち』	ルイス・キャロル	1879年	本	18.8×13.3	聖徳大学・聖徳大学短期大学部
11	『枕頭問題集(パート2)』	チャールズ・ラトウィッジ・ドッドソン(ルイス・キャロル)	1893年	本	18.4×12.3	聖徳大学・聖徳大学短期大学部
12	アリス・リデルの肖像	チャールズ・ラトウィッジ・ドッドソン(ルイス・キャロル)	1862年(原版)	写真(複製)	64.0×46.0	ニューヨーク公共図書館
13	“口を開けて。さくらんぼをくわえて。”	チャールズ・ラトウィッジ・ドッドソン(ルイス・キャロル)	1860年7月	写真(複製)	18.415×18.605	ローゼンバック博物館・図書館
14	『地下の国のアリス』初版本	ルイス・キャロル	1886年	本	19.0×13.2	聖徳大学・聖徳大学短期大学部
15	『地下の国のアリス』複製版	ルイス・キャロル	1985年	本	20.7×14.0	聖徳大学・聖徳大学短期大学部
16	「アリス」のスケッチ(複製)	ルイス・キャロル	1862-1864年	グラファイト鉛筆、 ペン／紙	11.4×17.9	オックスフォード大学クライスト・チャーチ理事会
17	ダチョウを抱えてクロッカーをすするシロウサギのスケッチ(複製)	ルイス・キャロル	1862-1864年	ペン／紙	18.2×11.4	オックスフォード大学クライスト・チャーチ理事会
18	シロウサギのスケッチ(複製)	ルイス・キャロル	1862-1864年	ペン／紙	11.5×16.7	オックスフォード大学クライスト・チャーチ理事会
19	『不思議の国のアリス』本扉の原稿(複製)	ルイス・キャロル	1864あるいは1865年	ペン／紙	18.4×11.2	オックスフォード大学クライスト・チャーチ理事会
21	「涙の池」のスケッチ(複製)	ルイス・キャロル	1862-1864年	ペン／紙	11.4×18.0	オックスフォード大学クライスト・チャーチ理事会
22	ダチョウを抱えてクロッカーをすするアリスのスケッチ(複製)	ルイス・キャロル	1862-1864年	ペン／紙	18.2×11.4	オックスフォード大学クライスト・チャーチ理事会
27	ジョン・テニエルの肖像	撮影者不明	1866年	写真(複製)	8.89×6.35	ローゼンバック博物館・図書館
28	『パンチ』合本 第46巻	絵：ジョン・テニエル	1864年	雑誌	27.7×22.0	聖徳大学・聖徳大学短期大学部
30	『鏡の国のアリス』挿絵のための下絵〈アリスと白の騎士〉	ジョン・テニエル	1870-1871年	鉛筆／紙	15.0×10.0	ローゼンバック博物館・図書館
31	『鏡の国のアリス』挿絵のための下絵〈鏡が溶け始めて〉	ジョン・テニエル	1870-1871年	鉛筆／紙	11.5×9.5	ローゼンバック博物館・図書館
33	『鏡の国のアリス』挿絵のための下絵〈白の王様〉	ジョン・テニエル	1870-1871年	鉛筆／紙	8.0×7.0	ローゼンバック博物館・図書館
34	『鏡の国のアリス』挿絵のための下絵〈白の騎士、火かき棒を滑り降りる〉	ジョン・テニエル	1870-1871年	鉛筆／紙	6.0×5.0	ローゼンバック博物館・図書館
35	『鏡の国のアリス』挿絵のための下絵〈ジャバーウォック、臆に炎めららと〉	ジョン・テニエル	1870-1871年	鉛筆／紙	17.0×10.0	ローゼンバック博物館・図書館
36	『鏡の国のアリス』挿絵のための下絵〈しゃべる花の庭〉	ジョン・テニエル	1870-1871年	鉛筆／紙	12.0×10.0	ローゼンバック博物館・図書館
37	『鏡の国のアリス』挿絵のための下絵〈アリスと小鹿〉	ジョン・テニエル	1870-1871年	鉛筆／紙	9.0×8.0	ローゼンバック博物館・図書館
38	『鏡の国のアリス』挿絵のための下絵〈「きれいになるとは思えねえ」ほろ苦い涙止まず、答える大工〉	ジョン・テニエル	1870-1871年	鉛筆／紙	8.0×10.0	ローゼンバック博物館・図書館
39	『鏡の国のアリス』挿絵のための下絵〈「準備はいいかね 牡蠣諸君 よければ食事と行きましょ」〉	ジョン・テニエル	1870-1871年	鉛筆／紙	8.0×11.0	ローゼンバック博物館・図書館
40	『鏡の国のアリス』挿絵のための下絵〈牡蠣の子ら ひとつ残らず腹の中〉	ジョン・テニエル	1870-1871年	鉛筆／紙	8.0×10.0	ローゼンバック博物館・図書館
41	『鏡の国のアリス』挿絵のための下絵〈髪をかきむしるトウィードルダム〉	ジョン・テニエル	1870-1871年	鉛筆／紙	7.0×9.0	ローゼンバック博物館・図書館
44	『鏡の国のアリス』挿絵のための下絵〈握手してつかわそうではないか！〉	ジョン・テニエル	1870-1871年	鉛筆／紙	13.0×10.0	ローゼンバック博物館・図書館
45	『鏡の国のアリス』挿絵のための下絵〈「しなぬるトープ」「いとまたラース」「ポロゴープ」〉	ジョン・テニエル	1870-1871年	鉛筆／紙	11.0×11.0	ローゼンバック博物館・図書館
46	『鏡の国のアリス』挿絵のための下絵〈ところがそいつは頑固で高慢〉	ジョン・テニエル	1870-1871年	鉛筆／紙	9.0×6.0	ローゼンバック博物館・図書館
47	『鏡の国のアリス』挿絵のための下絵〈すさまじい太鼓の音〉	ジョン・テニエル	1870-1871年	鉛筆／紙	10.0×7.0	ローゼンバック博物館・図書館
48	『鏡の国のアリス』挿絵のための下絵〈激しい決闘〉	ジョン・テニエル	1870-1871年	鉛筆／紙	10.0×9.6	ローゼンバック博物館・図書館

No.	作品名	作家名	年代	材質・技法	サイズ(縦×横cm)	所蔵
49	『鏡の国のアリス』挿絵のための下絵 〈溝に落ちた白の騎士〉	ジョン・テニエル	1870-1871年	鉛筆／紙	7.0×9.0	ローゼンバック博物館・ 図書館
50	『鏡の国のアリス』挿絵のための下絵 〈門の上に座ってた〉	ジョン・テニエル	1870-1871年	鉛筆／紙	7.0×8.0	ローゼンバック博物館・ 図書館
51	『鏡の国のアリス』挿絵のための下絵〈アリス女王〉	ジョン・テニエル	1870-1871年	鉛筆／紙	10.0×7.0	ローゼンバック博物館・ 図書館
53	『鏡の国のアリス』挿絵のための下絵 〈「もうがまんできないわ！」〉	ジョン・テニエル	1870-1871年	鉛筆／紙	15.0×10.0	ローゼンバック博物館・ 図書館
54	『鏡の国のアリス』挿絵のための下絵〈ボーン〉	ジョン・テニエル	1870-1871年	鉛筆／紙	6.0×5.0	ローゼンバック博物館・ 図書館
55	『鏡の国のアリス』印刷用活版	製作者不明	1897年頃	銅	銅版：14.4×9.0	聖徳大学・聖徳大学短 期大学部
56	『かつらをかぶったスズメバチ』	ルイス・キャロル	1977年	本	22.2×14.5	聖徳大学・聖徳大学短 期大学部
57	『子ども部屋のアリス』	ルイス・キャロル	1890年	本	28.0×22.0	聖徳大学・聖徳大学短 期大学部
58	『不思議の国のアリス』1903年版	ルイス・キャロル	1903年	本	12.6×10.2	聖徳大学・聖徳大学短 期大学部
59	切手ケース	ルイス・キャロル(チャールズ・ ラトウィッツ・ドッドソン) 絵：ジョン・テニエル 発行：エンペリン&サン、オック スフォード	1890年	紙	(ケース) 10.16×7.78 (フォルダー) 9.84×7.62	ローゼンバック博物館・ 図書館
60	『不思議の国のアリス』(独語版)	ルイス・キャロル	1869年	本	19.0×13.4	聖徳大学・聖徳大学短 期大学部
61	『不思議の国のアリス』(仏語版)	ルイス・キャロル	1869年	本	18.8×13.2	聖徳大学・聖徳大学短 期大学部
62	『不思議の国のアリス』(仏語バリ版)	ルイス・キャロル	1870年	本	19.1×13.5	聖徳大学・聖徳大学短 期大学部
63	『不思議の国のアリス』(伊語版)	ルイス・キャロル	1872年	本	18.8×12.9	聖徳大学・聖徳大学短 期大学部
64	『不思議の国のアリス』限定豪華版	作：ルイス・キャロル 絵：アーサー・ラッカム	1907年	本	28.5×23.6	聖徳大学・聖徳大学短 期大学部
65	『不思議の国のアリス』	作：ルイス・キャロル 絵：フランシ・マクマナス	1899年	本	25.5×18.6	聖徳大学・聖徳大学短 期大学部
66	『不思議の国のアリス』	作：ルイス・キャロル 絵：W.H.ウオーカー	不明(初版は1907年)	本	19.0×13.0	聖徳大学・聖徳大学短 期大学部
67	『不思議の国のアリス』	作：ルイス・キャロル 絵：M.L.カーク	1904年頃	本	20.9×15.7	聖徳大学・聖徳大学短 期大学部
68	『不思議の国のアリス』	作：ルイス・キャロル 絵：ベシー・ビーズ・ガットマン	1907年	本	21.1×15.0	聖徳大学・聖徳大学短 期大学部
69	『不思議の国のアリス』	作：ルイス・キャロル 絵：J.R.シンクレア	1909年	本	18.5×13.4	聖徳大学・聖徳大学短 期大学部
70	『不思議の国のアリス』	作：ルイス・キャロル 絵：チャールズ・ピアース	不明(初版は1908年)	本	18.7×13.0	聖徳大学・聖徳大学短 期大学部
71	『不思議の国のアリス』	作：ルイス・キャロル 絵：R.E.マクユーン	不明(1907年頃)	本	19.5×13.5	聖徳大学・聖徳大学短 期大学部
72	『不思議の国のアリス』	作：ルイス・キャロル 絵：ミリセント・サワビー	1907年	本	21.1×14.6	聖徳大学・聖徳大学短 期大学部
73	『不思議の国のアリス』	作：ルイス・キャロル 絵：トーマス・メイバンク	不明(1907年頃)	本	21.1×17.0	聖徳大学・聖徳大学短 期大学部
74	『不思議の国のアリス』	作：ルイス・キャロル 絵：ハリ・ラウントリー	不明(初版は1908年)	本	23.5×18.7	聖徳大学・聖徳大学短 期大学部
75	『不思議の国のアリス』	作：ルイス・キャロル 絵：チャールズ・ロビンソン	1910年	本	21.3×16.0	聖徳大学・聖徳大学短 期大学部
76	『不思議の国のアリス』	作：ルイス・キャロル 絵：K.M.ロバーツ	不明(初版は1908年)	本	19.0×12.8	聖徳大学・聖徳大学短 期大学部
77	『不思議の国のアリス』	作：ルイス・キャロル 絵：トーマス・ヤンソン	不明(1977年か)	本	23.2×15.7	聖徳大学・聖徳大学短 期大学部
78	『不思議の国のアリス』	作：ルイス・キャロル 絵：A.ラド	不明(1940年代)	本	25.0×19.0	聖徳大学・聖徳大学短 期大学部
79	『鏡の国のアリス』	作：ルイス・キャロル 絵：ピーター・ニューウェル	1902年	本	22.6×15.2	聖徳大学・聖徳大学短 期大学部
80	『不思議の国のアリス』パースデー・ブック	編：E.スタンレー 絵：J.P.M	1884年	本	21.4×17.0	聖徳大学・聖徳大学短 期大学部
81	『不思議の国のアリス』	ロバート・サブダ	2006年	本	26.2×20.6	聖徳大学・聖徳大学短 期大学部

第2章 アリスの物語—不思議の国への招待

Section 2: Entering Wonderland

No.	作品名	作家名	年代	材質・技法	サイズ(縦×横cm)	所蔵
82	『不思議の国のアリス』第1章より 〈お姉さんの隣に座っているアリス、ある夏の午後〉	チャールズ・サントーレ	2014-2017年	水彩／紙	27.9×27.9	チャールズ・サントーレ
83	『不思議の国のアリス』第1章より 〈シロウサギ〉	チャールズ・サントーレ	2014-2017年	水彩／紙	27.9×27.9	チャールズ・サントーレ
84	『不思議の国のアリス』第1章より 〈ウサギの巣穴を落ちていくアリス〉	チャールズ・サントーレ	2014-2017年	水彩／紙	83.8×27.9	チャールズ・サントーレ

No.	作品名	作家名	年代	材質・技法	サイズ(縦×横cm)	所蔵
85	『不思議の国のアリス』第1章より 《這いつくばってのぞいてみると》	チャールズ・サントーレ	2014-2017年	水彩／紙	27.9×111.7	チャールズ・サントーレ
86	『不思議の国のアリス』第1章より 《瓶に「わたしを飲んで」と印刷されたラベルが 結んでありました》	チャールズ・サントーレ	2014-2017年	水彩／紙	27.9×27.9	チャールズ・サントーレ
87	『不思議の国のアリス』第2章より 《扇子を手に、へたひ込んで泣き出すアリス》	チャールズ・サントーレ	2014-2017年	水彩／紙	27.9×55.8	チャールズ・サントーレ
88	『不思議の国のアリス』第2章より 《涙の池で生きものたちと泳ぎ回るアリス》	チャールズ・サントーレ	2014-2017年	水彩／紙	27.9×111.7	チャールズ・サントーレ
89	『不思議の国のアリス』第3章より 《ネズミのお話を聞くアリスと動物たち》	チャールズ・サントーレ	2014-2017年	水彩／紙	27.9×55.8	チャールズ・サントーレ
90	『不思議の国のアリス』第3章より 《コーカス競走》	チャールズ・サントーレ	2014-2017年	水彩／紙	27.9×27.9	チャールズ・サントーレ
91	『不思議の国のアリス』第4章より 《扉をノックするシロウサギ》	チャールズ・サントーレ	2014-2017年	水彩／紙	27.9×27.9	チャールズ・サントーレ
92	『不思議の国のアリス』第4章より 《子イヌとアリス》	チャールズ・サントーレ	2014-2017年	水彩／紙	27.9×27.9	チャールズ・サントーレ
93	『不思議の国のアリス』第5章より 《イモ虫からの忠告》	チャールズ・サントーレ	2014-2017年	水彩／紙	27.9×55.8	チャールズ・サントーレ
94	『不思議の国のアリス』第5章より 《アリスの顔をめがけて飛んできたハト》	チャールズ・サントーレ	2014-2017年	水彩／紙	27.9×27.9	チャールズ・サントーレ
95	『不思議の国のアリス』第6章より 《メバチサカナ召使いが、メダマカエル召使いへ、 女王さまからの招待状を手渡す》	チャールズ・サントーレ	2014-2017年	水彩／紙	27.9×27.9	チャールズ・サントーレ
96	『不思議の国のアリス』第6章より 《赤ん坊をあやす公爵夫人と、広い台所にいるアリス》	チャールズ・サントーレ	2014-2017年	水彩／紙	27.9×55.8	チャールズ・サントーレ
97	『不思議の国のアリス』第6章より 《チェシャネコとアリス》	チャールズ・サントーレ	2014-2017年	水彩／紙	27.9×27.9	チャールズ・サントーレ
98	『不思議の国のアリス』第7章より 《三月ウサギと帽子屋》	ヘレン・オクセンバリー	1999年	水彩、鉛筆／紙	17.9×25.9	ヘレン・オクセンバリー
99	『不思議の国のアリス』第7章より 《へんなお茶会》	ヘレン・オクセンバリー	1999年	水彩、鉛筆／紙	47.2×33.2	ヘレン・オクセンバリー
100	『不思議の国のアリス』第7章より 《庭に通じる扉を開けて》	ヘレン・オクセンバリー	1999年	水彩、鉛筆／紙	17.9×21.8	ヘレン・オクセンバリー
101	『不思議の国のアリス』第8章より 《女王さまのクローケー場》	ヘレン・オクセンバリー	1999年	水彩、鉛筆／紙	40.8×30.9	ヘレン・オクセンバリー
102	『不思議の国のアリス』第8章より 《ハートの女王さまとアリス》	ヘレン・オクセンバリー	1999年	水彩、鉛筆／紙	18.8×22.5	ヘレン・オクセンバリー
103	『不思議の国のアリス』第8章より 《シロウサギとアリス》	ヘレン・オクセンバリー	1999年	水彩、鉛筆／紙	30.9×41.0	ヘレン・オクセンバリー
104	『不思議の国のアリス』第8章より 《クローケーの試合》	ヘレン・オクセンバリー	1999年	水彩、鉛筆／紙	40.9×30.9	ヘレン・オクセンバリー
105	『不思議の国のアリス』第8章より 《木棺のフランゴとアリス》	ヘレン・オクセンバリー	1999年	水彩、鉛筆／紙	18.0×26.0	ヘレン・オクセンバリー
106	『不思議の国のアリス』第9章より 《グリフォンとニセウミガメとアリス》	ロバート・インベン	2008-2009年	水彩／紙	27.0×44.0	ロバート・インベン
107	『不思議の国のアリス』第9章より 《急ぐ公爵夫人とアリス》	ロバート・インベン	2008-2009年	水彩／紙	7.5×8.0	ロバート・インベン
108	『不思議の国のアリス』第9章より 《「起きよ、この怠け者めが！」と女王さまが言いました》	ロバート・インベン	2008-2009年	水彩／紙	27.0×44.0	ロバート・インベン
109	『不思議の国のアリス』第10章より 《アリスのために踊るグリフォンとニセウミガメ》	ロバート・インベン	2008-2009年	水彩／紙	27.0×44.0	ロバート・インベン
110	『不思議の国のアリス』第10章より 《アリスの話をじっと聞くニセウミガメとグリフォン》	ロバート・インベン	2008-2009年	水彩／紙	20.0×44.0	ロバート・インベン
111	『不思議の国のアリス』第10章より 《「立って、暗唱してみなよ！》	ロバート・インベン	2008-2009年	水彩／紙	27.0×44.0	ロバート・インベン
112	『不思議の国のアリス』第11章より 《裁判が始まる》	ロバート・インベン	2008-2009年	水彩／紙	27.0×44.0	ロバート・インベン
113	『不思議の国のアリス』第11章より 《シロウサギ、起訴状を読み上げる》	ロバート・インベン	2008-2009年	水彩／紙	27.0×44.0	ロバート・インベン
114	『不思議の国のアリス』第11章より 《帽子屋、証人として法廷で証言》	ロバート・インベン	2008-2009年	水彩／紙	27.0×44.0	ロバート・インベン
115	『不思議の国のアリス』第11章より 《法廷で待つアリス》	ロバート・インベン	2008-2009年	水彩／紙	27.0×44.0	ロバート・インベン
116	『不思議の国のアリス』第12章より 《アリス、陪審員席をひっくり返す》	ロバート・インベン	2008-2009年	水彩／紙	27.0×44.0	ロバート・インベン
117	『不思議の国のアリス』第12章より 《夢から覚めるアリス》	ロバート・インベン	2008-2009年	水彩／紙	27.0×44.0	ロバート・インベン
118	『不思議の国のアリス』第12章より 《川辺でお姉さんと》	ロバート・インベン	2008-2009年	水彩／紙	27.0×44.0	ロバート・インベン
119	『不思議の国のアリス』第12章より 《アリスのお姉さんも、夢を見る》	ロバート・インベン	2008-2009年	水彩／紙	27.0×44.0	ロバート・インベン
120	『鏡の国のアリス』第1章より 《何から何まで、黒の子ネコがいけなかった》	ラルフ・ステッドマン	1971年	墨／紙	55.5×76.5	ラルフ・ステッドマン・ アート・コレクション
121	『鏡の国のアリス』第1章より 《次の瞬間、アリスは鏡を通り抜けていました》	ラルフ・ステッドマン	1971年	墨／紙	56.0×76.5	ラルフ・ステッドマン・ アート・コレクション
122	『鏡の国のアリス』第1章より 《女王様がアリスを木にもたれかけさせてくれました》	ラルフ・ステッドマン	1971年	墨／紙	56.0×76.5	ラルフ・ステッドマン・ アート・コレクション
123	『鏡の国のアリス』第1章より 《アリスは女王様を急いでつまみ上げた》	ラルフ・ステッドマン	1971年	墨／紙	56.0×33.5	ラルフ・ステッドマン・ アート・コレクション

No.	作品名	作家名	年代	材質・技法	サイズ(縦×横cm)	所蔵
124	『鏡の国のアリス』第1章より 《白の女王様がすごい勢いで駆け抜け、 王様は灰の中に突き倒された》	ラルフ・ステッドマン	1971年	墨／紙	56.0×69.5	ラルフ・ステッドマン・ アート・コレクション
125	『鏡の国のアリス』第1章より 《ジャバーウォッキー》	ラルフ・ステッドマン	1971年	墨／紙	55.5×76.0	ラルフ・ステッドマン・ アート・コレクション
126	『鏡の国のアリス』第2章より 《「あたしたちは話せるのよ。周りに話すに足る人が いればの話だけだね」オニユリは言いました》	ラルフ・ステッドマン	1971年	墨／紙	65.0×76.0	ラルフ・ステッドマン・ アート・コレクション
127	『鏡の国のアリス』第2章より 《二人がいくら速く走っても、 どこかを通り過ぎることがなかった》	ラルフ・ステッドマン	1971年	墨／紙	56.0×76.5	ラルフ・ステッドマン・ アート・コレクション
128	『鏡の国のアリス』第3章より 《蜂のように見えたゾウ》	ジョン・ヴァーノン・ロード	2011年	ペン、インク、複写	23.5×12.5	ジョン・ヴァーノン・ロード
129	『鏡の国のアリス』第3章より 《汽車の客車》	ジョン・ヴァーノン・ロード	2011年	ペン、インク、 コラージュ、水彩／紙	10.0×12.0	ジョン・ヴァーノン・ロード
130	『鏡の国のアリス』第3章より 《鏡の国の昆虫たち》	ジョン・ヴァーノン・ロード	2011年	ペン、インク、コラー ジュ、グアッシュ／紙	31.5×20.0	ジョン・ヴァーノン・ロード
131	『鏡の国のアリス』第4章より 《トワイドルダムとトワイドルディー》(複製)	ジョン・ヴァーノン・ロード	2011年(原画)	ペン、インク、水彩／ 紙	23.5×12.0	ジョン・ヴァーノン・ロード
132	『鏡の国のアリス』第4章より 《セイウチと大工》	ジョン・ヴァーノン・ロード	2011年	ペン、インク、 コラージュ、水彩／紙	28.5×20.0	ジョン・ヴァーノン・ロード
133	『鏡の国のアリス』第4章より 《ぐっすり眠る赤の王様》	ジョン・ヴァーノン・ロード	2011年	ペン、インク、水彩／ 紙	10.0×12.0	ジョン・ヴァーノン・ロード
134	『鏡の国のアリス』第5章より 《羊屋の中の白の王様の使者(ハッタ)》	ジョン・ヴァーノン・ロード	2011年	ペン、インク、水彩／ 紙	23.2×12.0	ジョン・ヴァーノン・ロード
135	『鏡の国のアリス』第5章より 《羊の店》	ジョン・ヴァーノン・ロード	2011年	ペン、インク、水彩／ 紙	23.7×12.0	ジョン・ヴァーノン・ロード
136	『鏡の国のアリス』第5章より 《岸辺の間をゆったり進んで》	ジョン・ヴァーノン・ロード	2011年	ペン、インク、 コラージュ、水彩／紙	18.1×36.3	ジョン・ヴァーノン・ロード
137	『鏡の国のアリス』第6章より 《ハンプティ・ダンブティ》	ジョン・ヴァーノン・ロード	2011年	ペン、インク、 コラージュ、水彩／紙	23.5×15.0	ジョン・ヴァーノン・ロード
138	『鏡の国のアリス』第6章より 《“ゆけ火にしなぬるトープ” [ジャバーウォッキー]の詩より》	ジョン・ヴァーノン・ロード	2011年	ペン、インク、水彩／ 紙	23.5×14.0	ジョン・ヴァーノン・ロード
139	『鏡の国のアリス』第6章より 《堀から落ちるハンプティ・ダンブティ》	ジョン・ヴァーノン・ロード	2011年	ペン、インク、 コラージュ、水彩／紙	8.0×8.5	ジョン・ヴァーノン・ロード
140	『鏡の国のアリス』第7章より 《白の王様》	バリー・モーザー	1982年	木版画	28.26×13.9	バリー・モーザー&R.マイ ケルソンギャラリーズ
141	『鏡の国のアリス』第7章より 《ライオン》	バリー・モーザー	1982年	木版画	18.4×12.7	バリー・モーザー&R.マイ ケルソンギャラリーズ
142	『鏡の国のアリス』第7章より 《ユニコーン》	バリー・モーザー	1982年	木版画	18.4×12.7	バリー・モーザー&R.マイ ケルソンギャラリーズ
143	『鏡の国のアリス』第8章より 《白の騎士》	バリー・モーザー	1982年	木版画	28.5×14.6	バリー・モーザー&R.マイ ケルソンギャラリーズ
144	『鏡の国のアリス』第8章より 《赤の騎士》	バリー・モーザー	1982年	木版画	27.9×13.5	バリー・モーザー&R.マイ ケルソンギャラリーズ
145	『鏡の国のアリス』第9章より 《アリス女王》	アンヘル・ドミンゲス	2014年	ペン、インク、水彩／ 紙	50.0×65.0	アンヘル・ドミンゲス
146	『鏡の国のアリス』第9章より 《犬から骨を取ったら、何が残る》	アンヘル・ドミンゲス	2014年	ペン、インク、水彩／ 紙	65.0×42.0	アンヘル・ドミンゲス
147	『鏡の国のアリス』第9章より 《そのときです、扉が少し開きました》	アンヘル・ドミンゲス	2014年	ペン、インク、水彩／ 紙	50.0×32.5	アンヘル・ドミンゲス
148	『鏡の国のアリス』第10章より 《赤の女王様の目は大きく、緑色になった》	アンヘル・ドミンゲス	2014年	ペン、インク、水彩／ 紙	38.5×47.0	アンヘル・ドミンゲス
149	『鏡の国のアリス』第11章より 《そして、ほんとうに子ネコになった》	アンヘル・ドミンゲス	2014年	ペン、インク、水彩／ 紙	38.3×47.5	アンヘル・ドミンゲス
150	『鏡の国のアリス』第12章より 《わたしを起こしてしまっただのね、 もう！なんともすてきな夢だったのに！》	アンヘル・ドミンゲス	2014年	ペン、インク、水彩／ 紙	55.0×40.0	アンヘル・ドミンゲス

第3章 アートの国—世界が愛する永遠のアリス

Section 3: Dreaming with Alice

No.	作品名	作家名	年代	材質・技法	サイズ(縦×横cm)	所蔵
151	映画『不思議の国のアリス』	制作：ウォルトン・スタジオ 監督：セシル・ヘプワース、 バーシー・ストウ	1903年(イギリス)	映画	尺：約12分	
152	映画『不思議の国のアリス』予告編	制作：パラマウント・ピクチャーズ 監督：ノーマン・Z・マクロード	1933年(アメリカ)	映画	尺：2分34秒 *本編は77分間	
153	映画『不思議の国のアリス』パンフレット	パラマウント・ピクチャーズ	1934年	パンフレット	13.4×12.5	聖徳大学・聖徳大学短 期大学部
154	イラストレイテド・ロンドンニュース	イラストレイテド・ロンドンニュー ス・グループ	1933年12月16日	絵入り新聞	36.7×26.0	聖徳大学・聖徳大学短 期大学部
155	オペレッタ『不思議の国のアリス』資料写真	撮影者不明	1886年(初演)	写真(複製)	50.0×37.7	ニューヨーク公共図書 館
156	オペレッタ『不思議の国のアリス』資料写真	撮影者不明	1886年(初演)	写真(複製)	30.0×22.7	ニューヨーク公共図書 館
157	『不思議の国のアリス』『鏡の国のアリス』楽譜	作詞：ルイス・キャロル 作曲：ルーシー・ブロードウッド 絵：チャールズ・フォーカード	1921年	楽譜	28.5×21.8	聖徳大学・聖徳大学短 期大学部

No.	作品名	作家名	年代	材質・技法	サイズ(縦×横cm)	所蔵
158	『不思議の国のアリス』楽譜	作曲：アーニー・アームストロング	不明(1989年か)	楽譜	33.0×24.5	聖徳大学・聖徳大学短期大学部
159	『不思議の国のアリス』レコード(45RPM)	作詞：バーバラ・クライン 編曲：ジョン・パフローヴァ デザイン：L.B.ウールフェル	年代不明	レコード	23.0×18.2	聖徳大学・聖徳大学短期大学部
160～ 164	『ふしぎの国のアリス』キャラクター・モデルシート	作者不明	1950-1951年	フォスタットによる複写	各35.5×28.0	ビリー・アイルランド・カートゥーン・ライブラリー&ミュージアム
165～ 168	『ふしぎの国のアリス』ストーリーボード 《アリス、イモ虫に出会う》	作者不明	1951年	クレヨン／紙	各23.0×20.0	ビリー・アイルランド・カートゥーン・ライブラリー&ミュージアム
169～ 170	「ウォルト・ディズニー 名作童話シリーズ」より 『ふしぎの国のアリス』	マイク・アレックス	1974年	インク／紙	各66.0×46.5	ビリー・アイルランド・カートゥーン・ライブラリー&ミュージアム
171	ニセウミガメ	アーサー・ラッカム	1907年	ペン、インク、水彩／紙	17.8×26.7	コーシャク・コレクション
172	アリスとメダマカエル召使い	アーサー・ラッカム	1907年	水彩／紙	21.59×17.78	マイケル・ローブ
173	ぐっすり眠るグリフォン	アーサー・ラッカム	1907年	水彩／紙	30.48×22.86	マイケル・ローブ
174	チェシャネコいもむし	エリック・カール	2018年	薄紙、アクリル、コラージュ	30.8×45.2	エリック・カール
175～ 179	『アリス』のための挿絵	ヤン・シュヴァンクマイエル	2006年	ドローイング、コラージュ、フロッタージュ	各57.0×42.0	ヤン・シュヴァンクマイエル
180	アリスとシロウサギ	ウラジミール・クラヴィヨ＝テレブネフ	2010年	写真	40.0×30.0	ウラジミール・クラヴィヨ＝テレブネフ
181	ウサギの巣穴に落ちるアリス	ウラジミール・クラヴィヨ＝テレブネフ	2010年	写真	40.0×30.0	ウラジミール・クラヴィヨ＝テレブネフ
182	泣いているアリス	ウラジミール・クラヴィヨ＝テレブネフ	2010年	写真	40.0×30.0	ウラジミール・クラヴィヨ＝テレブネフ
183	大きくなったアリス	ウラジミール・クラヴィヨ＝テレブネフ	2010年	写真	37.0×40.0	ウラジミール・クラヴィヨ＝テレブネフ
184	アリスと公爵夫人	ウラジミール・クラヴィヨ＝テレブネフ	2010年	写真	40.0×30.0	ウラジミール・クラヴィヨ＝テレブネフ
185	へんなお茶会	ウラジミール・クラヴィヨ＝テレブネフ	2010年	写真	35.0×40.0	ウラジミール・クラヴィヨ＝テレブネフ
186	アリスと女王さま	ウラジミール・クラヴィヨ＝テレブネフ	2010年	写真	40.0×40.0	ウラジミール・クラヴィヨ＝テレブネフ
187	アリスとダチョウ	ウラジミール・クラヴィヨ＝テレブネフ	2010年	写真	40.0×30.0	ウラジミール・クラヴィヨ＝テレブネフ
188	アリスと舞い上がるトランプ	ウラジミール・クラヴィヨ＝テレブネフ	2010年	写真	40.0×37.0	ウラジミール・クラヴィヨ＝テレブネフ
189- a-m	『不思議の国のアリス』	作：ルイス・キャロル 絵：サルヴァドール・ダリ	1969年	本	各43.0×58.2	聖徳大学・聖徳大学短期大学部
190	『不思議の国のアリス』より《涙の池》	マリー・ローランサン	1930年	本	26.0×29.3	聖徳大学・聖徳大学短期大学部
195	毒さのこ	草間彌生	1990年	シルクスクリーン／紙	45.4×52.8	松本市美術館
196	西瓜	草間彌生	1986年	シルクスクリーン／紙	46.0×53.5	松本市美術館
198	深海	草間彌生	1989年	シルクスクリーン／紙	45.5×53.0	松本市美術館
200	記念撮影	草間彌生	1995年	エッチング／紙	29.5×22.5	松本市美術館
203	涙の池	清川あさみ	2013年	ミスト・メディア	36.0×50.2×31.7	清川あさみ
204	青いイモムシ	清川あさみ	2013年	ミスト・メディア	36.0×50.2×31.7	清川あさみ
205	めちゃくちゃティーパーティー	清川あさみ	2013年	ミスト・メディア	36.0×50.2×31.7	清川あさみ
206	トランプの嵐	清川あさみ	2013年	ミスト・メディア	36.0×50.2×31.7	清川あさみ
207	Alice	清水真理	2016年	石塑、アクリル、布	90.0	清水真理
208	三月ウサギ	清水真理	2014年	石塑、アクリル、布	50.0	清水真理
209	眠りネズミ	清水真理	2014年	石塑、アクリル、布	30.0	清水真理
210	帽子屋	清水真理	2014年	石塑、アクリル、布	50.0	清水真理
211	ヒールレスシューズシリーズ 「アリスの青い靴」	館鼻則孝	2018年	ガラスストーン、牛革、豚革、真鍮	19.5×21.5×8.5 (片方)	株式会社レクター
212	Hop, Step, Hop, Step	山本容子	2007年	油彩／キャンバス	80.8×261.0	オフィス・ルカス
213	Through the Looking-Glass, Bronze Mirror	山本容子	2010年	ミクスト・メディア(銅版、ウッドロングティ、グリーンフォーク、ゴールドマーカー、紙ねんど、紙、アクリル絵具)	14.0×30.0×30.0	オフィス・ルカス
214	"It's My Own Invention"	山本容子	2010年	ソフトグラウンド・エッチング、グワッシュ／紙	28.0×39.5	オフィス・ルカス
215	ミミクリーの小部屋	anno lab	2019年	インスタレーション		anno lab

3. 交流事業(教育普及事業)目次

3-1 交流事業

1) Shizubi シネマアワー	47
2) しずびオープンアトリエ	48
3) しずびチビッコプログラム	49
4) 暦とあそぶワークショップ	50
5) プレゼントワークショップ	50
6) 夜店市	52

3-2 連携事業

1) ミュージアム教室・展示解説	53
2) めぐるりアート静岡2019	54
3) 生涯学習センター・静岡市美術館連携事業「しずび出前講座」	56
4) 静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業(三館共同事業)	57
5) 2020しずおか文化プロジェクト	57
6) その他施設との連携	58

3. 交流事業(教育普及事業)

3-1 交流事業

1)Shizubi シネマアワー

(1)Shizubi シネマアワー vol.24

「天心」

概要：美術館ならではのテーマとセレクトで映画上映を行う、Shizubiシネマアワーの24回目。「小倉遊亀と院展の画家たち展」にあわせ、日本美術院の設立者、岡倉天心と弟子たちの師弟愛と葛藤を描いた映画を上映した。

日時：5月3日(金・祝)14:00-(開場 13:30)

上映内容：

『天心』(松村克弥監督/2013年/日本/122分)

会場：多目的室 参加者数：81人

参加料：500円

企画協力：(株)サークルナートホール



告知チラシ(当館作成)

(2)Shizubi シネマアワー vol.25

「もっと知りたい建築の世界」

概要：「奇蹟の芸術都市バルセロナ展」にあわせ、現在も建設の続く「サグラダ・ファミリア」と世界各地の名建築をテーマとした2本のドキュメンタリー作品を上映した。

日時：①11月30日(土) ②12月1日(日)

いずれも14:00-(開場 13:30)

上映内容：

①『創造と神秘のサグラダ・ファミリア』(ステファン・ハウプト監督/2012年/スイス/94分)

②『もしも建物が話せたら』(監督：ヴィム・ヴェンダース、ミハエル・グラウガー、マイケル・マドセン、ロバート・レッドフォード、マルグレート・オリン、カリム・アイノズ/2014年/ドイツ、デンマーク、ノルウェー、オーストリア、フランス、アメリカ、日本/165分)

会場：多目的室 参加者数：①95人 ②61人

参加料：いずれも500円

企画協力：(株)サークルナートホール



告知チラシ(当館作成)

2)2020しずおか文化プロジェクト

しずびオープンアトリエ

概要：春・夏の年2回、開催中の展覧会にあわせて実施する、鑑賞と創作が一体となったオリジナルワークショップ。地元の大学生による「学生ボランティア」が制作をサポートする。

(1)「絵画を立体化！紙ジオラマ「立版古(たてばんこ)」をつくろう」

概要：「印象派への旅 海運王の夢 パレル・コレクション」展にあわせ、ドガの名作《リハーサル》等を立体的に表した紙のジオラマ、「立版古」を制作した。冒頭、ワークショップ指導員が「鑑賞ガイド」を用いながら、展覧会の概要や作品の簡単な解説をし制作へとつなげた。参加者数は252人と人気を博した。本事業のリピーターが増加傾向にあることに加え、複数のプログラムを用意したことも参加者増につながったようだ。

日時：8月9日(金)～18日(日)

いずれも ①13:30～ ②15:00～

(各回約1時間、計10日間・20回実施)

会場：ワークショップ室

対象・参加者数：小学生以上 計252人(各回定員15人)

参加料：200円(材料費含む)



(2)「アリスの飛び出すカードをつくろう！」

概要：「不思議の国のアリス展」にあわせ、出品作品のロバート・サブダ作『不思議の国のアリス』を参考に、物語の3場面「ウサギの巣穴」「へんなお茶会」「トランプが降りかかる」を飛び出すカードに仕立てた。ワークショップ指導員で銅版画家でもある武田あずみ氏による描き下しのイラストは、アリスの世界観とマッチし大変好評であった。しかし新型コロナウイルス感染症対策のため、初日、2日目を除く計8日・16回が中止となった。

日時：2月22日(土)・23日(日・祝)

いずれも ①13:30～ ②15:00～

(各回約1時間、計2日間・4回実施)

会場：ワークショップ室

対象・参加者数：小学生以上 計79人(各回定員15人)

参加料：200円(材料費含む)



3)2020しずおか文化プロジェクト

しずびチビッコプログラム

概要：2歳以上の未就学児を対象とした、鑑賞に基づく制作プログラム。保護者は展覧会を見学する。展覧会毎に様々なアプローチで未就学児の表現の可能性に迫っている。市内保育支援団体の協力を得て実施。(保護者は要観覧券)

(1)「小倉遊亀と院展の画家たち展」

概要：日本画絵の具での着彩や箔押し体験をとおり、日本画の材料や技法に親しんだ。未就学児でも難解でなく安全に取り組めるよう、事前に画材・道具の吟味や技法研究を十分に行い、水干絵の具やかかわ液の代用品であるアートグルー、比較的安価な真鍮箔、純銀箔などを使用した。和紙に水干絵の具で着彩、箔押し後にティッシュで絵の具をこすり出すというオリジナルの制作体験により、日本画に触れる珍しい機会として好評を得た。

日時：5月25日(土)①10:30-12:00 ②14:00-15:30

会場：ワークショップ室

対象・参加者数：2歳以上の未就学児 計18人

参加料：子ども1人につき500円



(2)「メアリー・エインズワース浮世絵コレクション」

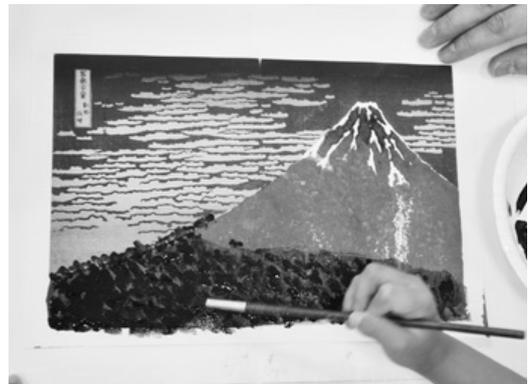
概要：浮世絵展にちなみ、出品作品の葛飾北斎《富嶽三十六景 凱風快晴》をもとに、版の摺り体験と作品の模写を行った。摺りに使用する版木は、本作品の富士山部分を予めスチロール板で彫ったもので代用した。また、摺りに使用する和紙は背景部分が印刷されたものを用意。版木を使用して摺り、筆で富士の樹海部分を描き加えると作品が完成する流れとした。版画の摺り技法の一連の工程を体験できるプログラムとして好評を得た。

日時：6月23日(日)①10:30-12:00 ②14:00-15:30

会場：ワークショップ室

対象・参加者数：2歳以上の未就学児 計22人

参加料：子ども1人につき500円



(3)「印象派への旅 海運王の夢」

概要：しずびオープンアトリエの内容を未就学児向けにアレンジし実施した。冒頭の図版を用いた鑑賞では、絵の中に描かれているモチーフやその位置関係を丁寧に確認し、制作へとつなげた。練習用のアンリ・シダネルの《月明かりの入り江》を制作した後、エドガー・ドガの《リハーサル》の立版古づくりに入った。今回はさみを使用するため未就学児にはハードルが高いのではと危惧したが、安全面に十分配慮し問題なく進行することができた。

日時：8月24日(土)①10:30-12:00 ②14:00-15:30

会場：ワークショップ室

対象・参加者数：2歳以上の未就学児 計22人

参加料：子ども1人につき500円



4)2020しずおか文化プロジェクト

暦とあそぶワークショップ

概要：祭事や年中行事を通して季節を感じ、それをかたちにするワークショップシリーズ。暦の本来の意味や歴史を学びながら制作する。

(1)暦とあそぶワークショップvol.18

「こどもの日の準備をしよう！」

概要：端午の節句にちなんだ郷土玩具「鯉乗り童子」を、アルミ線と石膏包帯を用いて成形し、着彩した。冒頭のレクチャーでは端午の節句の由来の他、風習や飾り物の変遷を紹介。あわせて全国に見られる子どもの成長を祈願する郷土玩具を取り上げ、その色やかたち、組み合わせにこめられた意味を紹介した。それを参考に、童子の部分にタコ(多幸)などにアレンジした作品も見られた。郷土玩具制作は手間と時間を要するが、短時間で固まる石膏包帯を使用することで、成形から絵付けまでを体験してもらうことができた。

日時：4月27日(土)13:00-16:30

会場：ワークショップ室

対象・参加者数：小学生以上の子と親 9組22人

参加料：1人につき500円

主要広報記録：

◆新聞

・足立健太郎「端午の祝い 玩具作りで 市美術館で親子講座」『静岡新聞』、4月28日。



5)2020しずおか文化プロジェクト

プレゼントワークショップ

概要：子どもたちの創作意欲の原点である、家族や大切な人への想いをかたちにし、プレゼントをつくる、という行為に焦点を当て、記念日にあわせて実施。プレゼントを「つくって、贈る」ことから生まれるコミュニケーションに主眼を置く。

(1)プレゼントワークショップvol.27

「母の日だ！親子でプレゼントをつくろう」

概要：家庭のオープンで焼成可能なオープン陶土を用い、母の顔の陶板を制作した。冒頭のレクチャーでは粘土をとり上げ、楔形文字の刻まれた粘土板や、縄文土器等の図版をスライドで見せながら、古代から人間が粘土の優れた可塑性を生かし生活の中にとり入れてきたことを紹介した。制作には、粘土を一定の厚みにのばすタタラづくりと、ベースの粘土に色の異なる化粧土を塗り、引っ掻くことで模様を施す掻き落としの技法体験をとり入れた。

日時：5月11日(土)13:00-16:30

会場：ワークショップ室

対象・参加者数：小学生とその母 10組21人

参加料：1人につき500円(材料費含む)

主要広報記録：

◆新聞

・大須賀伸江「母の日 感謝込めて 優しい顔 陶板に 静岡市美術館」『静岡新聞』、5月12日。



(2)プレゼントワークショップVol.28

「父の日だ！親子でプレゼントをつくろう」

概要：家庭のオープンで焼成可能なオープン陶土を用い、父の顔の陶板を制作した。母の日の作品は掻き落としで表現した髪の毛の部分が面白い効果を生み出したが、今回は短髪の参加者が多いため、帽子をかぶったものや肩まで含めた作品を提案。帽子や服の部分にも掻き落としを施すことで表現の幅を広げることができた。

日時：6月15日(土)13:00-16:30

会場：ワークショップ室

対象・参加者数：小学生とその父 8組17人

参加料：1人につき500円(材料費含む)

主要広報記録：

◆新聞

・大滝麻衣「父の日」互いに制作 笑顔の陶板 親子で 静岡市美術館が講座」『静岡新聞』、6月16日。



(3)プレゼントワークショップVol.29

「クリスマスの準備をしよう！」

概要：冒頭のレクチャーではクリスマスの象徴であるツリーや星、サンタクロース、プレゼントを贈る由来等をキリスト教絵画の中から探った。今回は絵本作家エリック・カールの絵本づくりを参考に制作へとつなげた。トレーシングペーパーを支持体に下塗りを施した後、箸やスプーン、割り箸、綿棒等を使い自由にテクスチャをつけて。こども編ではこの色紙をもとにコラージュをし、クリスマスカードを制作した。大人編では支持体の透過性を生かし、切り抜いた厚紙に色紙を貼りカードに仕立てるプログラムを実施した。カッターを使って緻密に切り抜かれた作品等、大人編ならではのクオリティの高い作品が多く見られた。途中、作品を鑑賞し合う時間を設けたところ、次々と新しい表現が生まれた。

日時：①子ども編 12月7日(土)

②大人編 12月8日(日)

いずれも 13:00-16:30

会場：いずれも ワークショップ室

対象・参加者数：①小学生23人 ②中学生以上18人

参加料：いずれも 1人につき500円(材料費含む)

主要広報記録：

◆ウェブサイト(媒体名のみ記載)

「まなシェア」



子ども編



大人編

6)夜店市

概要：中央商店街恒例のイベント「夜店市」に、財団事務局と共同で出店。当館ブースでは「印象派への旅 海運王の夢 バレル・コレクション」展のチケット、当館オリジナル虹色鉛筆等を販売し、美術館の広報に努めた。また27年度より販売している地元企業のAOI BREWINGが醸造したオリジナルビールも醸造、販売した。

日時：8月10日(土)・11日(日・祝)・12日(月・振休)
いずれも 15:00-21:00

場所：葵区紺屋町名店街「小梳神社」前

販売物：「印象派への旅 海運王の夢 バレル・コレクション」展当日券、静岡市美術館オリジナル虹色鉛筆、同マスキングテープ、同缶バッジ、Shizubi茶アメ、くるくるレインボー、カゼグルマ、ぽいぶみ、EARTH PIECE、オリジナルビール「あわい」、「くるり」
※チケット・グッズ購入者には、スピードくじを実施した。

製作物：

◆うちわ

<仕様>サイズ：直径185mm 縦275mm (柄付き)
印刷：両面オフセット4色印刷 ニス引き
枚数：10,000部



うちわA面



3-2 連携事業

1)ミュージアム教室・展示解説

概要：当館では、学校や生涯学習センター等からの団体を対象にして、展覧会担当学芸員が直接解説する鑑賞教室に力を入れている。幼稚園・保育園児～高校生については、子どもたちと当館学芸員等が対話形式で展覧会鑑賞を行う「ミュージアム教室」として実施。子どもたち自身が作品の魅力を発見し、考えるよう促すことで、美術を身近で楽しいものと感じることを目指すとともに、美術館でのマナーも学習することを目的とする。大学・専門学校生、および生涯学習センター・生涯学習交流館等の事業参加者については、展覧会の見どころを中心とした「展示解説」として実施している。



対象：＜ミュージアム教室＞幼稚園・保育園児～高校生

＜展示解説＞大学生・専門学校生～一般

実施内容・所要時間(共通)：

スタッフの解説30分＋自由鑑賞30分 計60分

利用状況：

◆ミュージアム教室利用状況

	幼稚園・保育園		小学校		中学校		高等学校		特別支援学校 特別支援学級		児童クラブ等		展覧会合計	
	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数
小倉遊亀と院展の画家たち展 滋賀県立近代美術館所蔵作品による	0	0	1	38	4	101	5	101	0	0	0	0	10	240
オーバリン大学 アレン・メモリアル美術館所蔵 メアリー・エインズワース浮世絵コレクション －初期浮世絵から北斎・広重まで	0	0	3	137	8	291	8	347	0	0	0	0	19	775
印象派への旅 海運王の夢 パレル・コレクション	0	0	1	120	2	29	9	135	0	0	0	0	12	284
奇蹟の芸術都市バルセロナ展	0	0	2	20	4	70	5	94	0	0	0	0	11	184
不思議の国のアリス展	1	65	1	46	6	100	4	59	0	0	0	0	12	270
計	1	65	8	361	24	591	31	736	0	0	0	0	64	1,753

計 64団体 1,753人

◆展示解説利用状況

	大学・専門学校		生涯学習センター 生涯学習交流館		その他		展覧会合計	
	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数
小倉遊亀と院展の画家たち展 滋賀県立近代美術館所蔵作品による	1	64	1	18	1	39	3	121
オーバリン大学 アレン・メモリアル美術館所蔵 メアリー・エインズワース浮世絵コレクション －初期浮世絵から北斎・広重まで	0	0	2	90	7	261	9	351
印象派への旅 海運王の夢 パレル・コレクション	0	0	0	0	2	76	2	76
奇蹟の芸術都市バルセロナ展	1	16	1	44	2	157	4	217
不思議の国のアリス展	1	7	0	0	0	0	1	7
計	3	87	4	152	12	533	19	772

計 19団体 772人

2) 静岡市「まちは劇場」プロジェクト

めぐりアート静岡2019

概要：「めぐりアート静岡」は、静岡大学「アートマネジメント力育成事業」美術分野実習として2013年から始まり、静岡市内の様々な場所を会場に、今を生きるアートを紹介する展覧会として毎年開催している。7回目となる本展では、市内4カ所を会場に9人のアーティストを紹介した。当館では、焼津市在住(アトリエは静岡市清水区)の画家、小左誠一郎氏による個展を、多目的室にて開催。今年度制作された新作8点を含む計11点を展示した。なかには、高さ2.5メートル以上の大作もあり見ごたえがあった。また、JR東静岡駅前の「アート&スポーツ/ヒロバ」での、彫刻家・岩野勝人氏の「コンテナ・アートベース」プロジェクトも担当、「子どもと大人の造形ワークショップ」を開催し、多くの親子連れが参加した。

会期：10月22日(火・祝) - 11月10日(日) ※②会場のみ10月19日(土)から

会場：①当館多目的室 ②東静岡アート&スポーツ/ヒロバ ③静岡県立美術館 ④中勘助文学記念館 ⑤小梳神社(10月20日(日))

出品作家：①小左誠一郎 ②御宿至、熊谷拓明、岩野勝人、千葉広一、ありえだなお ③堀園実 ④多々良榮里 ⑤きむらとしろうじんじん

来場者数：6,810人(当館分のみ)

出品リスト(当館分のみ)：

小左誠一郎 絵画作品 計11点(すべて油彩・カンヴァス)

1. 《円 三角 四角》2015年 53×45.5cm
2. 《UPO》2019年 41×31.8cm
3. 《○△□》2019年 116.7×80.3cm
4. 《Saturn》2019年 60.6×45.5cm
5. 《Saturn》2019年 60.6×45.5cm
6. 《○△□》2019年 41×31.8cm
7. 《○△□》2019年 259×181.8cm
8. 《UPO》2019年 100×65.2cm
9. 《○△□》2019年 53×45.5cm
10. 《Untitled》2016年 65.2×53cm
11. 《Saturn》2018年 33.3×24.2cm

主要広報記録：

◆新聞

・橋爪充「めぐりアート静岡」あす開幕 本県ゆかりの芸術家集結 初参加 御宿さん、最終確認」『静岡新聞』、10月18日。

・菊地真生「めぐりアート静岡」開幕 「空間的芸術」体感 市内4会場 展示やダンス劇」『静岡新聞』、10月20日。

◆ウェブサイト(媒体名のみ記載)

「アットエス」、「インターネットミュージアム」

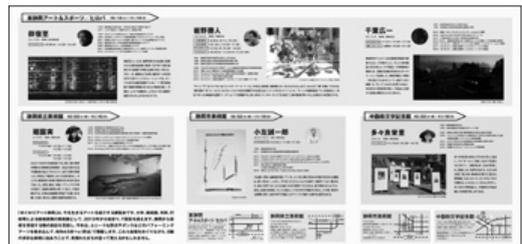
制作物：

◆チラシ

<仕様>サイズ・加工：626×299mm (3つ折り 仕上A4)



チラシ表面



チラシ中面

◆記録集

<仕様>A4版、43頁



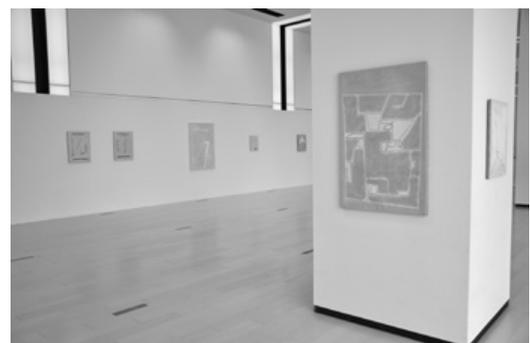
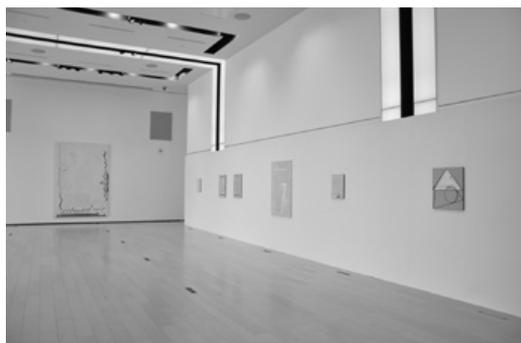
記録集 表紙

ごあいさつ／作家紹介／アーティスト・インタビュー／来場者の声／成果と課題 等

編集：白井嘉尚、堀切正人、川谷承子、以倉新、柚木康裕、植松篤

発行：公益財団法人静岡市文化振興財団

発行年：2020年



関連事業：

◆アーティストトーク①

概要：作家が、自らの制作のプロセスや意図についてトークを行った。参加者は作家の活動について理解を深めた他、質問と意見交換も行われ、作家にとっても有意義なイベントになった。

日時：10月26日(土)11:00-11:30

会場：多目的室

参加者数：16人

講師：小左誠一郎氏(出品作家)



◆アーティストトーク②

概要：作品の前で、作家が自らの活動についてトークを行なった。同日開催のワークショップ「色とカタチと空間、そして光」のゲスト講師・和泉誠氏(保育施設「こどもなーと」代表)もトークに加わり、ワークショップについてもふりかえった。

日時：11月3日(日・祝)13:00-13:30

会場：東静岡アート&スポーツ/ヒロバ

参加者数：17人

講師：岩野勝人氏(出品作家)



◆岩野勝人 子どもと大人の造形ワークショップ①「くもならべ」

概要：雲の形のパネルに自由に色を塗り、「コンテナ・アートベース」内の屏風状格子に取り付け、立体的な雲のオブジェを制作した。会期を通して「コンテナ・アートベース」に展示し、多くの人が鑑賞した。また、後半には巨大シャボン玉をみんなで飛ばした。

日時：10月20日(日)13:00-16:00

会場：東静岡アート&スポーツ/ヒロバ

参加者数：26人

講師：岩野勝人氏(出品作家)



◆岩野勝人×和泉誠 子どもと大人の造形ワークショップ②「色とカタチと空間、そして光」

概要：ヒロバにある小山を白いシートで覆い、富士山に見立てて、手や足で色を塗った。親子連れなど多くの参加者があり、絵具の汚れを気にすることなく全身で創作活動を楽しみ、屋外ならではの有意義なワークショップになった。また後半には、巨大シャボン玉をみんなで飛ばした。

日時：11月3日(日・祝)14:00-16:00、4日(月・振休)10:00-12:00

会場：東静岡アート&スポーツ/ヒロバ

参加者数：計41人

講師：岩野勝人氏(出品作家)、
和泉誠氏(保育施設「こどもなーと」代表)



3)生涯学習センター・静岡市美術館連携事業

「しずび出前講座」

概要：「しずび出前講座」は、開催中の展覧会にかかわらず、生涯学習センターに当館学芸員を講師として派遣し、座学やワークショップを実施する連携講座。本年度は座学7講座、座学+ワークショップ1講座を実施した。

<講義>

①藁科生涯学習センター

「花開く個性－小倉遊亀と院展の画家たち」

概要：1回目の講座では日本美術院の沿革や出品作家の略歴を紹介するなど、歴史的背景を中心に講義し、2回目の美術館での鑑賞では作品個々の鑑賞ポイントを解説した。

日時：①4月21日(日)10:00-11:30 ②5月12日(日)9:30-10:30

会場：①藁科生涯学習センター ②当館 参加者数：計35人

講師：山本香瑞子

②西部生涯学習センター

「奇蹟の芸術都市バルセロナ～ガウディ、ピカソ、ミロ～」

概要：「奇蹟の芸術都市バルセロナ展」に出品予定の作品を中心にとりあげ、現在のバルセロナの街に姿がどのように19世紀になって形づくられ、新たな芸術を生み出していったのかを解説した。

日時：5月18日(土)13:30-15:30

会場：西部生涯学習センター 参加者数：46人

講師：小川かい

③西奈生涯学習センター

「浮世絵鑑賞講座－メアリー・エイズワースの愛した浮世絵」

概要：1回目の講座では浮世絵の通史を解説し、希望者には写楽の複製版画を実際に手に持って鑑賞してもらった。そのことにより2回目の美術館での鑑賞では、浮世絵の各時代の色や構図、描かれた内容といった知識だけでなく彫り・摺りといった浮世絵版画ならではの見どころも楽しむ事ができ、好評を得た。

日時：①6月13日(木) ②6月20日(木)

いずれも14:00-15:30

会場：①西奈生涯学習センター ②当館 参加者数：計42人

講師：大石沙織

④高齢者学級みのり大学長田学級での講義

「日本画の巨匠と名作－その理由をひもとく」

概要：横山大観、安田靉彦、今村紫紅、小倉遊亀などの代表作を例示し、日本美術院と「日本画」の歴史について紹介した。日本画になじみのない聴講者にも親しんでもらえるよう、作品の特徴のみならず画家の人物像を伝えるエピソードを交えるよう心がけた。

日時：8月23日(金)9:45-11:30

会場：長田生涯学習センター 参加者数：75人

講師：山本香瑞子

⑤高齢者学級みのり大学美和学級での講義

「バレル・コレクションの魅力－英国グラスゴー、海運王が集めた名画」

概要：参考作品と比較しながら、バレル・コレクションの特徴、出品作品の見どころについて解説をした。写実主義から印象派への変遷を、当時の社会状況を踏まえながら紹介することで、1つの作品がもつ多層的な意味を理解することができるよう心掛けた。

日時：9月4日(水)13:15-15:30

会場：美和生涯学習センター 参加者数：51人

講師：伊藤鮎

⑥大里心の乙女塾～女性のための教養講座～

「しずおかでめぐる現代美術 めぐるりアート静岡ほか」

概要：これまでの「めぐるりアート静岡」の様子を中心に、開催中で話題になった愛知トリエンナーレやヴェネチア・ビエンナーレなど、国内外の芸術祭を含め、現代の美術作品について紹介した。

日時：10月9日(水)19:00-21:00

会場：大里生涯学習センター 参加者数：33人

講師：以倉新

⑦葵生涯学習センター

「レオナルド・ダ・ヴィンチの絵画と手稿」

概要：静岡音楽館AOIにて作曲家の杉山洋一氏による「鳥の飛翔に関する手稿」をテーマとした委嘱作品が初演されることに関連し、3館連携事業として美術の視点からの解説を行った。ダ・ヴィンチの思考が詰まった手稿の特徴や内容を紹介することで、新たなダ・ヴィンチ像を伝えるとともに、コンサートを補足するような内容となるよう努めた。

日時：10月11日(金)14:00-16:00

会場：葵生涯学習センター 参加者数：22人

講師：伊藤鮎

主要広報記録：

◆新聞

・「ダビンチの思考 手稿から解説 葵区で講演会」『静岡新聞』、10月16日。

<座学+ワークショップ>

①北部生涯学習センター

「絵本の絵を読む」

概要：絵本の絵の魅力を、講義とワークショップの連続講座で多角的に紹介した。講義ではおはなしには書かれていない絵の細部の描写等に注目し、子どもの視点に立ち返って絵本を見るたのしさを伝えた。ワークショップでは制作技法が特徴的な作家を何人か取り上げ、『はらぺこあおむし』の作者エリック・カールの色紙づくりを体験し、それを使ってコラージュ作品を制作した。

日時：①6月22日(土) ②6月29日(土)

いずれも14:00-15:30

会場：北部生涯学習センター 参加者数：計17人

講師：安岡真理

4)静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業(三館共同事業)

概要：JR静岡駅前に位置する静岡音楽館AOI、静岡科学館る・く・る、静岡市美術館が特徴を活かして、音楽、科学、美術の境界を越え、総合的な文化空間の創造を目指して連携実施する事業。本年度は3事業を実施した。

(1)2020しずおか文化プロジェクト/静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業 「浮世絵摺り体験」

概要：「メアリー・エインズワース浮世絵コレクション展」にあわせ、摺師による本格的な摺り実演と解説に加え主版を摺る体験を行った。科学館ならではの視点で江戸後期に日本に輸入され浮世絵に使用された化学合成絵の具「ペロ藍」を実際に合成する実験も行った。

日時：6月22日(土)①10:30-12:30 ②13:30-15:30

会場：静岡科学館る・く・る 参加者数：計115人

講師：アダチ伝統木版画技術保存財団、静岡科学館る・く・る

(2)2020しずおか文化プロジェクト/静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業 「奇蹟の芸術都市バルセロナ展」ミュージアム・コンサート

※32頁を参照

5)2020しずおか文化プロジェクト

概要：2020年に東京で開催されるオリンピック・パラリンピックはスポーツの祭典だけでなく、文化の祭典でもあり、世界中の注目が集まっている。当館を指定管理する(公財)静岡市文化振興財団でも2020年に向け、これまで培ってきた文化に関する様々な知見やネットワークを活かし、文化振興のみならず、文化による地域や社会課題への対応についても取り組むこととし、「しずおか文化」の発信「次世代育成と新たな文化芸術の創造」あらゆる人の参加・交流と地域の活性化」という3点を主軸にした文化プログラムを展開している。本年当館では延べ5事業を開催した。

ロゴマーク：



(3)2020しずおか文化プロジェクト/静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業 「ガウディ建築を知ろう」

概要：「奇蹟の芸術都市バルセロナ展」にあわせ、静岡科学館る・く・るの主催で実施。ガウディの建築やその手法の紹介とともに、パスタタワーをつくって高さを比べることで、体験的に建築の科学について学ぶワークショップを実施した。

日時：12月15日(日)13:30-15:30

会場：静岡科学館る・く・る 参加者数：101人

講師：丸田誠氏(静岡理科大学建築学科教授)

石川春乃氏(同准教授)

崔琥氏(同准教授)

(1)2020しずおか文化プロジェクト しずびオープンアトリエ

※48頁を参照。

(2)2020しずおか文化プロジェクト しずびチビッコプログラム

※49頁を参照。

(3)2020しずおか文化プロジェクト 暦とあそぶワークショップ

※50頁を参照。

(4)2020しずおか文化プロジェクト プレゼントワークショップ

※50-51頁を参照。

(5)2020しずおか文化プロジェクト

静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業(三館共同事業)

※57頁を参照。

6)その他施設との連携

(1)Kids Art Project Shizuoka

概要：平成31年4月～令和2年3月末まで、「Kids Art Project Shizuoka 実行委員会」に参画、県内の小学生全児童に参加各館のオリジナルスタンプを集めるスタンプラリー付の「しずおかミュージアムパスポート」を配布した。

実施期間：4月1日(月)～3月31日(火)

対象：静岡県内の全小学生(537校・約18万人)

加盟館：静岡県内の美術館・博物館 計38館

利用者数(当館分のみ)：503人



(2)JR東海「トレイン&ミュージアム」

概要：JR東海が企画した、電車を利用して、静岡県、山梨県および神奈川県にある全23館の美術館をめぐるスタンプラリー「トレイン&ミュージアム」へ協力。リーフレット持参の来館者には当館オリジナルクリアファイルを進呈した。

実施期間：7月19日(金)～12月8日(日)

利用者数(当館分)：830人



リーフレット表紙

(3)浜松市楽器博物館におけるワークショップへの開催協力

概要：当館において過去企画・実施した羊毛フェルトを用いたプログラムをもとに、浜松市楽器博物館のワークショップに協力。当館普及担当学芸員が講師を務め、同館が所蔵する世界のさまざまな楽器を羊毛で描いた。

日時：10月13日(日)13:30～16:30

会場：アクトシティ浜松研修交流センター

対象・参加者数：小学生の親子 9組18人

講師：安岡真理(当館学芸員)

4. 受託事業等

4-1 受託事業等

1)「旧五十嵐邸・竹久夢二」展

概要：静岡市美術館が所蔵する、竹久夢二作品(志田コレクション)を、夢二と同時代に建てられた国登録有形文化財の旧五十嵐歯科医院(旧五十嵐邸)で展示する、毎年恒例の展覧会。今年度は肉筆画1点を含む7点で夢二作品の魅力を紹介した。

会期：10月17日(木)～20日(日)

会場：旧五十嵐歯科医院(旧五十嵐邸)

来場者数：778人

展示内容：志田コレクションより

1. 竹久夢二筆《合鏡》大正3(1914)年頃、絹本着色
2. 竹久夢二原画《夢二名作集 睦月》昭和13-14(1938-39)年、加藤版画研究所、紙・木版
3. 竹久夢二原画《夢二名作集 春の宵》昭和13-14(1938-39)年、加藤版画研究所、紙・木版
4. 竹久夢二原画《夢二名作集 消えてあとなき》昭和13-14(1938-39)年、加藤版画研究所、紙・木版
5. 竹久夢二原画《夢二詩画集 七夕》昭和16(1941)年、加藤版画研究所、紙・石版
6. 竹久夢二原画《夢二小品集 雪の夜の伝説》昭和38(1963)年、加藤版画研究所、紙・木版
7. 竹久夢二原画《夢二小品集 落葉の小唄》昭和38(1963)年、加藤版画研究所、紙・木版

計7点

主要広報記録：

◆新聞

- ・「清水区 竹久夢二の原画や掛け軸並ぶ」『静岡新聞』、10月18日。



2)静岡市清水文化会館マリナート常設展示

「平野富山ー清水が生んだ彩色木彫の名匠」

概要：今年度で8年目となる静岡市清水文化会館マリナートにおける、彩色木彫家・平野富山の常設展示。静岡市が収蔵する富山作品(彩色木彫35点、塑像等約35点、書2点)と富山の収集品454件を活用し、各期テーマを設けて年3回の展示を行った。また、それに係る保存管理、調査研究もあわせて実施した。

テーマおよび会期：

【第1期】富山の初期の仕事 7月-10月

【第2期】富山のお雛様 11月-2月

【第3期】富山の最初の師・池野哲仙 3月-6月

会場：静岡市清水文化会館マリナート 1階ギャラリー隣
平野富山常設展示コーナー



第2期



第1期



第3期

作品リスト：

【第1期】テーマ：富山の初期の仕事

富山の初期作品を中心に紹介した。文部省推薦でオランダ・アントワープ「王立世界人形展」に出品した《おぼろ夜》のほか、能や歌舞伎を主題とした初期の優品《羽衣》《八重垣姫》を展示。その他、淡彩仕上げの《女学生》の出品にあわせ、同作に通じる詩的な雰囲気参考作品図版も資料展示し、富山の初期作品に見られる幅広い作風を紹介した。

1. 平野富山《女学生》彩色木彫、静岡市
2. 平野富山《羽衣》昭和10年、彩色木彫、静岡市
3. 平野富山《八重垣姫》昭和11年、彩色木彫、静岡市
4. 平野富山《粧》昭和11年、彩色木彫、静岡市
5. 平野富山《おぼろ夜》昭和12年、彩色木彫、静岡市
6. 平野富山(敬吉)《裸婦》※第二回新日展出品 特選、昭和34年、FRP、静岡市
7. 平野富山(敬吉)《女》※第三回新日展出品 出品委嘱、昭和35年、FRP、静岡市

【第2期】テーマ：富山のお雛様

静岡市が収蔵する平野富山の雛人形を一堂に展示した。有職故実に基づいた装束の《親王雛》、江戸後期に吉野地方でつくられた雛人形の名前を冠した《吉野雛》、金箔押しの華やかな立雛《三輪雛》などを展示した他、明治～昭和の雛人形の例を雑誌『三越』に掲載された図版から紹介。あわせて、森川杜園、池野哲仙、平櫛田中などの雛人形の作品図版も資料展示し、富山作品に通じる雛人形の流れを紹介した。

1. 平野富山《(稚児雛より)内裏雛》昭和初期、彩色木彫、静岡市
2. 平野富山《吉野雛》昭和8年、彩色木彫、静岡市
3. 平野富山《稚児雛》昭和15年、彩色木彫、静岡市
4. 平野富山《親王雛》昭和51年、彩色木彫、静岡市
5. 平野富山《三輪雛》昭和55年、彩色木彫、静岡市
6. 平野富山《聖徳太子二歳像》昭和49年、彩色木彫、静岡市
7. 平野富山(敬吉)《莫》※第七回新日展出品、昭和50年、FRP、静岡市

【第3期】テーマ：富山の最初の師・池野哲仙

静岡市が収蔵する平野富山の最初の師、人形師・池野哲仙の作品を一堂に展示した。富山の作品からは、池野哲仙《蘭陵王舞》の床にたなびく裾の表現が通じる《(稚児雛より)舞人》などを展示し、富山が受けた影響を探った。その他、池野哲仙の師である加納鉄哉の《蘭陵王面》《蘭陵王舞》の作品図版を資料展示し、池野哲仙、そして富山へと受け継がれた彩色木彫の技を紹介した。

1. 平野富山《(稚児雛より)舞人》昭和初期、彩色木彫、静岡市
2. 平野富山《韋駄天童子》昭和49年、彩色木彫、静岡市
3. 池野哲仙《摸刻隆慶作百人一衆》彩色木彫、静岡市/平野富山コレクション
4. 池野哲仙《蘭陵王面》昭和11年、彩色木彫、静岡市/平野富山コレクション
5. 池野哲仙《蘭陵王舞》彩色木彫、静岡市/平野富山コレクション
6. 池野哲仙《白武悪》彩色木彫、静岡市/平野富山コレクション
7. 平野富山《花ごころ》昭和55年、彩色木彫、静岡市
8. 平野富山(敬吉)《斜光》※第五回新日展出品 新審査員、昭和37年、FRP、静岡市

5. 調査研究・研修受入等

5-1 調査研究

平成31/令和元年度中に当館職員が行った、館外での主な活動および執筆・寄稿等は下記のとおりである。

●田中豊稲

<館外での活動>

- ・静岡市文化振興審議会委員
- ・文化庁美術品国家補償制度部会部会長

●以倉新

<館外での活動>

- ・静岡市三保松原文化創造センター開館記念展「澤田祐一展」対談(4月21日)
- ・静岡大学「アートマネジメント特講」講義(6月14日)
- ・静岡県立美術館 専門評価員(11月4日)
- ・浜松市美術館資料審査会 美術資料審査員(1月21日)
- ・「めぐりアート静岡」企画運営
- <展覧会カタログ等編集・執筆>
- ・『起点としての80年代 関連イベント記録集』編集、「あとがきにかえて」執筆。
- ・「めぐりアート静岡2019」記録集編集、作家紹介「小左誠一郎の絵画」『ほんとうに信じているかー岩野さんとアートベースの4年間』および「成果と課題：美術館や地域にとって『今を生きるアート』とは」執筆、『めぐりアート静岡2019』公益財団法人静岡市文化振興財団。

●山本香瑞子

<展覧会カタログ等編集・執筆>

- ・「小倉遊亀と院展の画家たち展」カタログ編集、論考「小倉遊亀の言葉と制作」、作家解説、作品解説執筆。

●高橋哲也

<雑誌・新聞等寄稿>

- ・高橋哲也「大きな瞳に芯の強さ ①」『静岡新聞』(夕刊)、1月27日。
- ・高橋哲也「劇的出会い 漂う緊張感 ②」『静岡新聞』(夕刊)、1月28日。
- ・高橋哲也「独自の線 物語に新風 ③」『静岡新聞』(夕刊)、1月29日。
- ・高橋哲也「『あおむし』との融合 ④」『静岡新聞』(夕刊)、1月30日。
- ・高橋哲也「色あせぬ 少女の世界 ⑤」『静岡新聞』(夕刊)、1月31日。

●小川かい

<館外での活動>

- ・静岡文化芸術大学「博物館資料論」特別講義(12月3日)
- <展覧会カタログ等編集・執筆>
- ・「奇蹟の芸術都市 バルセロナ展」カタログ編集、第4章「四匹の猫」解説執筆、作品解説執筆、翻訳。

●太田紗世

<館外での活動>

- ・資質実践力向上研究会(保育士向け実技研修)講師(5月16日)

●伊藤鮎

<展覧会カタログ等編集・執筆>

- ・「印象派への旅 海運王の夢 バレル・コレクション」カタログ、作品解説執筆。

- ・『起点としての80年代 関連イベント記録集』編集。

<雑誌・新聞等寄稿>

- ・伊藤鮎「温かな色彩へ向かうゴッホ 「印象派への旅」展作品紹介 上」『毎日新聞』静岡版、8月14日。
- ・伊藤鮎「暗がりて咲き誇るバラ 「印象派への旅」展作品紹介 中」『毎日新聞』静岡版、8月15日。
- ・伊藤鮎「日常大胆に切り取ったドガ 「印象派への旅」展作品紹介 下」『毎日新聞』静岡版、8月17日。

●大石沙織

<館外での活動>

- ・静岡県博物館協会事業推進グループ委員
- ・令和元年度静岡県高等学校美術・工芸教育研究会 第三回研修会(研究授業)アドバイザー(10月8日)
- <研究発表・論文等>
- ・第111回研究会 研究発表「広重版画の彫・摺についてー「大はしあたけの夕立」をめぐって」国際浮世絵学会、千葉市美術館、5月19日。

<展覧会カタログ等編集・執筆>

- ・「オーバリン大学アレン・メモリアル美術館所蔵 メアリー・エイズワース浮世絵コレクション 初期浮世絵から北斎・広重まで」展各図解説執筆、カタログ編集、「コラム2 「大はしあたけの夕立」の彫・摺の違いにみる広重の風景表現」執筆。
- ・「オーバリン大学アレン・メモリアル美術館所蔵 メアリー・エイズワース浮世絵コレクション 初期浮世絵から北斎・広重まで」展鑑賞ガイド作成。

<雑誌・新聞等寄稿>

- ・大石沙織「美しい摺り 歴史たどる あす静岡市美術館で開幕」『中日新聞』静岡版、6月7日。
- ・大石沙織「石松模様」評判に 石川豊信「提灯と傘を持つ佐野川市松」『中日新聞』静岡版、6月18日。
- ・大石沙織「奇知に富んだ作品 鈴木春信「縁先美人(見立無間の鐘)」」『中日新聞』静岡版、6月19日。
- ・大石沙織「女性の心情も表現 喜多川歌麿「婦人相学十躰 面白キ相」」『中日新聞』静岡版、6月20日。
- ・大石沙織「雨雲も届かぬ高嶺 葛飾北斎「富嶽三十六景 山下白雨」」『中日新聞』静岡版、6月21日。
- ・大石沙織「摺り比較 版画の妙 歌川広重「名所江戸百景 両国花火」」『中日新聞』静岡版、6月22日。

●安岡真理

<館外での活動>

- ・資質実践力向上研究会(保育士向け実技研修)講師(5月16日)
- ・浜松市楽器博物館親子ワークショップ「羊毛フェルトで楽器の絵を描こう!」講師(10月13日)
- ・静岡大学「美術科教育法Ⅲ」(後期)講師(11月5日、12日)
- ・「日本平動物園写生大会」審査(11月15日)
- <研究発表・論文等>
- ・発表：「美術館の役割や学芸員の仕事について」(専門基礎図画工作・前期)、静岡大学、7月25日。
- ・発表：「静岡市美術館の教育普及事業について」(芸術鑑賞演習・後期)、静岡大学、10月29日。

●岡田牧

<館外での活動>

・「日本平動物園写生大会」審査(11月15日)

◆教育プログラム企画・制作(担当：太田・安岡)

・「しずびちピッコプログラム」オリジナルプログラム(計3種)

・「しずびオープンアトリエ」オリジナルプログラム(計2種)

夏：「絵画を立体化！紙ジオラマ「立版古(たてばんこ)」をつくろう」

春：「アリスの飛び出すカードをつくろう！」

・「プレゼントワークショップ」(計3種)

vol.27「母の日だ！親子でプレゼントをつくろう」、vol.28「父の日だ！親子でプレゼントをつくろう」、vol.29「クリスマスの準備をしよう！」子ども編・大人編

・「暦とあそぶワークショップ」

vol.18「こどもの日の準備をしよう！」

5-2 博物館実習

以下の要領で学芸員資格取得を目指す学生を対象に博物館実習を行った。

対象：博物館法施行規則第一条に定められた博物館に関する科目の単位を履修済みまたは履修中で、以下の要件を満たす者。ただし学芸員資格を既に取得済みの者は除く。

①美学・美術史または美術教育専攻であること。(美術館で研修する理由がある者)

②静岡県内在学者もしくは県内に帰省先があること。 ③パソコンのメールアドレスを持っていること。(携帯メールは不可)

④学部3年生以上であること。(4年生を優先する)

実習期間：8月11日(日・祝)～15日(木) 計5日間

実習場所：当館

受入大学・人数：信州大学、静岡文化芸術大学、京都造形芸術大学、東京造形大学 計4大学4人

実習日	時間	実施内容
11日(日・祝)	10:30-12:00 13:00-13:50 14:00-15:50	ガイダンス・職員紹介・施設案内 静岡市美術館の特色について(講義) 開催中の展覧会について<なりたち、展示演出など>(講義) 開催中展覧会の見学
12日(月・振休)	13:00-13:50 14:00-14:50 15:30-19:00	静岡市美術館の広報活動について(講義) 日本美術の調査と展示<作品調査の実際、日本美術の展示など>(講義) 夜店市準備・手伝い(実習)
13日(火)	10:10-11:00 11:10-12:00 13:40-14:30 15:00-15:50	地域と美術館<めぐりアート、アート&スポーツヒロバを中心に>(講義) 自記温湿度計の取扱い・収蔵庫見学(実習) 静岡市美術館の教育普及活動について(講義) オープンアトリエ体験(実習)
14日(水)	10:10-11:00 11:10-12:00 13:00-15:50	美術品の展示・保存環境について(講義) 美術品の借用・貸出について(講義) 美術品の取り扱いについて(講義および実習)
15日(木)	10:10-11:00 13:00-15:50	館長講話(講義) 「これまでの実習で学んだこと」(実習生による発表)

5-3 視察等受入

平成31/令和元年度受入分は下記のとおりである。

	日付	視察団体名	人数
1	11月12日(火)	名古屋市	3人

(※外部施設との連携事業における展示解説分は除く。)

計 1件 3人

6. 収蔵品・図書等

6-1 収蔵品・画像貸出

平成31/令和元年度は、収蔵品・画像貸出は行わなかった。

6-2 図書等

平成31/令和元年度図書等受入数

	購入	寄贈	合計
カタログ	2冊	376冊	378冊
雑誌	156冊	62冊	218冊
一般図書・その他	10冊	384冊	394冊
合計	168冊	822冊	990冊

7. 広報活動

7-1 広報制作物

1)年間スケジュール

平成31/令和元(2019)年度展覧会スケジュールを下記のとおり制作し、ウェブサイトに掲載した。

<仕様>紙：マットコート 110kg

サイズ・数量：210×396mm（仕上 210×99mm） 45,000部(日本語版)、500部(英語版)

加工：観音折り(四つ折り)加工

印刷：オフセット印刷(日本語版)、オンデマンド印刷(英語版)

◆日本語版年間スケジュール



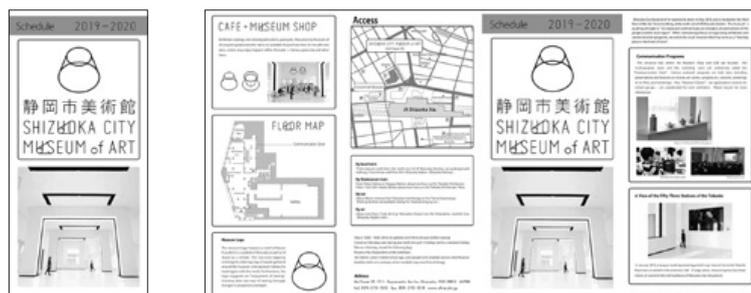
表紙

表面



中面

◆英語版年間スケジュール



表紙

表面



中面

2)ワークショップシリーズ年間スケジュール

平成31/令和元(2019)年度ワークショップシリーズ年間スケジュールを下記のとおり制作した。

<仕様>紙：片艶晒クラフト(キャピタルラップ) 86kg
 サイズ・数量：A4(仕上A5) 20,000部
 加工：二つ折り加工



表紙



表面



中面

7-2 ウェブサイト

展覧会情報を中心に、関連イベントの情報や施設概要、ショップ情報についても掲載。スマートフォンサイトとも連動している。また、ブログ、ツイッター、インスタグラムも開設し、常にタイムリーな情報発信を行っている。

ウェブサイト構成：(http://www.shizubi.jp)

- 展覧会
 - ・開催中の展覧会
 - ・年間のスケジュール
 - ・これからの展覧会
 - ・過去の展覧会
- イベント
 - ・これからのイベント
 - ・今までのイベント
- ショップ&カフェ
 - ・ショップ&カフェ
 - ・図録の通信販売
 - ・アーカイブ
- 学校・団体鑑賞
- プレス
- アクセス・利用案内
 - ・アクセス/利用案内
 - ・駐車場
- 美術館の概要
 - ・美術館の歩み
 - ・館長挨拶
 - ・施設概要
 - ・コンセプト
 - ・ロゴについて
- その他(リンク)
 - ・ブログ(http://www.shizubi.jp/blog)
 - ・ツイッター (http://twitter.com/shizubi_jp)
 - ・インスタグラム(http://instagram.com/shizubi_jp)



パソコン版ホームページ



スマートフォン版ホームページ

アクセス数：263,137件(1日平均 約719件)

7-3 施設広報記録

展覧会事業・交流事業以外の美術館施設に関する主な取材記録は下記のとおりである。

1)テレビ・ラジオ

- ・「静岡市美術館来館者300万人」静岡朝日テレビ『あさひテレビNEWS』、10月11日放送。

2)雑誌等

- ・「施設紹介」『ご近所ぐるぐる Shizuoka』、5月1日。
- ・「静岡市美術館ミュージアムショップ&カフェ 「星空の封筒」」『mignon』夏号、7月1日。
- ・「施設紹介」『るるぶ静岡 清水 浜名湖 富士山麓 伊豆20』、9月30日。
- ・「施設紹介」『Meet』AUTUMN、10月1日。
- ・「ちょっと面白い街の中の広場」『まっふる静岡 浜名湖 富士山麓 伊豆20』、11月1日。
- ・「施設紹介」『日経おとなのOFF』1月号、12月6日。
- ・「ジャンルにとられない個性豊かな企画展 静岡市美術館」『美術館&博物館さんぽ[東海版]週末おでかけミュージアム』、3月30日。

3)その他

- ・「施設紹介」『静岡駅周辺のご案内』、6月1日。

8. 管理運営

8-1 利用者数

1)利用者数(月別) (単位:人)

	展覧会 観覧者	展覧会関連事業 参加者	交流事業 参加者	連携事業・その他の事業 参加者	事業参加者 計	総入館者
4月	4,554	220	22	24	4,820	14,858
5月	7,455	379	120	83	8,037	19,557
6月	8,632	748	39	206	9,625	21,443
7月	13,957	983	0	180	15,120	28,553
8月	8,862	73	1,221	355	10,511	23,697
9月	8,847	385	0	347	9,579	19,594
10月	7,752	165	0	4,249	12,166	19,693
11月	4,451	318	95	3,802	8,666	15,964
12月	6,507	361	102	155	7,125	16,383
1月	10,937	89	0	42	11,068	24,279
2月	14,013	571	79	59	14,722	29,925
3月	9,514	0	0	60	9,574	21,382
計	105,481	4,292	1,678	9,562	121,013	255,328
月平均	8,790	358	140	797	10,084	21,277

2)利用者数 事業別

展覧会名	実施期間	入場者等
小倉遊亀と院展の画家たち展 滋賀県立近代美術館所蔵作品による	4月6日-5月26日 (開館44日間)	12,009人 (273人/日)
オーバリン大学アレン・メモリアル美術館所蔵 メアリー・エインズワース浮世絵コレクション-初期浮世絵から北斎・広重まで	6月8日-7月28日 (開館44日間)	22,589人 (513人/日)
印象派への旅 海運王の夢 パレル・コレクション	8月7日-10月20日 (開館65日間)	25,461人 (392人/日)
Daiichi-TV開局40周年記念 奇蹟の芸術都市バルセロナ展	11月15日-1月19日 (開館55日間)	21,895人 (398人/日)
不思議の国のアリス展	2月1日-3月29日 (開館50日間)	23,527人 (470人/日)
展覧会 観覧者 計		105,481人
普及事業参加者 (展覧会関連事業参加者+交流事業参加者+連携事業・その他事業参加者)		15,532人
事業参加者 総計 (展覧会観覧者+普及事業参加者)		121,013人
総入館者数(エントランス入口自動カウンター集計数)	4月1日-3月31日	255,328人

3)利用者数(事業別詳細)

事業区分	事業名	実施時期	入場者等		
			目標値	実績値	達成率
			(人)	(人)	(%)
展覧会事業	展覧会		計5本 105,481人		
	小倉遊亀と院展の画家たち展 滋賀県立近代美術館所蔵作品による	4/6-5/26 (計44日間)	16,000	12,009	75.1%
	オーバリン大学アレン・メモリアル美術館所蔵 メアリー・エイズワース浮世絵コレクション -初期浮世絵から北斎・広重まで	6/8-7/28 (計44日間)	17,000	22,589	132.9%
	印象派への旅 海運王の夢 バレル・コレクション	8/7-10/20 (計65日間)	18,000	25,461	141.5%
	Daichi-TV開局40周年記念 奇蹟の芸術都市バルセロナ展	11/15-1/19 (計55日間)	18,000	21,895	121.6%
	不思議の国のアリス展	2/1-3/29 (計50日間)	42,000	23,527	56.0%
展覧会関連事業	ミュージアム教室		計1,753人(64団体/64回)		
	ミュージアム教室(小倉遊亀展)	4/6-5/26 (全10回)	240(10団体/10回)		
	ミュージアム教室(オーバリン展)	6/8-7/28 (全19回)	775(19団体/19回)		
	ミュージアム教室(バレル展)	8/7-10/20 (全12回)	284(12団体/12回)		
	ミュージアム教室(バルセロナ展)	11/15-1/19 (全11回)	184(11団体/11回)		
	ミュージアム教室(不思議の国のアリス展)	2/1-3/29 (全12回)	270(12団体/12回)		
	その他展示解説		計772人(19団体/19回)		
	展示解説(小倉遊亀展)	4/6-5/26 (全3回)	121(3団体/3回)		
	展示解説(オーバリン展)	6/8-7/28 (全9回)	351(9団体/9回)		
	展示解説(バレル展)	8/7-10/20 (全2回)	76(2団体/2回)		
	展示解説(バルセロナ展)	11/15-1/19 (全4回)	217(4団体/4回)		
	展示解説(不思議の国のアリス展)	2/1-3/29 (全1回)	7(1団体/1回)		
	小倉遊亀と院展の画家たち展 滋賀県立近代美術館所蔵作品による		計3本 238人		
	講演会①「小倉遊亀と滋賀県立近代美術館」	4/14	70	82	117.1%
	講演会②「近代日本画の材料と表現」	5/18	70	84	120.0%
	当館学芸員によるギャラリートーク	4/20、5/6	-	72	-
	オーバリン大学アレン・メモリアル美術館所蔵 メアリー・エイズワース浮世絵コレクション-初期浮世絵から北斎・広重まで		計5本 605人		
	講演会①「エイズワース・コレクションを通して知る浮世絵の歴史」	6/15	70	93	132.9%
	講演会②「広重の名所絵のつくられ方」	6/30	70	117	167.1%
	浮世絵摺り体験「摺師に挑戦!広重の《保永堂版東海道 四日市》を摺ろう」	7/13-7/15	-	310	-
	当館学芸員によるスライドトーク	7/6	-	85	-
	2020しずおか文化プロジェクト/静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業 浮世絵摺り体験	6/22	※静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業に記載		
	印象派への旅 海運王の夢 バレル・コレクション		計3本 263人		
	講演会「交流する絵画:前期印象派から印象派へ」	9/7	70	122	174.3%
	当館学芸員によるギャラリートーク	8/25、10/13	-	101	-
	レクチャー & 試飲会「スコッチ・ウイスキーの魅力」	9/21	40	40	100.0%
	奇蹟の芸術都市バルセロナ展		計5本 367人		
2020しずおか文化プロジェクト/静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業 「奇蹟の芸術都市バルセロナ展」ミュージアム・コンサート	11/17	70	92	131.4%	
講演会①「芸術都市バルセロナの変容:アイデンティティの探求と前衛美術」	11/23	70	74	105.7%	

事業区分	事業名	実施時期	入場者等		
			目標値	実績値	達成率
			(人)	(人)	(%)
展覧会関連事業	講演会②「ガウディとバルセロナの世紀末建築」	12/14	70	103	147.1%
	当館学芸員によるスライドトーク	12/21、1/12	-	98	-
	2020しずおか文化プロジェクト／静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業 ガウディ建築を知ろう	12/15	※静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業に記載		
	不思議の国のアリス展		計2本 294人		
	QuizKnockスペシャルトークイベント ～アリス展×QuizKnockコラボの裏側～	2/8 (全2回)	260	256	98.5%
	当館学芸員によるスライドトーク	2/16	-	38	-
交流事業	Shizubiシネマアワー		計3本 237人		
	Shizubiシネマアワー vol.24 『天心』	5/3	70	81	115.7%
	Shizubiシネマアワー vol.25「もっと知りたい建築の世界」 ①『創造と神秘のサグラダ・ファミリア』	11/30	70	95	135.7%
	Shizubiシネマアワー vol.25「もっと知りたい建築の世界」 ②『もしも建物が話せたら』	12/1	70	61	87.1%
	2020しずおか文化プロジェクト しずびオープンアトリエ		計2本 331人		
	「絵画を立体化!紙ジオラマ『立版古』をつくろう」	8/9-8/18 (計10日間・全20回)	100	252	252.0%
	「アリスの飛び出すカードをつくろう!」	2/22-2/23 (計2日間・全4回)	160	79	49.4%
	2020しずおか文化プロジェクト しずびチビッコプログラム		計3本 62人		
	「小倉遊亀と院展の画家たち展」	5/25 (全2回)	20	18	90.0%
	「メアリー・エイズワース浮世絵コレクション」	6/23 (全2回)	20	22	110.0%
	「印象派への旅 海運王の夢」	8/24 (全2回)	20	22	110.0%
	2020しずおか文化プロジェクト 暦とあそぶワークショップ		計1本 22人		
	vol.18 「こどもの日の準備をしよう!」	4/27	20	22	110.0%
	2020しずおか文化プロジェクト プレゼントワークショップ		計4本 79人		
	vol.27 「母の日だ!親子でプレゼントをつくろう」	5/11	20	21	105.0%
	vol.28 「父の日だ!親子でプレゼントをつくろう」	6/15	20	17	85.0%
	vol.29 「クリスマスの準備をしよう!」子ども編	12/7	20	23	115.0%
	vol.29 「クリスマスの準備をしよう!」大人編	12/8	20	18	90.0%
	その他交流事業		計1本 947人		
	夜店市	8/10-8/12 (計3日間)	-	947	-
連携事業	めぐりアート静岡2019		計6本 6,910人		
	小左誠一郎(静岡市美～多目的室)	10/22-11/10 (計18日間)	-	6,810 (当館分)	-
	アーティストトーク(小左誠一郎)	10/26	-	16	-
	岩野勝人(東静岡アート&スポーツ/ヒロバ)	10/19-11/10 (計23日間)	-	-	-
	アーティストトーク(岩野勝人)	11/3	-	17	-
	岩野勝人 子どもと大人の造形ワークショップ①「くもならべ」	10/20	-	26	-
	岩野勝人×和泉誠 子どもと大人の造形ワークショップ②「色とカタチと空間、そして光」	11/3-11/4	-	41	-
	■生涯学習センターとの連携事業		計3本		
	展示解説付き講座		計3本		
	駿河生涯学習センター 高齢者学級みのり大学小鹿学級	6/25	※その他展示解説に含む		
	東部生涯学習センター 高齢者学級みのり大学東部学級	7/23	※その他展示解説に含む		

事業区分	事業名	実施時期	入場者等		
			目標値	実績値	達成率
			(人)	(人)	(%)
連携事業	薬科生涯学習センター 高齢者学級みのり大学薬科学級	11/28	※その他展示解説に含む		
	しずび出前講座(講義)※当館学芸員が講師として参画		計7本 304人		
	薬科生涯学習センター 「花開く個性-小倉遊亀と院展の画家たち」	4/21、5/12	15	35	233.3%
	西部生涯学習センター 「奇蹟の芸術都市バルセロナ ~ガウディ、ピカソ、ミロ~」	5/18	20	46	230.0%
	西奈生涯学習センター 「浮世絵鑑賞講座-メアリー・エインズワースの愛した浮世絵」	6/13、6/20	20	42	210.0%
	長田生涯学習センター 高齢者学級みのり大学長田学級 「日本画の巨匠と名作-その理由をひもとく」	8/23	150	75	50.0%
	美和生涯学習センター 高齢者学級みのり大学美和学級 「パレル・コレクションの魅力-英国グラスゴー、海運王が集めた名画」	9/4	65	51	78.5%
	大里心の乙女塾~女性のための教養講座~ 「しずおかでめぐる現代美術 めぐるりアート静岡ほか」	10/9	60	33	55.0%
	葵生涯学習センター 「レオナルド・ダ・ヴィンチの絵画と手稿」	10/11	30	22	73.3%
	しずび出前講座(座学+ワークショップ)		計1本 17人		
	北部生涯学習センター 「絵本の絵を読む」	6/22、6/29	20	17	85.0%
	2020しずおか文化プロジェクト 静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業(三館共同事業)		計3本 216人		
	「メアリー・エインズワース浮世絵コレクション」関連事業 浮世絵摺り体験(※静岡科学館る・く・る主催)	6/22	100	115	115.0%
	「奇蹟の芸術都市バルセロナ展」関連事業 ミュージアム・コンサート	11/17	※展覧会関連事業に記載		
	「奇蹟の芸術都市バルセロナ展」関連事業 ガウディ建築を知ろう(※静岡科学館る・く・る主催)	12/15	100	101	101.0%
	2020しずおか文化プロジェクト		計5本		
	しずびオープンアトリエ	8/9-18、2/22-23 (計12日間・全24回)	※交流事業に記載		
	しずびチビッコプログラム	5/25、6/23、8/24 (計3日間、全6回)	※交流事業に記載		
	暦とあそぶワークショップ	4/27	※交流事業に記載		
	プレゼントワークショップ	5/11、6/15、12/7・8 (計4日間、全4回)	※交流事業に記載		
	静岡・音楽館×科学館×美術館共同事業 その他連携事業	6/22、11/17、12/15	※別項に記載		
	Kids Art Project Shizuoka	4/1-3/31	-	503	-
	JR東海「トレイン&ミュージアム」	7/19-12/8	-	830	-
その他事業		計3本 782人			
静岡市文化活動振興事業 旧五十嵐邸 竹久夢二展	10/17-10/20 (計4日間)	231	778	336.8%	
静岡市文化活動振興事業 静岡市清水文化会館マリナート常設展示 「平野富山-清水が生んだ彩色木彫の名匠」 【第1期】富山の初期の仕事 【第2期】富山のお雛様 【第3期】富山の最初の師・池野哲仙	【第1期】7月-10月 【第2期】11月-2月 【第3期】3月-6月	-	-	-	
博物館実習	8/11-8/15 (計5日間)	-	4	-	
	計	113,301	121,013	106.8%	

8-2 過去展覧会一覧

	展覧会名	会期	観覧者数
●平成22(2010)年度			計3本 132日 93,654人
1	開館記念展<Ⅰ> ボーラ美術館コレクション展 印象派とエコール・ド・パリ	10月2日(土)～11月28日(日) <開館51日間>	38,695人 (759人/日)
2	開館記念展<Ⅱ>・NHK静岡放送局開局80周年記念 家康と慶喜－徳川家と静岡	12月11日(土)～1月30日(日) <開館42日間>	34,424人 (820人/日)
3	開館記念展<Ⅲ> 棟方志功 祈りと旅	2月11日(金・祝)～3月27日(日) <開館39日間>	20,535人 (527人/日)
●平成23(2011)年度			計5本 261日 131,904人
1	ハンス・コパー展－20世紀陶芸の革新	4月9日(土)～6月26日(日) <開館69日間>	16,395人 (238人/日)
2	没後150年 歌川国芳展	7月9日(土)～8月21日(日) <開館38日間> ※前期：7月9日(土)～31日(日) 後期：8月2日(火)～21日(日)	30,404人 (801人/日)
3	開館1周年記念展<Ⅰ>・NHK静岡放送局開局80周年記念 アルプスの画家 セガントーニ－光と山－	9月3日(土)～10月23日(日) <開館44日間>	17,806人 (405人/日)
4	開館1周年記念展<Ⅱ> レオナルド・ダヴィンチ美の理想	11月3日(木・祝)～12月25日(日) <開館46日間>	53,136人 (1,156人/日)
5	竹久夢二と静岡ゆかりの美術 (前期：中川雄太郎と静岡の創作版画の世界) (後期：平野富山“彩色木彫”の美)	1月7日(土)～3月25日(日) <開館64日間> ※前期：1月7日(土)～2月12日(日) 後期：2月18日(土)～3月25日(日)	14,163人 (222人/日)
●平成24(2012)年度			計6本 258日 100,862人
1	森村泰昌モリエンナーレ まねぶ美術史	4月7日(土)～6月10日(日) <開館57日間>	7,976人 (140人/日)
2	静岡音楽館AOI×静岡科学館る・く・る×静岡市美術館共同事業 七夕の美術－日本近世・近代の美術工芸にみる	6月23日(土)～8月19日(日) <開館51日間> ※前期：6月23日(土)～7月22日(日) 後期：7月24日(火)～8月19日(日)	10,929人 (214人/日)
3	フィンランドのくらしとデザイン－ムーミンが住む森の生活	9月1日(土)～10月8日(月・祝) <開館38日間>	41,258人 (1,086人/日)
4	ストラスブル美術館展 モダンアートへの招待	10月27日(土)～12月16日(日) <開館44日間>	12,016人 (273人/日)
5	滋賀県立琵琶湖文化館が守り伝える美 近江巡礼 祈りの至宝展	1月2日(水)～2月11日(月・祝) <開館36日間> ※前期：1月2日(水)～1月20日(日) 後期：1月22日(火)～2月11日(月・祝)	11,256人 (313人/日)
6	新美南吉生誕100年 ごんぎつねの世界	2月23日(土)～3月31日(日) <開館32日間>	17,427人 (545人/日)
●平成25(2013)年度			計5本 260日 156,594人
1	藤田嗣治 渡仏100周年記念 レオナルド・フジタとパリ	4月20日(土)～6月23日(日) <開館57日間>	22,451人 (393人/日)
2	静岡朝日テレビ 開局35周年記念 オディロン・ルドン 夢の起源 幻想のふるさと、ボルドーから	6月29日(土)～8月25日(日) <開館51日間>	16,907人 (332人/日)
3	はじめての美術 絵本原画の世界2013	9月14日(土)～10月27日(日) <開館38日間>	44,385人 (1,168人/日)
4	徳川家康公顕彰四百年記念事業 没後100年 徳川慶喜	11月2日(土)～12月15日(日) <開館38日間> ※前期：11月2日(土)～11月24日(日) 後期：11月26日(火)～12月15日(日)	15,260人 (402人/日)
5	テレビ静岡開局45周年記念 シャガール展	1月2日(木)～3月30日(日) <開館76日間>	57,591人 (758人/日)

	展覧会名	会期	観覧者数
●平成26(2014)年度			計6本 254日 155,028人
1	巨匠の眼 川端康成と東山魁夷	4月12日(土)～6月1日(日) ＜開館44日間＞	15,475人 (352人/日)
2	読売新聞創刊140周年記念・静岡第一テレビ開局35周年 法隆寺展－聖徳太子と平和への祈り－	6月14日(土)～7月27日(日) ＜開館38日間＞	26,566人 (699人/日)
3	日本のアニメーション美術の創造者 山本二三展 ～天空の城、火垂るの墓、時をかける少女～	8月4日(月)～9月23日(火・祝) ＜開館48日間＞	66,773人 (1,391人/日)
4	徳川家康公顕彰四百年記念事業・静岡市文化振興財団設立20周年記念事業 国宝・久能山東照宮展－家康と静岡ゆかりの名宝	10月4日(土)～11月24日(月・祝) ＜開館45日間＞	20,353人 (452人/日)
5	ロイヤル・アカデミー展 イギリス美術の華麗なる150年	12月6日(土)～1月25日(日) ＜開館41日間＞	16,034人 (391人/日)
6	没後100年 小林清親展 文明開化の光と影をみつめて	2月7日(土)～3月22日(日) ＜開館38日間＞	9,827人 (259人/日)
●平成27(2015)年度			計6本 256日 155,806人
1	静岡市美術館開館5周年記念 大原美術館展 名画への旅	4月18日(土)～5月31日(日) ＜開館39日間＞	32,133人 (824人/日)
2	青磁のいま－受け継がれた技と美 南宋から現代まで	6月13日(土)～8月16日(日) ＜開館56日間＞	13,907人 (248人/日)
3	錦絵誕生250年 フィラデルフィア美術館浮世絵名品展 春信一番！写楽二番！	8月23日(日)～9月27日(日) ＜開館36日間＞	16,475人 (458人/日)
4	静岡市美術館開館5周年記念 ちひろ美術館 世界の絵本原画コレクション展 絵本をひらくと	10月10日(土)～11月23日(月・祝) ＜開館39日間＞	41,836人 (1,073人/日)
5	静岡市美術館開館5周年記念 静岡市立芹沢銈介美術館・静岡市美術館共同企画 芹沢銈介生誕120年記念展 しあわせの色 たのしい模様	12月5日(土)～1月11日(月・祝) ＜開館29日間＞	7,502人 (259人/日)
6	スター・ウォーズ展 未来へつづく、創造のビジョン。	1月23日(土)～3月27日(日) ＜開館57日間＞	43,953人 (771人/日)
●平成28(2016)年度			計6本 254日 167,547人
1	没後20年 ルーシー・リー展	4月9日(土)～5月29日(日) ＜開館45日間＞	17,157人 (381人/日)
2	伊豆市所蔵近代日本画コレクション展 大観・靱彦・龍子らと修善寺	6月7日(火)～7月10日(日) ＜開館30日間＞	6,592人 (220人/日)
3	エッシャーの世界	7月17日(日)～8月28日(日) ＜開館37日間＞	36,297人 (981人/日)
4	ランス美術館展 美しきフランス バロックからフジタへ	9月10日(土)～10月30日(日) ＜開館45日間＞	16,154人 (359人/日)
5	高畑・宮崎アニメの秘密がわかる。 スタジオジブリ・レイアウト展	11月19日(土)～2月5日(日) ＜開館65日間＞	79,378人 (1,221人/日)
6	夢二と京都の日本画	2月18日(土)～3月26日(日) ＜開館32日間＞	11,969人 (374人/日)
●平成29(2017)年度			計5本 244日 111,134人
1	アルバレス・プラボ写真展 －メキシコ、静かなる光と時	4月8日(土)～5月28日(日) ＜開館45日間＞	6,208人 (138人/日)
2	没後150年 坂本龍馬	7月1日(土)～8月27日(日) ＜開館51日間＞	50,397人 (988人/日)
3	日本・デンマーク外交関係樹立150周年記念 デンマーク・デザイン	9月9日(土)～11月12日(日) ＜開館56日間＞	16,965人 (303人/日)
4	ウェールズ国立美術館所蔵 ターナーからモネへ	11月23日(木・祝)～1月28日(日) ＜開館54日間＞	25,503人 (472人/日)
5	白隠禅師250年遠諱記念展 駿河の白隠さん	2月10日(土)～3月25日(日) ＜開館38日間＞	12,061人 (317人/日)

	展覧会名	会期	観覧者数
●平成30(2018)年度			計5本 258日 83,257人
1	いつだって猫展	4月7日(土)～5月20日(日) ＜開館39日間＞	18,404人 (472人/日)
2	ミュシャ展 ～運命の女たち～	6月2日(土)～7月15日(日) ＜開館38日間＞	28,579人 (752人/日)
3	ヴラマンク展 絵画と言葉で紡ぐ人生	7月28日(土)～9月24日(月・祝) ＜開館51日間＞	10,871人 (213人/日)
4	テレビ静岡開局50周年記念 フランス宮廷の磁器 セーヴル、創造の300年	10月6日(土)～12月16日(日) ＜開館62日間＞	15,262人 (246人/日)
5	起点としての80年代	1月5日(土)～3月24日(日) ＜開館68日間＞	10,141人 (149人/日)
●平成31/令和元(2019)年度			計5本 258日 105,481人
1	小倉遊亀と院展の画家たち展 滋賀県立近代美術館所蔵作品による	4月6日(土)～5月26日(日) ＜開館44日間＞	12,009人 (273人/日)
2	オーバリン大学アレン・メモリアル美術館所蔵 メアリー・エインズワース浮世絵コレクション-初期浮世絵から北斎・広重まで	6月8日(土)～7月28日(日) ＜開館44日間＞	22,589人 (513人/日)
3	印象派への旅 海運王の夢 バレル・コレクション	8月7日(水)～10月20日(日) ＜開館65日間＞	25,461人 (392人/日)
4	Daiichi-TV開局40周年記念 奇蹟の芸術都市バルセロナ展	11月15日(金)～1月19日(日) ＜開館55日間＞	21,895人 (398人/日)
5	不思議の国のアリス展	2月1日(土)～3月29日(日) ＜開館50日間＞	23,527人 (470人/日)

8-3 静岡市美術館運営協議会

(公財)静岡市文化振興財団では、当館の事業及び運営について、幅広く意見を求め、長期的かつ総合的展望に立った運営に資することを目的として、平成23年度より静岡市美術館運営協議会を設置している。年2回の開催を基本とし、令和元年度末現在まで計18回開催した。

【静岡市美術館運営協議会委員】(敬称略・50音順)

氏名	肩書
●第1期【平成23年6月19日 - 平成25年6月18日】	
岩城見一	京都大学名誉教授・前京都国立近代美術館館長
小澤 豊	静岡市校長会(図工美術部会長・観山中学校校長)
織田元泰	元静岡市教育長・元常葉学園大学教授
金子賢治	茨城県陶芸美術館館長
川口良子	合同会社 デザイン・アープ代表CEO
川崎博良	静岡市中央商店街連合会(静岡紺屋町名店街理事長)
金原宏行	豊橋市美術館館長
小林 忠	学習院大学名誉教授・前千葉県美術館長
小針由紀隆	静岡県立美術館学芸部長
谷 新	宇都宮美術館館長・美術評論家
●第2期【平成25年6月19日 - 平成27年6月18日】	
岩城見一	前京都国立近代美術館館長・京都大学名誉教授
小澤 豊	静岡市校長会(図工美術部会長・観山中学校校長) <～平成26年4月1日>
織田元泰	元静岡市教育長・元常葉学園大学教授
金子賢治	茨城県陶芸美術館館長
川口良子	合同会社 デザイン・アープ代表CEO
川崎博良	静岡市中央商店街連合会(静岡紺屋町名店街理事長)
金原宏行	豊橋市美術館館長
小林 忠	岡田美術館館長・学習院大学名誉教授
小針由紀隆	静岡文化芸術大学教授
谷 新	宇都宮美術館館長・美術評論家
増田安由	静岡市校長会(図工美術部会長・富士見小学校校長) <平成26年4月2日～>
●第3期【平成27年6月19日 - 平成29年6月18日】	
天野一夫	豊田市美術館チーフキュレーター
岩城見一	京都大学名誉教授・前京都国立近代美術館館長
金子賢治	茨城県陶芸美術館館長
川口良子	合同会社 デザイン・アープ代表CEO
金原宏行	豊橋市美術館館長
小林 忠	岡田美術館館長・学習院大学名誉教授
小針由紀隆	静岡文化芸術大学教授
田中文雄	元静岡県立中央図書館調査課長
服部 功	静岡市中央商店街連合会(静岡紺屋町名店街代表理事)
増田安由	静岡市校長会(図工美術部会長・富士見小学校校長)

氏名	肩書
●第4期【平成29年6月19日 - 令和元年6月18日】	
片瀬恵子	静岡市校長会(図工美術部会長・清水庵原小学校校長)
金子賢治	茨城県陶芸美術館館長
川口良子	合同会社 デザイン・アープ代表CEO
金原宏行	前豊橋市美術館館長
小勝禮子	美術史家・元栃木県立美術館学芸課長
小針由紀隆	静岡文化芸術大学教授
高松良幸	静岡大学教授
田中文雄	元静岡県立中央図書館調査課長
服部 功	静岡市中央商店街連合会(静岡紺屋町名店街代表理事)
村田真宏	豊田市美術館館長
●第5期【令和元年6月19日 - 】	
大石英之	静岡市校長会(図工美術部会長・中田小学校校長)
川口良子	合同会社 デザイン・アープ代表CEO
金原宏行	前豊橋市美術館館長
小勝禮子	美術史家・元栃木県立美術館学芸課長
小針由紀隆	静岡文化芸術大学教授
高松良幸	静岡大学教授
田中文雄	元静岡県立中央図書館調査課長
服部 功	静岡市中央商店街連合会(静岡紺屋町名店街代表理事)
村田真宏	豊田市美術館館長

※委員の肩書については、各期就任時のものを記載した。

静岡市美術館運営協議会設置要綱

(目的)

第1条 公益財団法人静岡市文化振興財団(以下「当法人」という。)は、静岡市美術館(以下「美術館」という。)の事業及び運営について、幅広く意見を求め、長期的かつ総合的展望に立った運営に資することを目的として、静岡市美術館運営協議会(以下「協議会」という。)を設置する。

(役割)

第2条 協議会は、美術館の運営に関し美術館長(以下「館長」という。)の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べるものとする。

(委員)

第3条 協議会の委員の定数は、10人とする。

2 委員は、当法人の専務理事が選定し、理事長が委嘱する。

3 委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

4 補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

5 委員は、任期満了後においても、後任者が就任するまで在任する。

6 委員の氏名等は公表する。

(委員の任期の起算)

第4条 協議会委員の任期は、就任の日から起算する。ただし、任期満了による選任が、任期満了の日に行われたときは、新たな委員の任期は、前任者の任期満了の日の翌日から起算する。

(委員の辞任)

第5条 委員が辞任しようとするときは、理事長に届け出るものとする。

(会長及び副会長)

第6条 協議会に会長及び副会長を置き、委員会において互選する。

2 会長は、会議の議長となり、協議会の会務を総括する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故のあるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第7条 協議会は、館長からの求めに応じ、会長が随時招集する。

2 委員の辞職又は任期満了に伴い会長及び副会長がともに欠けたときは、館長が協議会を招集する。

3 会長は、協議会を招集しようとするときは、委員に対し、開催日の2週間前までに、書面等により日時、場所及び議題その他必要な事項を通知しなければならない。ただし、委員全員の同意があるときは、この限りではない。

4 協議会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。

5 会長は、必要と認めるときは協議会に諮り、関係者に参考人として会議への出席を求め、資料の提供、意見の開陳、説明その他必要な協力を求めることができる。

6 会議当日に会長及び副会長とともに事故があるとき、又は会長及び副会長がともに欠けたときは、あらかじめ会長が指定した委員又は館長が指名した委員がその職務を代理する。

(議事録)

第8条 会議の議事については、その経過の要領及びその結果を記載した議事録を作成するものとする。

2 前項の議事録は館長が保管し、保存年限は当法人文書取扱規程の定めるところによる。

(庶務)

第9条 協議会の事務は、静岡市美術館総務課において処理する。

2 美術館の職員は、協議会その他の事務処理を通じて知り得た事項を他に漏らしてはならない。

(補足)

第10条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、協議会において定める。

附 則

この要綱は、平成23年6月19日から施行する。

附 則

この要綱は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

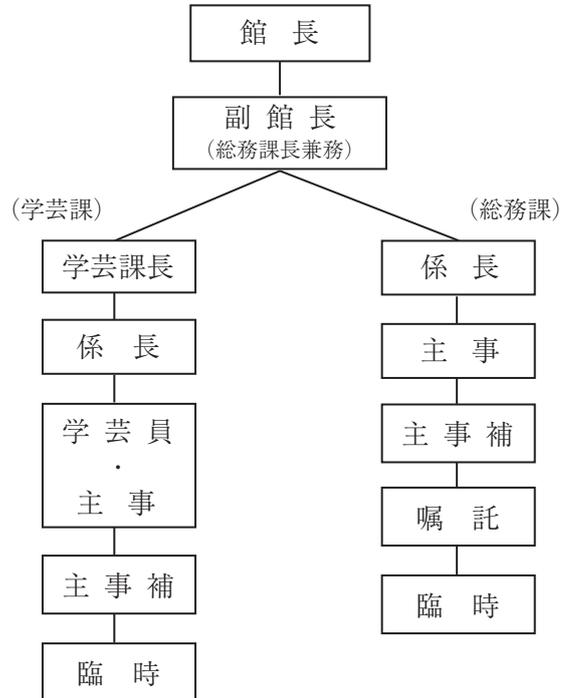
この要綱は、平成25年10月30日から施行する。

附 則

この要綱は、平成31年4月1日から施行する。

8-4 組織図・職員名簿

<組織図>



<職員名簿> (平成31/令和元年度)

館長	田中 豊稲
副館長(総務課長兼務)	矢澤 嘉章

(総務課)

係長	村上 真琴
主事	池ヶ谷 志帆
主事補	寺崎 薫
嘱託	山本 碧
臨時	古川 誠二郎

(学芸課)

学芸課長	以倉 新(近・現代美術)
係長	山本 香瑞子(日本近代美術)
学芸員	高橋 哲也(日本美術)
学芸員	小川 かい(西洋美術)
学芸員	太田 紗世(教育普及)
学芸員	伊藤 鮎(西洋美術)
学芸員	大石 沙織(日本美術)
学芸員	安岡 真理(教育普及)
主事	大庭 千恵子(広報)
主事補	岡田 牧(広報)
臨時	喜田 小百合

(令和元年9月 - 令和2年1月)

8-5 条例・施行規則

○静岡市美術館条例

平成21年7月16日
条例第50号

(設置)

第1条 静岡市は、多様な美術表現を広く市民に公開し、静岡市の特色ある美術文化の創造と発信を行い、及び美術文化の交流を促進することにより、美術に関する市民の知識及び教養の向上を図り、もって市民の美術文化を振興することを目的として、次の施設を設置する。

名称	位置
静岡市美術館	静岡市葵区紺屋町17番地の1

(事業)

第2条 静岡市美術館(以下「美術館」という。)は、次に掲げる事業を行う。

- (1) 美術文化に係る展示会の開催に関すること。
- (2) 美術文化の教育及び普及に関すること。
- (3) 美術文化に係る講演会、講習会等の開催に関すること。
- (4) 美術文化に係る調査及び研究に関すること。
- (5) 美術文化に係る情報の収集及び提供並びに広報活動に関すること。
- (6) 美術作品及び美術に係る資料の収集、保管、展示及び利用に関すること。
- (7) 前各号に掲げるもののほか、市長が必要があると認める事業(開館時間)

第3条 美術館の開館時間は、午前10時から午後7時までとする。ただし、第7条の規定による指定を受けて美術館の管理を行うもの(以下「指定管理者」という。)が特に必要があると認めるときは、市長の承認を得てこれを変更することができる。

(休館日)

第4条 美術館の休館日は、次のとおりとする。ただし、指定管理者が特に必要があると認めるときは、市長の承認を得てこれを変更し、又は臨時に休館することができる。

- (1) 月曜日(当日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下この号において「休日」という。)に当たるときは、その翌日以降の最初の休日以外の日)
- (2) 12月28日から翌年の1月4日までの日

(入館の制限)

第5条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当するときは、美術館への入館を拒否し、又は美術館からの退館を命ずることができる。

- (1) 公の秩序又は善良の風俗を害するおそれがあると認めるとき。
- (2) 美術館の管理上支障があると認めるとき。
- (3) 前2号に掲げる場合のほか、必要があると認めるとき。

(損害賠償の義務)

第6条 美術館の施設、設備、備品等を損傷し、又は滅失したときは、その損害を賠償しなければならない。ただし、市長がやむを得ない理由があると認めるときは、賠償額を減額し、又は免除することができる。

(指定管理者による管理)

第7条 美術館の管理は、地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条の第3項の規定により、法人その他の団体であって市長が指定するものに行わせるものとする。

(指定管理者の指定の申請)

第8条 指定管理者の指定を受けようとするものは、事業計画書その他規則で定める書類を添付して市長に申請しなければならない。

(指定管理者の指定の基準)

第9条 市長は、前条の規定による申請を審査し、次に掲げる基準に適合するものの中から、最も効率的かつ適切な管理を行うことができると認めるものを指定管理者として指定するものとする。

- (1) 事業計画が美術館の設置の目的を達成するためにふさわしいものであること。
- (2) 事業計画が美術館の効果的な管理を実現するものであること。
- (3) 事業計画に沿った管理を行うために必要な物的・人的能力を有していると認められること。
- (4) 管理の業務を適切かつ円滑に行うための経理的基礎を有していること。

(指定管理者の指定等の公告)

第10条 市長は、指定管理者を指定したとき、又はその指定を取り消したときは、遅滞なく、その旨を公告するものとする。

(指定管理者の業務の範囲)

第11条 指定管理者が行う業務の範囲は、次に掲げるとおりとする。

- (1) 第2条に掲げる事業の実施に関すること。
- (2) 美術館の施設及び設備の維持管理に関すること。
- (3) 前2号に掲げるもののほか、市長が必要があると認める業務(指定管理者の原状回復の義務)

第12条 指定管理者は、その指定に係る管理の業務の期間が満了したとき、又は指定を取り消され、若しくは期間を定めて管理の業務の全部若しくは一部の停止を命ぜられたときは、その管理しなくなった施設又は設備を速やかに原状に回復しなければならない。ただし、市長の承認を得たときは、この限りでない。

(委任)

第13条 この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

附 則

この条例は、公布の日から起算して12月を超えない範囲内において規則で定める日から施行する。ただし、第1条、第8条から第11条まで及び第13条の規定は、公布の日から施行する。

(平成22年規則第9号で、規則で定める日を平成22年5月1日とした。)

○静岡市美術館条例施行規則

平成21年11月12日
規則第103号

(趣旨)

第1条 この規則は、静岡市美術館条例(平成21年静岡市条例第50号。以下「条例」という。)の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

(入館者の遵守事項)

第2条 静岡市美術館(以下「美術館」という。)の入館者は、次に掲げる事項を守らなければならない。

- (1) 火災、爆発その他の危険を生ずるおそれのある行為をしないこと。
- (2) 騒音又は大声を発する等他人に迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- (3) 動物(身体障害者補助犬法(平成14年法律第49号)第2条第1項に規定する身体障害者補助犬を除く。)又は他人に迷惑を及ぼすおそれのある物品を持ち込まないこと。
- (4) 美術館資料、器物又は施設を汚損し、又は損傷するおそれのある行為をしないこと。
- (5) 許可を受けないで広告類を掲出し、又はまき散らす行為をしないこと。
- (6) 所定の場所以外の場所へ立ち入らないこと。
- (7) 所定の場所以外の場所で飲食をしないこと。
- (8) 喫煙をしないこと。
- (9) 許可を受けないで寄附金品の募集、物品の販売若しくは陳列又は飲食物の販売若しくは提供をしないこと。
- (10) 前各号に掲げるもののほか、指定管理者が管理上支障があると認める行為をしないこと。

(指定管理者の指定の申請書類)

第3条 条例第8条の規定による申請は、静岡市美術館指定管理者指定申請書(様式第1号)に、次に掲げる書類を添えて行うものとする。

- (1) 静岡市美術館事業計画書(様式第2号)
- (2) 静岡市美術館事業計画に関する収支予算書(様式第3号)
- (3) 定款、寄附行為又はこれに準ずるものの謄本
- (4) 役員名簿
- (5) 経営(事業)状況に関する書類
- (6) 前各号に掲げるもののほか、市長が必要があると認める書類(協定の締結)

第4条 市長は、指定管理者を指定したときは、当該指定管理者と美術館の管理に関する協定を締結するものとする。

2 前項の協定には、次に掲げる事項を掲載するものとする。

- (1) 事業計画に関する事項
- (2) 市が支払うべき管理費用に関する事項
- (3) 管理業務を行うに当たって保有する個人情報の保護に関する事項
- (4) 事業報告に関する事項
- (5) 前各号に掲げるもののほか、市長が必要があると認める事項(雑則)

第5条 この規則に定めるもののほか、美術館の管理に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、公布の日から施行する。ただし、第2条の規定は、静岡市美術館条例附則本文に規定する規則で定める日から施行する。

様式第1号(第3条関係)

静岡市美術館指定管理者指定申請書

年 月 日

(あて先)静岡市長

所在地(法人以外の団体にあつては、その代表者の住所)

申請者 名称

代表者氏名

印

電話

静岡市美術館の指定管理者の指定を受けたいので、静岡市美術館条例第8条及び静岡市美術館条例施行規則第3条の規定により、次のとおり関係書類を添えて申請します。

様式第2号(第3条関係)

静岡市美術館事業計画書

事業計画の理念・方針

実施事業の概要(事業の構成及び年間計画表)

実施体制図

特記事項(効果的に事業を行うための方策、市民サービスの向上のための施策等)

様式第3号(第3条関係)

静岡市美術館事業計画に関する収支予算書

収入			千円
	科目	内容・数量	金額
			千円
支出			千円
	科目	内容・数量	金額
			千円

平成31 / 令和元(2019)年度
静岡市美術館 年報 No.10
2020年12月 発行

編集・発行 静岡市美術館
〒420-0852
静岡市葵区紺屋町17-1 葵タワー3階
TEL 054-273-1515(代)
FAX 054-273-1518

印刷 松本印刷株式会社

©Shizuoka City Museum of Art 2020

